

始



正修小學地理書の研究及活用

2636

55

正修小學地理書の研究及活用

2636-55



終小
學地理書の研究及活用

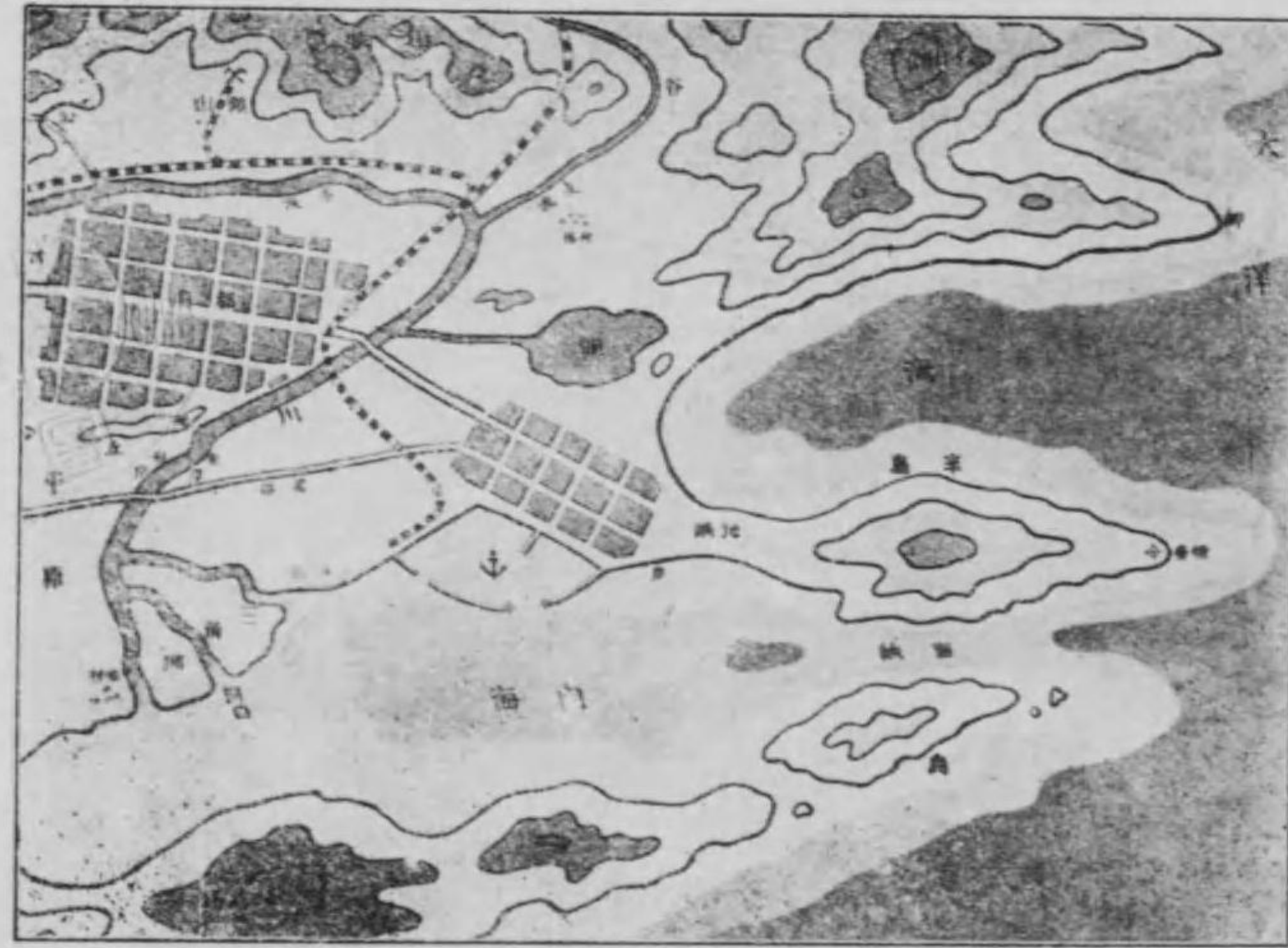
飯山七三郎校閱 東京地學研究會編

金港堂書籍株式會社發行

大正
8 12 20
内交



鳥眼圖



平面圖

口繪の説明

本圖は過去四ヶ年間に各教科に現はれたる地形並に術語を網羅し、之を實地に適合する様且つは模式的教材として理想的に組成したるものなり。

上圖(鳥眼圖)は該模式的模型圖を空中に飛揚せる鳥の眼に映じたる狀を寫したるものにて俯瞰圖ともいふ。下圖は同一地形を平面に描寫したるものにて所謂平面圖是なり。故に此等兩者の關係を十分に會得せば地理の基礎觀念を確實ならしむるを得べし。

例言

一、本書は、尋常小學地理書を教授する者の直接參考に供し、兼ねて小學校教員檢定試驗受験者の參考に便せんために編纂したるものにして、地理教授界の改良進歩を希圖するものなり。故に、記載の事項は尋常小學地理書の叙述に準據し、實生活の事情に鑑み、材料の正確を期すると共に、成るべく、趣味あり生氣あり實益あるものたらしめんことを期せり。

二、本書は、初の本會の調査員之を草し、之に基づきて、會員各自の經驗と抱負とに依り批評訂正を加へ、且つ編纂上の合議を重ね、更に飯山先生の嚴密なる校閲を経て上梓したるものなり。

三、本書記述の體裁・排列其他に關し、尙遺憾の點少からずと雖も、書肆より上梓の督促甚だ急にして、十分なる斧正を行ふの邊なかりしは、編者の遺憾とする所なり他日改版の機を見て訂正を行ふべし讀者之を諒とせよ。

四、本書の起稿若くは修補の際、參考として涉獵したる書籍は、内外の圖書、雜誌、新聞紙等數十種に上れり今は凡て之を省略せり。

大正七年七月

例言

編者識

修正小學地理書の研究及活用

(尋常科第五學年用)

目次

第一編 緒論 (準備教授編)

第一章 準備教授の要諦

- 第一節 準備教授の教授案……………一
- 第二節 準備教授の方法……………三

第二章 諸教科に表はれたる地理教材の回顧

- 第一節 國語科に表はれたる地理教材……………四
- 國語科地理教材回顧録……………五
- 第二節 其他の教科に表はれたる地理教材……………四
- 其一 算術科に於けるもの……………四
- 其二 修身科に於けるもの……………六
- 第三節 校外教授に關する教材研究……………六

第三章 基礎觀念の整理

- 一 校外教授の意義……………一六
 - 二 校外教授の目的……………一六
 - 三 校外教授の材料……………一七
 - 四 校外教授の方法……………一八
 - 教授案例 橫濱方面校外教授案……………一九
 - 五 校外教授實施上の注意……………二四
- 第一節 基礎觀念整理の必要……………二六
- 第二節 基礎觀念の整理案……………二七
- 第一 總論的記述の整理案……………二六
- 實例(大日本帝國)……………三〇
- 第二 處誌の整理案……………三三
- 第三 都邑の整理案(都會研究の要諦)……………三四

其の一 理想的都會の要件……………三六
 其の二 政治の中心地としての都
 邑の調査……………三七
 一 町村役場所在地の調査……………三六
 二 郡役所所在地の調査……………三六
 三 府縣廳所在地の調査……………三六
 實地調査の例(福島市)……………三六
 第四 港の整理案 例横濱港……………四一
 第五 生産物と生産業との關係整
 理……………四三
 第六 織物の種類整理……………四四
 第七 區劃の整理……………四六

第四章 自己の府縣地理の
 教授

第五章 地理教材の具體化
 第一節 教材具體化の要諦……………四九
 第二節 地理實習 附試食會……………五三
 地理實習の要目……………五三

第六章 地理附圖の活用方案
 第一節 總說……………五六
 第二節 地圖の必要條件……………五六
 第三節 地圖の讀み方……………五六
 第四節 地圖の觀念を養成すること
 の必要……………五六
 第五節 地圖は何時教授すべきか……………五六
 第六節 地圖の觀念の養成方法……………五六
 第一 平面の觀念を確實ならしむ
 べきこと……………五六
 第二 土地の高低を表はす方法を
 知らしむべきこと……………五六
 第三 縮尺縮圖の觀念を養ふべき
 こと……………五六
 第四 模式地の平面圖を描かしむ
 べきこと……………五六
 第五 鳥瞰圖の意義を知悉せしむ
 べきこと……………五六
 第六 地圖の觀念を得しむべき
 こと……………五六

第二編 本論(教科書活用編)

第一章 教科書の概観

第一節 教科書に對する態度……………六六
 第二節 教科書の特色……………六六
 第三節 教科書の組織及び分量……………六六
 第一 組織……………六六
 第二 挿入圖畫及び教材の分量……………六六
 第四節 記述の體裁並に要旨……………六七
 第一 大日本帝國……………六七
 第二 關東地方其他……………六八

第二章 地理的要素の取扱
 第一節 區分の取扱……………六九
 第二節 地勢・氣候の取扱……………六九
 第三節 産業の取扱……………六九
 第四節 交通の取扱……………六九
 第五節 都邑の取扱……………七〇

第三章 教材研究の實際

第六節 伊豆七島・小笠原諸島の
 取扱……………七〇
 第七節 挿畫挿圖の取扱……………七〇

第一節 地理教材配當表……………七一
 第二節 教材研究の實際……………七一
 第一 大日本帝國……………七一
 第二 關東地方……………七一
 一 境域……………七一
 二 地勢……………七一
 三 産業……………七一
 四 交通……………七一
 五 都邑……………七一
 六 伊豆七島小笠原諸島……………七一
 第三 奥羽地方……………七一
 一 境域……………七一
 二 地勢……………七一
 三 産業……………七一
 四 交通……………七一

五 都邑……………一〇一

第四 中部地方……………一〇八

一 境域……………一〇八

二 地勢……………一〇九

三 氣候……………一一〇

四 交通……………一一一

五 産業……………一一二

六 都邑……………一一三

第五 近畿地方……………一一四

一 境域……………一一四

二 地勢……………一一五

三 交通……………一一六

四 産業……………一一七

五 都邑……………一一八

第六 中國地方……………一二〇

一 境域……………一二〇

二 地勢……………一二一

三 氣候……………一二二

四 産業……………一二三

五 交通……………一二四

附録統計要覽

一 世界の面積及人口……………一

二 本邦の位置及標準時……………一

三 本邦の周圍及面積……………二

四 全國氣象摘要表(大正七年)……………三

五 本邦の區劃……………七

六 畿道國別表……………七

七 府縣別面積及人口……………八

八 重要都邑の人口……………八

九 民有有租地地目別反別及地價……………一〇

一〇 面積人口の耕地に對する割合……………一一

一一 東京日本橋より地方應元標に
至る里程……………一二

一二 國有鐵道線路名稱及哩數……………一三

一三 鐵道諸規程……………一四

修正小學地理書の研究及活用 目次終

目次

六 都邑……………一八九

第七 四國地方……………一九九

一 境域……………一九九

二 地勢……………二〇〇

三 氣候……………二〇一

四 産業……………二〇二

五 交通……………二〇三

六 都邑……………二〇四

第二編 結 論(教授の整理統括編)

第一章 整理統括の必要

第二章 整理統括の諸案

第一 「大日本帝國」の統括案……………二〇四

第二 「地勢」の統括案……………二〇六

第三 「交通」の統括案……………二〇八

第四 「都邑」の統括案……………二〇九

第五 「地方地理」の統括案……………二一〇

一四 鐵道連絡……………二六

一五 航路發着並賃金及運表……………二七

一六 内外國各港間航路運程表……………二八

一七 農產物產額……………二九

一八 果實產額……………三〇

一九 特用產物產額……………三〇

二〇 畜產現存數……………三一

二一 礦產物產額……………三一

二二 水產物產額……………三二

二三 工業物產額……………三三

二四 貿易一覽表……………三四

二五 主要港の輸出入額……………三五

修正小學地理書の研究及活用 尋常科第五學年用



第一編 緒論(準備教授論)

第一章 準備教授の要諦

第一節 準備教授の教授案

凡そ何科を問はず、教授を爲すに當りては、細心に之が準備を要す。特に地理科の如き、繁多なる材料と、各般の智識とを要する學科に於ては、其の必要の度は、他の教科に勝ること數倍なり。されば此の點に關し、由來、種々の論議の絶えざる亦知るべきなり。準備教授、即ち基礎觀念養成の方法などの云爲せらるゝ亦宜なりと云ふべし。乃ち其の方法として從來唱導せられたるもの、中、左の三種の説の如きは最も有力なるものとす。

- 一 日本地理に入る前に、郷土科を特設して、地理的智識の基礎たるべきものを授くる方法。
- 二 尋常科第四學年修了迄に、國語科又は校外教授等と連關して、地理的教材を按排し、地理の基

基礎知識を授けんとする方法。

三 尋常科第五學年に入りたる當初、特に時間を設けて、基礎知識を授けんとする方法。

第一案は、高等師範學校附屬小學校、その他に於て既に實行せられ居るものにして、多くは尋常科第三、四學年に於て、國語科の教授時間を割きて、毎週一時間位づゝ課する所なり。かゝる方案は小學校各般の事業を通じて必要且有効なるを認む。殊に我が地理科教授上には、缺くべからざる重要事たること、何人も論なき所なしと雖も、現行の規程に於ては之を許さざるを以て、一般には之を施行すること能はざるなり。當局者も之を遺憾としてか、國語教科書中に此等必要なる教材を添加せり、これ第二案の論せらるゝ所以とす。

第二案は、第一案の如く、特科を設けずして其の要求に應ずる爲に、國語科及校外教授に於て其の缺を補はんとする方法なれども、國語科等に於ては、其の科それ自體の目的ありて、直ちに之を地理的に扱ふことは困難なり。又兒童の精神作用も、未だ其の域に達せざる場合あるを免れず。是れ其の實質上、未だ此の第二案の是認せられざる所なり。是に於てか、第三案の必要を生じ來る。

第三案は、地理科の正當の教授時間に於て行ふものにして、教授上最も便且有効なるものなり。然れども、所謂基礎知識の範圍と程度とを測定することは極めて困難なり。是に於て種々の方法を見る。其の程度は次章に叙するが如く、尋常科第四學年迄の間に學習したるものを限度とし、又範圍も其の區域を出づべからず。且つ單に之を整理するによりて、其の効を收むべきを以て、是亦第三章に於て整理案を提供せる所以なりとす。

之を要するに、何れの案も、地理科の豫備的教授の必要なるを認むるものにして、只教授の前後に於て、或は教授の場合方法等に於て、其の差あるのみなり。吾人の據らんとするは、畢竟この第三案にして、之を以て今日の狀況に稍適せるものとす。以下各章に於て述ぶる所のものは、此の案を根柢として案出せる所のものなり。

第二節 準備教授の方法

前節に述ぶるが如く、準備教授の必要と其の時期とに於て決定的のものこそせば、之が教授は如何に爲すべきか。是は次に來るべき問題なり。而して是亦種々の方法ありと雖も、左の順序に據るを以て最も其の當を得たるものとす。

一 準備教授 既授の事項中、基礎的のものにつき問答し、兼ねて兒童の經驗をよく精査整頓し、且つ豫め定めたる場所に臨みて實地踏査を爲し、徹底的に説示すること。又兒童各自をして自由に觀察せしむるときには、その觀察踏査の要點及び要領を會得せしめて後、實地踏査に入らしむる爲十分の準備教授を要す。

二 實地踏査 準備教授の要領に基き踏査觀察を完からしめん爲には、教師の説明と相俟つて、兒童をして實地につき踏査せしめ、或は觀察事項を筆記せしめ、地理的事項の諸種の關係を考察せし

め、或は地圖と實地とをよく對照せしめ、讀圖の練習をなさしむること。

三 實地踏査後の整理 實地踏査施行後は必ず之が整理を爲し、或は地圖を製作せしめ、或は觀察事項を整理し、又は讀圖の練習を爲さしめて、之が知識を確實ならしむること。校庭砂箱等に於て模型を作らしむるも一方法なりとす。

第二章 諸教科に表はれたる地理教材の回顧

第一節 國語科に表はれたる地理教材

尋常科第四學年の終了迄に、國語教授中又は校外教授等に表はれたる教材にして、地理の基礎觀念養成に資するもの尠なからず。吾人は是等の教材に對し、確實なる立案の下に、精細なる調査を遂げ、親切に指導誘接するに於ては、世に喧傳せらるゝ如く、尋常科第五學年に入りて新に地理科の基礎觀念養成に關する論議は、最早や必要なきに似たり。然るに事實之に反するは何ぞや。之れ未だ盡さるものあるを以てなり。故を以て、吾人は茲に其の回顧の必要を絶叫するものなり。蓋し當該學年に在つては、兒童の精神作用は未だ之を十分に咀嚼するの域に達せず。爲めに十全なる内容の教材も、之を看過するの止むなき状態なり。故に形式上に充實すべかりしも、實質に於ては内容甚だ貧弱なるを免れず。斯る見地の下に、教授者は完全なる細案を立て、教授の進歩を圖ると同時に、機に臨み變

に應じて之が回顧をなし、其の補充を計りて完全を期すべし、かくして始めて吾人の理想は達せらるゝに近からむ。茲を以て吾人は次の如き精細なる回顧録を作り、座右に備へ置きて日常教授の便に供せり。若しそれ之を實地に活用するに當りては、土地の狀況と學校の事情とに鑑み、材料を取捨選擇する要は勿論これあるべしと雖も、今は只吾人の理想の一端を掲げ、教授者の參考に供するに止む。

國語科地理教材回顧録

尋常科第二學年

(注意 三の三、三の一五は尋常小學讀本、卷三第三課、卷三第十五課の略)

卷目	地理要項	記載事項	注意事項並觀察場所
三の三 野遊	草野、耕地。	青草中に赤・黄・紫の花 咲くこと。れんげ・た んぼ。	校外教授・遠足に附帶して、原野、耕地を觀察せしめ、地圖の讀解をなさしめ、進んで生業の一斑を知らしむ。
三の一五 右左	方位。	右左方	方位の觀念、殊に地圖上の方位を明確ならしむるは、將來地理學習上に至大の關係あるを以て、實地觀察に依り、目標又は模型地圖により、之が觀念を
三の一六 四方	方位四方の 觀念。	東日出 西日入 南右手 北左手	

第二章 諸教科に表はれたる地理教材の回顧

三の二二 うみ	海の觀念。 海—内海・大洋	水が青々。 青空と一所に見ゆ。 波靜かに舟沖にあり。	明確ならしむ。(旭の昇る繪畫) 字名(又は村名)各字の方位の實見。 (繪畫又は模型) 鹹水、廣さ、魚介。
四の一 町	市町村の區別。 市街・官衙・公署・學校・新聞社・銀行會社・病院・舊蹟・商工業。	學校を中心として文房具店・町役場・警察署・駐在所・郵便局・呉服屋・物の交換・町と村(田舎)・小間物屋・魚屋	郷土の大體を授くるに、學校(教室の實測平面圖方位等)より始め、郷土町村の職業産物に及ぼし、神社・寺院・古碑・古來模範人物・舊蹟等の教授には、歴史年代圖と對照して、年代の觀念を附與す。
四の二 山の上の みはらし	山の觀念。 町の形・山川・道路・鐵道・田畑・模型—平面地圖及讀圖の觀念・地圖上の方位・山川・道路鐵道・都會等の符號。	町が一目に見える。自分の家。家の見え方。山・川・橋。人の見え方。	校外教授 町村役場の所在・學校・字名・人口・山川・道路・距離・方向・居所より近村の町村役場への交通狀態を知らしめ、進んで模型により略圖せしめて、郷土の觀念を得せしむ。

四の五 ふじの山	火山の觀念。 火山の形式・裾野。	日本一の名山。	頂上・麓・坂路。 高さ・分水界、山と平地等を、郷土の實地につき觀察せしむ。
-------------	---------------------	---------	--

尋常科第三學年

五の四 水のたび	川の觀念。 上流・中流・下流 合流・本流・支流 分流・左岸・右岸 (産業・物産)	雨の一滴。谷川瀧をなす。中流・田島・魚・合流して大なる。川と船との關係。下流—平地。河口—海。利用。	郷土の川に依り、水源地を觀察せしめ流の名稱・平野・灌漑・人文の發達を知らしめ、渡場・橋・交通・運輸の一般を知らしむ。 水源の説明より、山の直觀をもなさしむ。
五の一四 ていしや ば	汽車。 (交通)	人の汽車に上下・送迎 人・改札口・汽車と時間。(正確)	停車場又は郷土より近き停車場の線路及び連絡・終點・行先・交通機關の一斑を知らしむ。
五の一五 汽車のた び	距離と時間。	山川・野・原・林・人・馬・車・鐵橋・トンネル・海邊。	地形とトンネル。 交通地圖の觀察。

六の一 日本	日本全圖により 讀圖力養成。海 岸(灣・半島・岬・ 海峽・地峽)氣候。	島國・海岸・岩山・砂原・ 小松原・山(松・杉・檜) 春夏秋冬。	模型により地理學上の熟語を知らしむ (又は砂箱の利用によりて) 我國の景色。川及び海岸の景色。川と 交通。 學校・家庭、行く所として觀察せられざ るなし。
六の二 四季	晝夜四季の氣 候。	日・月・年・一年・四季・ 春(溫)・夏(暑)・秋(涼) 冬(寒)	校外教授又は遠足に附帶して、郷土に 於ける既得の觀念を確實ならしむると 同時に、山脈・市街と村落との生活の差 異、郷土に於ける産物並に附近生業・副 業等をしらしむ。
六の三 遠足	地圖の觀察。中 腹・峠・分水界・ 山脈・方角・八 方・各種符號・同 高線・縮尺・平面 圖。	日本晴れの天氣。橋の たもとに集り川に沿ひ て進む。たんぼに出づ。 黄波・森・社・鳥居・後の 松山・山へ登る道・細く 険しき道・山を下る別 の道。	郷土の繪畫的側面圖と、同大の平面圖 との比較。 校園にて、綿・麻・カラムシの生育の状 態を觀察せしむ。(動物園に於ても)
六の一〇 織物	織物の種類及び 概観。	絹織地・木綿織地・麻織 物・毛織物。	名勝地の觀察。 京都の地圖。
六の一二 京都から の手紙	日本地圖。	京都見物・御所・東山・ 清水寺・三十三間堂・銀 閣寺・金閣寺・北野天神。	模型・繪畫・寫眞の見方。

六の二三 港	港・交通・航路・鐵 道の連絡・貿易 港の發達要素。	船が一ぱい。帆柱は林 をなす。汽船・ハンケ。 和船・帆掛船・汽笛をな らす。出帆・荷物上下の 有様。 難波・仁徳天皇の都。秀 吉の居城・商業盛なる 都會。仁徳天皇時代と 今時の比較。今は工 業。淀川分流して海に 入る。洲をなす。港・ 船の出入。	郷土に於ける川により交通・運輸の状 況を知らしむ。 港の設備。(波止場・棧橋)
六の二四 大阪	河口・三角洲、都 會の發達と地 勢、都會發達と 交通との關係。 開港場・都邑・地 勢。	大阪の地圖。 商工業の大都會、築港の模様。	

尋常科第四學年

七の一六 東京見物	日本地圖 讀圖力養成。	市内電車。銀座通り。日 本橋魚市場・上野公園・ 動物園・博物館・パノラ マ・櫻ヶ岡より見下し る浅草觀音・勸工場。	郷土の停車場に連絡し交通の一斑、名 所、舊蹟、並に川の觀念、城址・神社・佛 閣・墓等歴史的材料を知らしむ。 川については、略圖製作、郷土地圖と 對照比較す。
--------------	----------------	---	--

七の二一・ 二の二 海の生物 七の二四 航海の話	海棲動物。 交通、航路、鐵道の連絡、貿易港の發達要素。	仁王門・水族館・隅田川・向島・宮城丸の内・二重橋・銅像・櫻田門・日比谷・諸官衙・九段坂・靖國神社・遊就館・芝公園・四十七士墓・魚介・海草・海獸。	東京地圖の讀解。 動物園、水族館、海產物販賣店。 模型・世界地圖・海圖について海灣・半岬・島・海峽・地峽・並に海水の性質・効用・潮汐・海岸線を知らしむ。
七の二五 同上	海圖の讀方。 航路標識。	いかりをぬいて出帆。島・一物も見えぬ。青水のみ目に入る。日の出日の入りには水色金色を呈す。鯨の水吹き。いるか・飛魚、外國の港につく。見るもの聞くもの異なる。 暴風雨のときの山なす波。霧の時一寸先も見えぬ。淺瀬。他船との衝突。	模型、繪畫、海圖により方位並に海國思想を養成す。 航海の困難。

八の一七 近江八景	名所舊蹟の意義	突。羅針盤。星にて方位角を見分ける。海岸には燈臺。日本は海國。海を恐れてはならぬ。琵琶湖名の起。瀬田の夕照。粟津の晴嵐。石山の秋月。比良の暮雪。唐崎の夜雨。堅田の落雁。矢走の歸帆。三井の晚鐘。綿糸機。木綿織物。カスリ。藍。紺。淺黄。縞物。	船員の編制。 海國の國民。 名所舊蹟・池湖を知らしむ。 川の實地調査を爲さしむ。
八の一八 木綿着物の由來。	織物・縞物・染方の觀念。	日本。亞細亞大陸の東にある島國。 東、亞米利加大陸。合衆國。農工商業盛んにして富む。 西、英吉利島國、商工業盛んに、海軍強し、	商店に於ける木綿類の觀察。 方位 世界に於ける日本の位置。 交通 航路・鐵道。海洋・内海。 位置・境界・面積 方里・地勢等を知らしむ。
八の二二 世界の話	地球の觀念。 世界地圖の讀解。	地球儀 六大陸 三大洋	

八の二三
同上

海陸の面積。
半球
氣候帶、人種別。

首府 ロンドン。歐羅巴大陸。佛蘭西、工藝美術發達し、首府巴里。獨逸、學問開けたり。露西亞、領地廣し。亞細亞大陸。西比利亞鐵道。印度支那。亞弗利加大陸。地中海。印度洋。世界は圓し。

地球表面 $\left\{ \begin{array}{l} \text{水} \quad \frac{2}{3} \\ \text{陸} \quad \frac{1}{3} \end{array} \right.$
南半球、陸少し。
北半球、陸多し。

北極、南極、半年晝夜の所あり。氣候全く反對氣候。三帶寒・温・熱帶(日本)。

方位、晝夜、四季、年、月、日、人口、氣候等を知らしむ。
地球上に於ける日本の位置。

八の二六
名古屋

市街と村落。
市街と村落との關係。平野と都會。都會發達の要素。

地球表面に住む人類は十六億。歐羅巴人。皮膚白く、髮赤く・眼青し。亞弗利加人。黒し・縮れ毛。日本人。黄・黒し。東海道旅行中目につくものは、富士山・名古屋城・家康の造りし城。天守閣・清正等の築きしもの。金の鹹・天守閣の上にある。之にて名高し。名古屋市・平野の中にあり。四通八達。東海道第一の都會。鐵道通す。商工業盛。焼物・塗物・扇・綿糸・織物。年々人口増加す。熱田。名古屋の一部、築港運輸開け、産業盛んなり。

郷土に於ける都會の觀察により、山・平野、産業交通につき知らしめ、進んで郷土の比較に入り、更に郷土が縣下に如何なる地位を有せるかを明瞭に知らしめ、更に校外教授により實地を踏査せしめ地圖を製作せしむ。

第二節 其他の教科に表はれたる地理教材

地理的基礎觀念に密接の關係ある教材は、第四學年迄に於て他の諸教科にも表はれたり。教授者は之等の教材をも顧慮して之を整理し、地理の基礎を確實ならしめんことを要す。

其一 算術科に於けるもの

イ 距離(里程)に關するもの

ロ 面積(求積)に關するもの

ハ 曆に關するもの

イ 距離に就て

題目、頁數	要項	注意事項並觀察場所
一 尋三、四七頁 乘法。	一 里、町、間、尺の名稱、及其の相互の關係並に實測。	一 短距離なるものは、教場内及び校庭に於て二點間の距離を實測し、之れを直觀せしめ、進んで目測に移るべし。
二 尋四、三四頁 里程。	二 距離の觀念。	一 少しく遠距離なるものは校外教授又は遠足旅行の機會を利用す。 斯くして距離の觀念を得せしめ、地理科(殊に地圖)と聯絡せしむ。

ロ 面積に就て

一 尋三、二七頁 減法。 五二頁 乘法。	一 町、段、畝、歩の名稱及其の相互の關係並に實測。	一 教場の面積又は校庭の面積の如きは、之を兒童と共に實測して、面積の觀念を得しむ。
二 尋四、四四頁 地積。	二 面積の觀念。 三 距離と面積との關係。	一 少しく大なる面積に付ては、校外に於て目測に訴ふ。
二 尋四、四七頁 應用題。 求積。	一 面積の求め方(求積)但し、立方形及距形に於て。	一 面積と距離との關係を地圖上に於て測定せしむるには、縮尺と縮圖とにつき多大の注意を要す。
		一 校庭等に於て兒童をして實測せしめ、其の計算の結果の正確なるを會得せしむ。
		一 求積と地理科(殊に地球、地圖)との關係。

ハ 曆に就て

尋四、五七頁 曆。	一 曆の大要、細項。 イ 大の月、小の月。 ロ 平年、閏年。 ハ 晝間、夜間。	一 曆と地理科(殊に天文)との關係。 二 四季に於ける晝夜長短の差につき、春分、夏至、秋分、冬至等、時を定めて天體の觀察を爲さしむ。
--------------	--	---

其二 修身科に於けるもの

茲には兒童用修身書に表はれたる地名のみを掲ぐるに止めん。尋一、三にはこれなし。

尋二 新潟縣、愛知縣、ロシア、旅順港、日本。

第四 廣島、支那、臺灣、熊本、東京、尾張、遠江、京都、播磨、イギリス、クリミア、根府川、小田原。

第三節 校外教授に關する教材研究

校外教授も亦地理の基礎觀念の要素たるを以て、之が施設方法は看過すべからざるものなれば、左に之が要領を掲げて參考に供す。尙該科に關する教材は各校各様なれば該回顧録は之を省く。

一 校外教授の意義

校外教授とは、學校内の教授に對する名稱にして、其の範圍甚だ廣し、即ち校外に於ける自然物・自然現象・人事現象并に其等相互の關係を觀察考究せしむる爲に行ふ教授の全部を云ふ。素より之が豫備教授・整理補正等教室内に於ける教授をも含む。蓋し教授の主なる課業は、校外の觀察に在るを以てなり。

二 校外教授の目的

校外教授は左記の目的を以て舉行し、兼て兒童の見聞を擴め、觀察力の練磨、研究的興味の喚起、訓練の實習等に資するものとす。

一 教室に於て、直觀教授をなし得られざる教材を教授せんとする場合。

二 實地に就て教授する方、遙かに有效確實なる成績を挙げ得べき教材を教授せんとする場合。

三 校外教授の材料

校外教授の材料中には歴史、理科、社會的事項等を含むも、茲には主として地理教授の基礎となるべき事項のみを掲ぐ。

一 地理的事實を理解せしむる材料

1 自然地理に關するもの

- 位置、方位、面積、距離、日月、星辰、四季、晝夜、山岳（山嶺、山腹、峠、山麓）山脈、附火山
- 温泉、谷、丘陵、平野、高原、高地、平地
- 河流（河源、上、中、下流、本支流、左右）
- 湖沼、田畑、山林
- 地質、地層、地味
- 海洋、港、灣、岬角、半島、島
- 海峽、地峽、海岸、海岸線、洲（遠淺）潮汐
- 氣象（四季、寒暑、乾濕、風雨）
- 天産（動物、植物、礦物）

2 人文地理に關するもの

- 住民（都會、村落、戸口、風俗）
 - 産業（農業、牧畜、漁業、商工業等）
 - 交通（道路、鐵道、航路、郵便、電信等）
 - 行政（府縣廳、郡市區役所、町村役場、稅務署等）
 - 司法（裁判所、警察署、派出所）
 - 立法（議會）軍事（兵營）
 - 學校、社寺、會社、工場、名所、舊蹟
- 二 地理的理法を理解せしむる材料
- 1、自然的方面
- 地勢（川の作用（侵蝕、運搬、沈積）地勢と河流と舟運及灌溉、平野と住民、地勢と産業、湖沼の利用等）

氣候〔土地の高低と気温、気温と生物、雨量と植物、暴風と農産等〕

る材料
山地と住民、平野と戸口、住民と産業、都會と交通、市、町、村、郡、縣の行政

2、人文的方面
交通〔平野と交通、山岳と交通、海洋と交通、川と交通、交通と産業等〕

四 地圖を理解せしむる材料

都會〔都會發達の要素、都會の繁榮、都會と村落との關係等〕
産業 天産と産業、産業と都會

物體の平面及側面に關する觀察、距離・面積の概測、記號と實地との對照、描圖の作業、地圖の讀み方

三 土地と人、人と人との相互關係を知らしむ

尙ほ第三章の基礎觀念の整理案を参照すべし。

四 校外教授の方法

校外教授は左記の方法によりて舉行す。

一 準備

教授案は教授細目に基きて、教材の調査と實地の踏査とを綿密にし、然る上にて作成し、以て校外教授の成功を期すべきものとす。

實施に先ち、必ず前述の回顧録を精査し、之と關聯したる準備教授をなし、方面并に觀察すべき事項等の要領を示し置くものとす。

二 教授案の一例 東京府青山師範學校附屬小學校に於て實施せしものに據る。

三 實施の際は、目的の教材に就き全兒童をして十分の觀察を遂げしめ、質疑を氷解せしめて遺憾

なからしむるものとす。

四 教授したる事項は、施行後之を整理し置き、他日關係教科目教授の際十分に再び想起せしめて其の効果を完了せしむべきものとす。

◎横濱方面校外教授案 附圖校外教授兒童用地圖第九圖(横濱、神奈川、鶴見方面)

一 目的

- (イ)横濱市の大觀
- (ロ)横濱市の觀察
- (ハ)横濱市の歴史
- (ニ)横濱に到る途中の地理、歴史、理科

二 通路

往路 學校…澁谷驛…(電車)山手線…品川…電車乗換(院線||東海道線)…大井…大森…蒲田…川崎…鶴見…東神奈川…神奈川…横濱…櫻木町(下車)
(徒歩)野毛山—横濱港—支那人街—本牧三溪園

復路 三溪園…(電車)横濱市内—櫻木町…(電車)…澁谷…學校

三 通路及沿道の地理、歴史、理科事項

品川町 1 山手線の起點及東海道線との連絡點 2 徳川時代に於ける東海道五十三次の第一驛

- 3 人口凡二萬五千、荏原郡役所、各種の工場、會社あり。
- 4 私線 京濱電車の起點
- 5 附近の町村と共に東京市に對し物資の供給地
- 大井町 1 東京毛織會社(西一町) 2 日本毛織會社(東二町)
- 大森驛 1 八景園II梅の名所 2 夏の海水浴場 3 池上本門寺II日蓮宗の本山
- 六郷川 多摩川の下流の名稱、東京府と神奈川縣との境界をなす、この邊、桃、梨の栽培盛なり、歴史に名高き矢口の渡は、鐵橋より約一里上流にありて新田義興の戰没地なり。
- 川崎町 1 神奈川縣下にありて、大なる會社、工場數多し。 2 川崎大師金剛山平間寺のある所。
- 鶴見町 1 總持寺II石川縣(能登國)にありし曹洞宗の大本山を移したるもの、境内に一萬八千坪の大公園もある。 2 生麥事件の碑 文久三年八月廿一日薩摩の島津公通行の際一英人がその行列の先驅を横ざりしかば警固の武士その無禮をとがめて斬捨てたり、その後英國との交渉となり談判甚だ六敷かりし、今その斬捨てたる所に一小碑を設く。
- 東神奈川 1 海水浴にて名高き新子安は程近し。

神奈川

- 2 横濱線の分岐點、今横濱市に編入せらる
- 1 今横濱市に屬す
- 2 徳川幕府の末に於ける外國との談判ありし所、驛の北方四町許の處に本覺寺と稱する一寺あり、安政五年徳川幕府が北亞米利加合衆國の使節ハルリスと通商條約を結び此の寺頭に星旗を樹てたる所なり。本邦に外國公使館ある實に此の寺を以て嚆矢とす。 3 昔、東海道の一驛たりし所なり。 4 横濱驛より櫻木町に至る間に右側の丘上に一つの銅像あり、是れ伊井直弼の銅像なり。直弼は徳川幕府がハルリスと通商條約を結びたる時の大老なり。
- 横濱市 1 位置 東京灣の西濱、東京を距ること南八里。 2 沿革 昔時は僅に八十戸許の漁村なりしが、安政六年五月此の地を開港場と定めてより、長足の進歩をなしたり。即ち徳川幕府が北米合衆國と通商條約を結びその結果神奈川、函館、長崎、新潟、兵庫等を開くことを約せり。その神奈川とは即ち今の横濱なり。當時横濱が神奈川の名のもとにありしに、今は横濱のうちに神奈川の屬するにいたる面白し。

- 3 人口凡そ四十餘萬に達し帝國第六の都會、神奈川縣廳の所在地。

4 我國貿易額(大正六年度)

總額二十六億三千八百萬圓	輸出額十六億三百萬圓
橫濱市貿易額(同年度)	輸入額十億三千五百萬圓

總額九億五千四百萬圓

輸出額六億六千七百萬圓
輸入額二億八千七百萬圓

輸出品の主なるもの

生絲、羽二重、銅、茶、

輸入品の主なるもの 綿、米、砂糖、石油、鐵及鐵製品、

5 橫濱港は我國第一の貿易港にしてその何故に發達せしかを尋ぬるに

イ 本州島の中央部に於ける第一の良港なること、

ロ 港としての種々の設備完成し居ること、

ハ 近くに東京市を控ふること、

ニ 我が全國の略中央に在ること、

ホ 太平洋を前に控へ、又產物多き關東地方を後に控へるること、

ヘ 交通便利なること、

ト 東はアメリカに對して居ること、

6 市の產物、手巾、七寶燒、陶磁器、硝子器、漆器。

7 野毛山の展望

野毛山は市の西部に位し掃部山に連れる丘陵地、山上に大神宮を祀る此の地は港の内外の展望によく其の大觀を得るに適す。

8 三溪園

本牧で電車を下りて約三町の處に三溪園がある、本園は橫濱の富豪原氏の別莊のある所で、大さう景色よく春は梅・櫻・つつじなど時を追ひて咲き誇り、花菖蒲・蓮等もつゝいて開き、秋は又萩を以て名高い、四季とりづくに面白いながめがある。この園は原氏が私財を投じて都人士のために公開したもので、品格高雅自ら普通の公園と其趣を異にしてゐる。園内は廣潤で神社佛閣其の他の名勝が澤山ある。

イ 楠公社はもと河内國勸心寺の境内にあつて建武元年楠公の建立したもので、明治四十三年に此處に移した時、楠公の像をも安置したのである。

ロ 三溪園神社は、明治十年に江戸の人河村氏が朽木縣の製絲場内に建立して、非常に信仰したものを此處に移したのである。

ハ 寒月菴といふのは茶室で、園の前方にある。もと前の河村氏の江戸の邸にあつたもので元祿時代には義士大石良雄の屢々來遊した事のあるといふ由緒ある所である。

ニ 東慶寺はもと鎌倉松ヶ岡にあつたので、その歴史を尋ねると弘安八年北條時宗公が薨去した後、公の夫人が薙髪して尼となり名を覺山大和尚と云ひ、當寺を建立したものである。又俗に駈込寺とも云ふ。

ホ 三重の古塔は奈良の東明寺より移したものである。

ヘ 原善三部氏の偉風堂々たる銅像もある。

ト この外、田舎屋、横笛庵、初音茶屋等の休むべき所がある。

9 汽船見學

イ 日本郵船會社の香取丸(九九〇六噸)

ロ 米國航路の新型客船

10 理科方面

イ 沿道の耕作物、花卉野菜類の眺望、ロ 園内の花卉及植物の觀察

ハ 三溪園の海岸に於ける海水並に海棲生物の實驗

五 校外教授實施上の注意

校外教授遠足等、兒童を校外に引率する際に於ける注意に關しては、大正二年九月二十五日の東京市の通牒は、其の要を得たるものなり。参照するを要す。

一 距離時間及引率教員數

1 距離

イ 尋常小學校第一第二學年 二十五町以内(片道)

ロ 同 第三第四學年 一里半以内(同)

ハ 同 第五第六學年 二里以内(同)

ニ 高等小學校第一第二學年 二里半以内(同)

但汽車・電車等を利用する場合に於ては、以上の標準に據らざるを得べしと雖も、次項の時間の範圍内に往復し得べき地點を選ぶを可とす。

2 時間

イ 出發時間 普通の始業時間。ロ 歸校時間 普通の終業時間。以上の規定を本則とするを以て、若し之を早め又は延長するも、三十分を超ゆべからざるものとす。

3 引率教員數

擔任教員の外なるべく補助教員を付すべし。但必要に應じ使丁を伴ふものとす。

二 出發前に於ける心得 (以下は省略して題目のみを掲ぐ)

- 1 家庭に注意すべき事項
- 2 兒童に注意すべき事項
- 3 途上に於ける注意
- 4 目的地に於ける注意
- 5 歸校の際に於ける注意

第三章 基礎觀念の整理

第一節 基礎觀念整理の必要

前項に掲げたる如く、諸教科に表はれたる地理教材は、千差萬別にして其の量も亦多し。之に依りて尋常科第五學年に入り來れる兒童の地理科に關する智識の程度、并に精神界の狀況は之を知るとを得べしと雖も、既に述べたるが如く。こは單に形式上の論にして、之を以て直ちに兒童の智識なりと斷言すること能はざるは、實質上より見たる實際論なり。是に於て尋常科第五學年の當初に於て、一は以て兒童の智識を精査し、一は以て之が智識の整理統括を必要とす。此點に關し世論の喧しきは亦故あることにて、余輩亦其の整理の必要を認むるものなり。何となれば、前項は、形式上兒童が如何なる智識を如何なる程度に學修し來れるかを回顧するに止まり、何等系統的に組織的に統括せられ居らざるを以てなり。其の之を整理するに當りては、種々の事項を補足して次の如く統括し、茲に完全な

る地理要項の着眼點を抽出するを得べし。かくて又此の各要項を實地に照合し、精細に觀察攻究を遂ぐるときは、地理の基礎的要素の觀念は全然具備せらるゝを見る。故に之を整理統括せば、茲に實質的に系統的智識は組織せられ、其の智識の保存上及び再生上乃至は活用上に心力の輕減を來し、所謂能率増進を圖ることを得べし。而して之を生徒の過去の經驗乃至は實生活等に訴へ、調査研究を格せば、精神界は統一せられ、智識は一點に凝結し、牢乎として拔くべからざる一種の歸着點に到達す。然るときは、新に各國各洲又は各事物の事象を觀察するに當りて、之が其の研究の標的となり、漸次に之を擴充して、遂に左記の如き理想的のものとなすことを得べし。かくて生徒は各項各場合に準據し對照しつゝ考察するの便を得て、智識は益々確實となるべし。且又此項目に依りて調査研究するときは、該地の地理現象は一も漏す所なく精査され、爲に地理的事項の價値の有無は立所に指摘せられ、明瞭に批判せらるべきなり。

本章に於いては之が基礎事項を實質的に取扱ひ、以て眞の基礎觀念となさしむるに在り。更に節を更めて其の方法の概要と實例とを叙すべし。

第二節 基礎觀念の整理案

以下の諸表は、前項の如く諸教科及び校外教授等に於て、教授の際實地觀察せしめたる事項を基礎

とし、尙ほ足らざる所は之を補充して、整理統括したるものにして、何れも理想的要件を具備せるものなり。故に之を以て各事項、各場合に於いて、考查尋究の便に供せんとするにあり。

第一 總論的記述の整理案

總論的記述の場合に既授の基礎的觀念を整理するには、之を總括して自然と人文との二とし、更に之を大綱と細項とに分ちて左表の如く系統的に整理し、秩序整然たらしむ。吾人は之を地理研究の雙眼鏡と名づく。即ち或地の地理現象を概觀的に觀察調査する場合には、先づ自然地理研究の要項に照し各項に互りて、其の事象の存否と發現の狀態とを尋究し、以て各項相互の關係を明確にするの便に供す。次に人文地理研究の要項に據りて同様に攻究し、其の地の地理的事象の狀況を判明するを得て、茲に始めて興味を湧出せしむ。左に地理的研究の要項概覽と該要項適用の實例とを掲ぐべし。

大綱、細項

内

容

方位	四方位	八方位	方位の定め方(磁石、北極星)
位置	關係上	四周の關係による相對的位置	
面積	或る耕地、湖沼、練兵場等の面積		
境域	廣袤(距離)	同前の東西南北又は或る往還の距離	廣義の境域
	四隣	四周の町村との接壤の狀態	

自然 地勢

海岸	港灣、岬角、島嶼、半島、海岸線、波浪、潮汐、海岸の利用。	
山岳	丘陵、山頂、山腹、麓、分水界及高低。山と産物。山と風景。	
河流	河源、河口、上・中・下流、流域、湖沼、水力利用、川と風致。	
平野	田畑、市街、宅地、牧場、地質及地味、平野と人文。	
氣温	教室内外の寒暖。天氣豫報と氣象觀測。	
氣候	氣壓	風の方向、強弱。
	濕度	雨雪の日數及降水量。
動物	河海山野に於ける鳥獸蟲魚の種類並に數量。	
植物	河海山野に於ける草木、花卉の種類並に數量。	
礦物	河海山野に於ける岩石、礦物の種類並に數量。	
戶口	疎密の事情。	

住民

民族	風俗、氣質。
宗教	(神社)神道、佛教、寺院、基督教、教會。
教育	初等、中等、實業其他の専門教育。圖書館、新聞、雜誌、博物館、動物園、植物園。
立法	市町村會、郡會、府縣會。

人文

政治 司法 裁判所、登記所。

行政 町村役場、市、郡役所、府縣廳、稅務署、兵營。

漁業 鑛業、(獲得業)氣候と産業。

農業 牧畜業、林業(助成業)、地勢と産業。

各種の工業、(加工業)工場の種類、天産と工業。

商業運搬業、(媒介業)商店、會社、市場、銀行。

通信 郵便、電信、電話。

交通 陸路(國・縣・里・道) 鐵道。

水路(河路、海路(航路))

運輸 運送具……車、馬、船舶。

實例(大日本帝國)口は便宜卷二の帝國地理概説に據る。

位置……アジャ洲の東部に位す。

成立……日本列島大小の島々より成る。主要部(樺太南半)千島列島、北海道本島、本州。小笠原諸島、四國、九州、琉球列島、臺灣、朝鮮半島(アジャ大陸の東部に突出す)とより成る。

境域 廣袤……東北より西南まで長さ一千二百里。

面積……四萬三千餘方里……(各大部の面積比較)……後章の比較圖参照。

自然

四周(隣) 北……オホーツク海、日本海、黃海、東支那海等をへたて、西……ロシア領、シベリヤ及支那に對し、滿洲及樺太にては地つゞきとなる。南……アメリカ合衆國領、フィリピン群島に接し。東……太平洋をへたて、北アメリカ洲に對す。

山岳……國內山岳多し。

河川……河川概ね急流なり。

地勢 平野……大いなる平野に乏し(地味よく肥ゆ)。

海岸……海岸線の屈曲多く、良港に富み、天然の風光亦遠く他國に秀て、地理上の利益を享くること甚だ大なり。

氣候 氣溫……北部には寒さ強く、南部には暑さはげしき所あれども、大部は氣候概ね溫和なり。

氣壓……(省略)

濕度……(氣候おほむね溫和にして)雨量少からず。

動物……

天産 植物……種々の天産に富み住民の生活に適す。

鑛物……

人分

住民

人口……國民の總數七千餘萬に上る。
種別……〔大和民族(五千四百餘萬)、朝鮮人(一千六百萬)、臺灣土人(十餘萬)、支那民族(三百餘萬)、アイヌ其他(約二萬)〕
性質……ひとしく忠良なる帝國の臣民なり。

區分

行政上……三府、四十三縣、二廳、二總督府、一都督府。
地理上……本州(五)四國、九州、臺灣、北海道、樺太、朝鮮、關東州の十二地方別。

治政

立法、司法……
中央・地方の行政……及教育、軍備につき詳細を極むるも略す。

業産

獲得業……水産業(鱒・鯉・鯪・昆布等の産に富む)。
鑛業……鑛産の種類多く石炭と銅とは量多し。
助成業……農業(米・麥・大豆・菜種・甘藷・茶等)。
養蠶業……各地に行はれ生絲の産亦多し。
加工業……諸種の工業發達(綿絲・絹織物等の製造殊に盛なり)。
媒介業……商業(外國貿易)輸出品(生絲・綿絲・絹織物・銅・茶・石炭・綿織物・マッチ・其他)輸入品(綿・鐵材・鐵製品・豆粕・毛織物・砂糖・石油・米・其他)取引先……米・清・英の三國。

交通

通信……省略
運輸……陸路(鐵道)關東、近畿の二地方、九州北部に發達す。
水路(航路)沿海に到る處船舶出入多し。
外國(橫濱・神戸等)を起點とし廣く諸洲に通ず。

國民之覺悟

國威國力を進め世界の強國に伍し、奮勵努力以て益々邦家の隆昌を期すべし。

第二 處誌の整理案

人類は地表を以て住處となし、茲に活動して諸種の現象を惹起するが故に、土地自然の形勢、並に之に隨伴する種々の現象は、住民の疎密、施政、産業並に交通の發達と密接なる關係を有するものなり。而して此の地文と人文との交錯して發起消滅する狀況は、吾人の生活上常に知らざるべからざる緊要事項なり。これ各地に於ける人類活動の狀況、即ち處誌の研究忽にすべからざる所以なり。

村落

意義……人類社會の簡單(原始的)のものにて人類聚合の最も疎なるものなり。
種類……農村・漁村、或は散村・集村・列村・鏈村・環村等は、人類聚落の狀と生産の種類とによる別なり。

都會

意義……人口二千以上密集せる永住的團體を謂ひて、市・區・市街・都・府等の名稱あり。
起原……軍隊衛戍・宗教・政治・名勝・舊蹟・學術・交通・産業等の中心地に起る。我が國は古來城下町と稱し、政治を以て中心として起れるもの多し。
種類……起原既に斯の如し。種類亦之に依りて定まる。軍事的・宗教的・政治的・歴史的・學術的・交通的・工業的・商業的等。

勝地、名所は現代人類の心神を爽快ならしめ、延いて愛國の性情を養ふ。
勝地、或は過去に於ける名所、若くは人類の活動場裡たりしものにして、之に依り
名勝、舊蹟……
て土地變遷の次第を知ると同時に、當時住民の活動の状態を推考するの資たるものな
れば、輕々に看過すべからざるものなり。

第三 都邑の整理案 II 都會研究の要諦

其の一 (理想的都會の要件)

左記は東京府青山師範學校にて地理の初歩教授の際、實施せるものにして、吾人の採れる方法と一致せるものなれば、「該校教
育の實際」より採抄したるものなり。

左表は、準備教授等に於いて實地觀察せしめたる事項を基礎とし、尙ほ足らざる所は之を補充し、一
國の首府として立てる都會は、理想の要件を具備せることを知らしめ、之を以て都會批判の標的とな
し、都會研究の便に供せんとするに在り。幸ひ本校生徒は之を實地見聞し得る地に在るを以て、之を
活用するの知識を得しめんが爲め、教室に於て約三時間を費して東京の案内をなす。各生徒は、之に
よりて觀察すべき場所、事項、順路等を定め、半日乃至一日の時間と、約十七錢(電車、汽車、汽船賃)の
費用とを投じて、東京の見學并に其の報告をなす。かくして得たる知識を整理して、記憶に便ならん
が爲め左記の如く概括したるなり。

要項 内容

(例東京市)

- 一 位置 東京灣に臨み隅田川に跨る。
- 二 廣袤 東西二里廿六町。南北三里十二町。
- 三 面積 四、七方里。
- 四 人口 二百十八萬六千餘。
- 五 地勢 西北部は高燥なる臺地(山ノ手)。東南部は卑濕なる低地(下町)。
地勢上。山の手、下町。
- 六 區劃 行政上。十五區(麴町・神田・日本橋・京橋・芝・麻布・赤坂・四谷・牛込・小石川・本郷・下
谷・淺草・本所・深川)。
- 七 繁榮の要素

1 政治 地方政治 II (東京府廳・警視廳・東京市役所)。

中央政治 II 首府(諸官省・帝國議會事堂・外國使臣館)。

2 軍事 …… 近衛及第一師團司令部・參謀本部・海軍々令部・軍事教育の諸學校。

3 學術 …… 東京帝國大學・東京高等師範學校・其他官公私立の諸學校・帝室博物館・動物園・植物園・
圖書館・書籍・新聞・雜誌の發行。

4 商業……日本銀行・三井銀行・三越吳服店・東京電燈會社・其の他の銀行・會社・商店・商業會議所・取引所・市場。

5 工業……砲兵工廠・印刷局・紡績會社・秀英舎・天賞堂其の他の工場。

6 交通上 重なる道路には、電車、馬車、自動車。又市の内外に通ずる鐵道Ⅱ東海道線・中央線・東北線・常盤線・總武線及び航路Ⅱ内國通運會社・東京灣汽船會社等の汽船又郵便・電信・電話あり。

7 歴史事項 江戸城を(宮城)始め歴史上貴ぶべき舊蹟所々に散在し、大抵名勝地を兼ねぬ。上野(寛永寺、東照宮)、九段(靖國神社)、淺草(淺草寺)、芝山内(増上寺)等あり。

8 設備 公園(日比谷・上野・淺草・向島・芝)。水道・電車・電燈・汽車・瓦斯・病院・會館・旅店・席亭・劇場等。

9 沿革 一も江戸と稱し徳川氏三百年間の幕府の地。明治に至り首府となり益々繁榮に赴けり。其の二 政治の中心地としての都邑の調査

地理教授上須要なる事項は數多ありて、其の取扱亦種々なりと雖も、要は之を理解せしむる方法如何を定むるに在り。今政治の中心地なる府縣廳所在地の取扱につきては左の如き順序方法を定めて之を實施せり。

第一 町村役場の所在地の觀察(生徒各自の過去並に現在に於ける觀察に基く)。

第二 郡市役所の所在地の觀察(修學旅行等の際に於ける實見に據る)。

第三 府縣廳所在地の觀察(生徒各自の觀察又は推究)。

第四 一國首府の所在地の理解(生徒各自の類推)

以上第一、第二、第三の觀察によりて、行政官廳の所在地には之に附帶して各種の社會的施設も備はり、常該行政區劃中最も繁榮の地なることを實例を擧げ、十分會得せしめたる後、更に左表の如く概括せしむ。此の際最も注意すべきは、其の概括すべき智識は、生徒の實際經驗せることを基礎とせるに在るを以て、生徒は皆此等を知悉せる者のみなりとはいひ難し。就中府縣廳の所在地を實地觀察せるものは甚だ稀なり。されど町村役場の實況を知らざる者は之れなきにより、此等の研究により類推理解せしむることを得べし。教科書中單に府縣廳所在地として記し去りたる都邑の觀念中には、左の如き事項の包含せらるゝことを知らしむべし。

一 町村役場所在地の調査

一 政治(町村役場、巡查駐在所等)。

二 學術(小學校・實業補習學校・裁縫教授所、書籍・新聞・雜誌の取次所等)。

三 産業(酒屋・豆腐屋・荒物屋・生命保險申込所、賣藥・文房具等販賣の諸商店)。

四 交通（郵便箱、郵便切手賣捌所、宿車屋等ありて縣（里）道に通ず。

二 郡役所所在地の調査

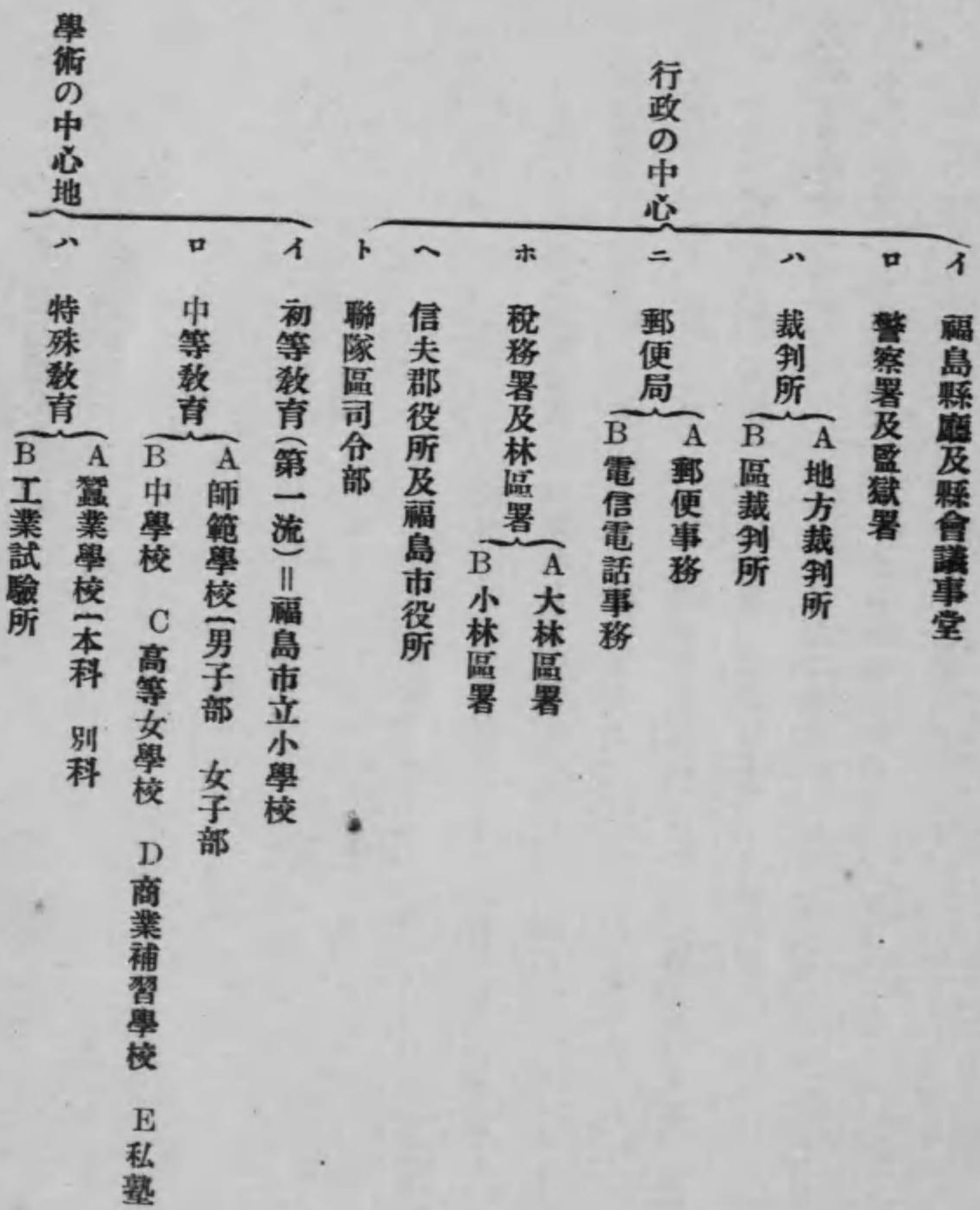
- 一 政治（郡役所・警察署・稅務署・登記所。
- 二 學術（小學校・中學校・農學校・女學校・書籍新聞雜誌の取次所・新聞社。
- 三 産業（銀行・會社・工場・日用品販賣店・飲食店・市場・問屋・宿屋・產物取引所等。
- 四 交通（郵便局・宿車屋・鐵道停車場・縣道・馬車の起點。

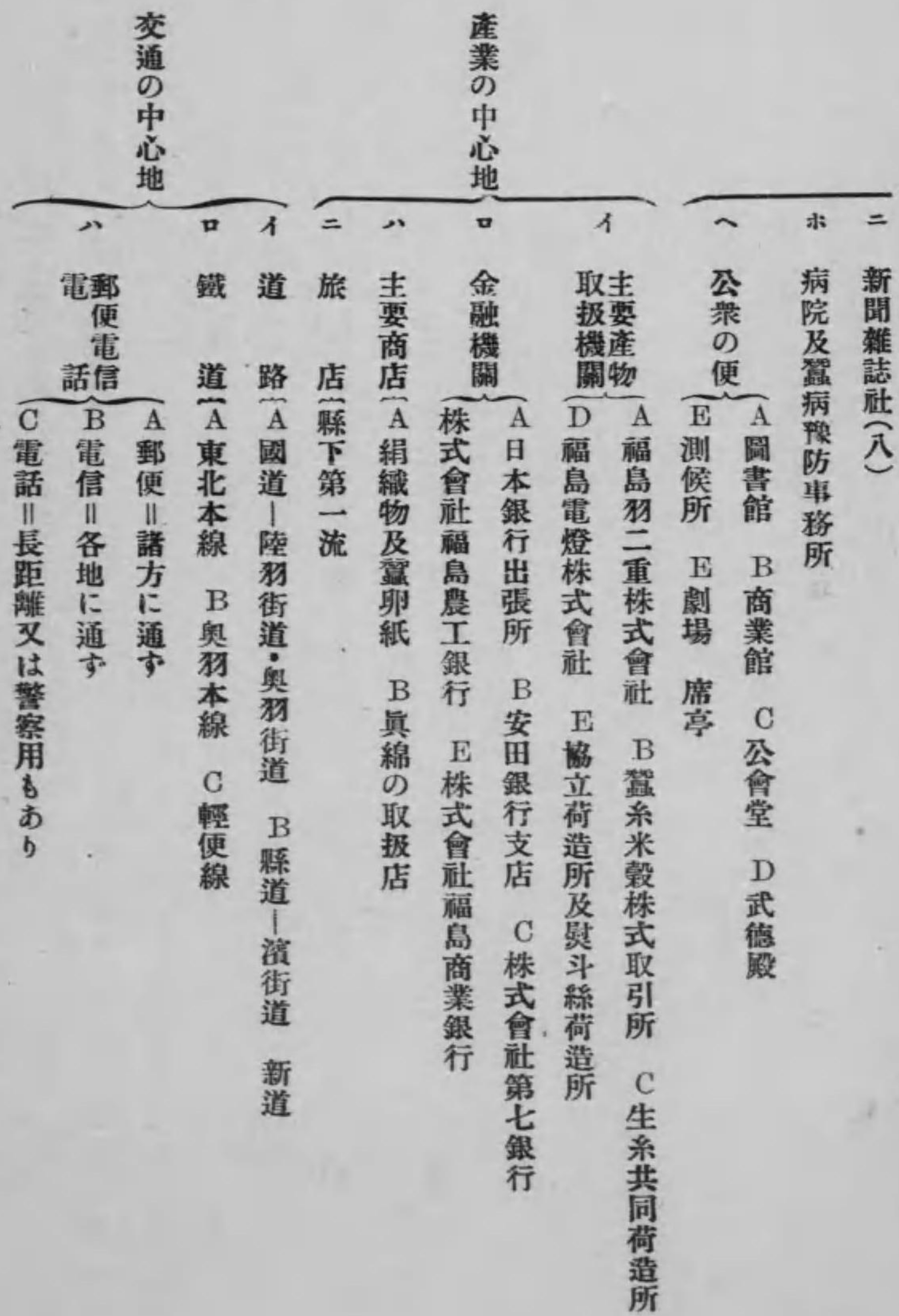
三 府縣廳所在地の調査

- 一 行政の中心地（地方廳・監獄署・兵營・裁判所等。
- 二 學術の中心地（師範學校・中學校・高等女學校・實業學校の設置。
- 三 産業の中心地（各種の會社・工場・銀行（金庫）取引所・大商店等。
- 四 交通の中心地（國道・縣道・郵便・電信・電話等の集合。

尙ほ之を十分理解せしめんが爲には、生徒各自の熟知せる市役所、郡役所、府縣廳の所在地に於ける實況を調査發表せしむ。左に一生徒の調査せるものを掲げて之を例せん。

縣廳所在地の實地調査の例（福島市）



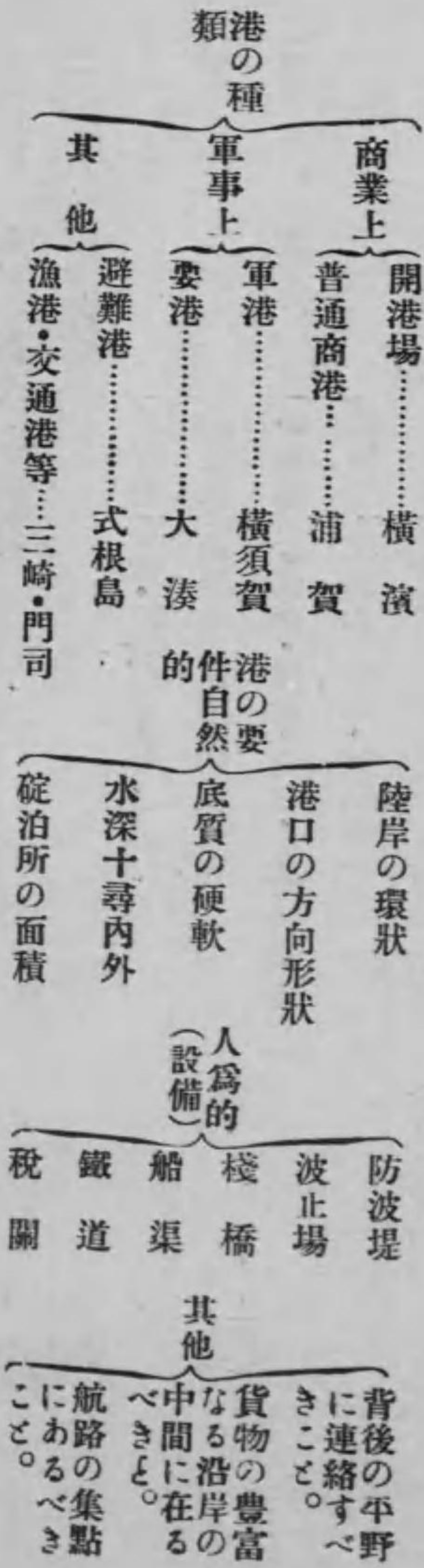


更に進みて外國地理教授の際に於ける一國首府の取扱は、以上三種の都邑觀察を基礎として類推せしむれば、容易に理解せしめ得べく、又前掲東京市の例により直ちに了解せしめらるべし。此の他の地理的要項も、かゝる方法によりて理解せしむることを圖れり。以下之を略す。

第四 港の整理案 例横濱港

港は港市と稱し、都會の一種にして人類活動の要所なり。使用の目的によりて左の數種に分つ。又其の要件を擧ぐれば次の如し。

港の良否は此の要件を具備する程度によりて批判すべきものなりとす。即ち此要件を全部具備するものは完全なる港にして、一二要件を缺くものあれば之を稍良港と稱するが如し。



- 一 位置 東京を距ること約八里
- 二 人口 四十餘萬

- 三 港の要件
 - 自然的
 - 陸岸の環狀・港口の形狀・方向・底質・水深・碇泊所の面積等適度なり。
 - 人為的
 - 市内電車・税關・船渠・通信・運輸機關等。
 - 防波堤・棧橋・繫船岸・航路等。

其他〔背後の關東平野に連絡し、貨物の豊富なる沿岸に立つ。地圖等によりて推定す。〕

四 繁榮の要素

貿易の一大中心地〔名高き開港場。重要輸出品＝生絲、羽二重及銅。同輸入品＝鐵、綿綿等。地方政治の中心地〔神奈川縣廳の所在地。之に附屬せる行政上の官公署。〕

鐵道……東海道線に沿ふ。

内外交通の要地 航路……内外の汽船出入多し。北米・南米・支那・印度・歐洲・濠洲に通ず。

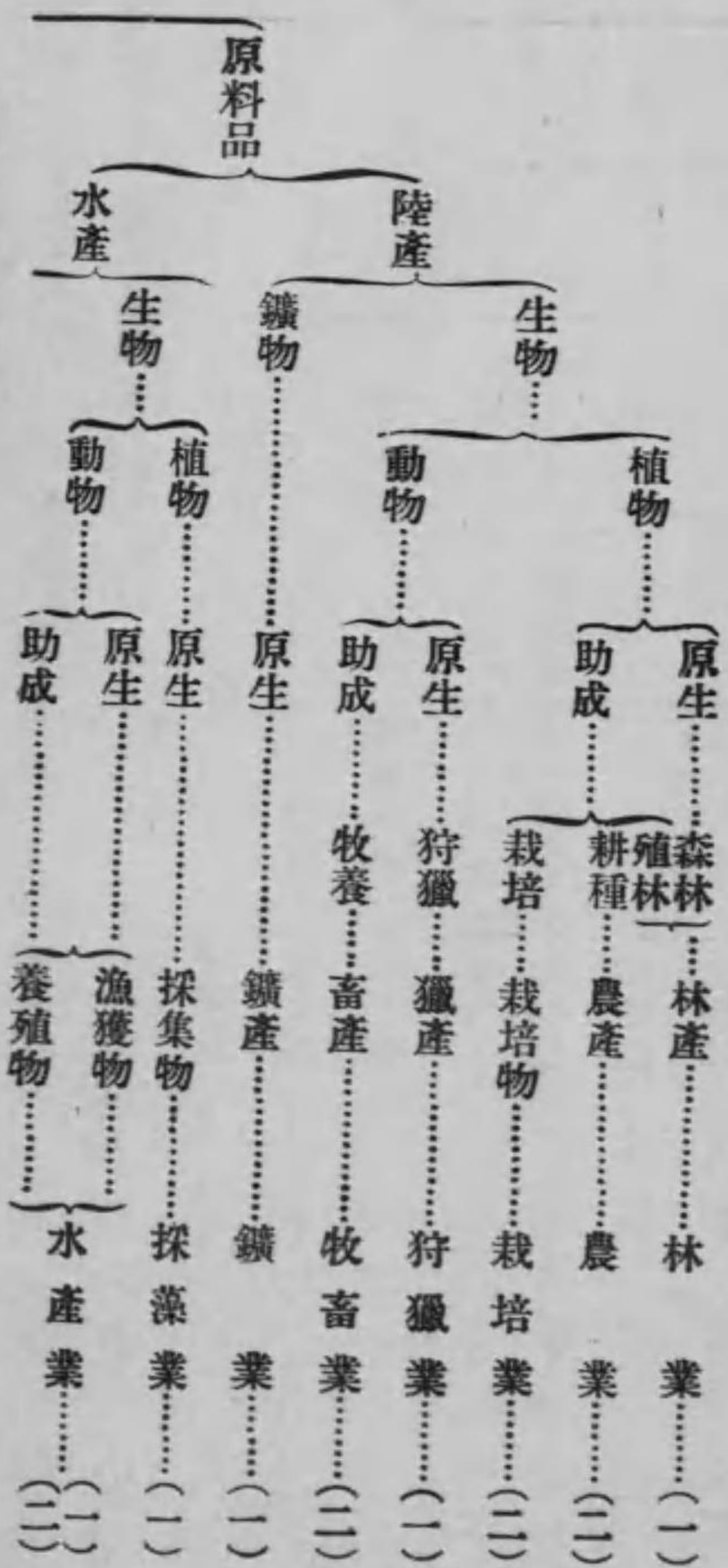
首府東京とは近く水陸の便特によし。

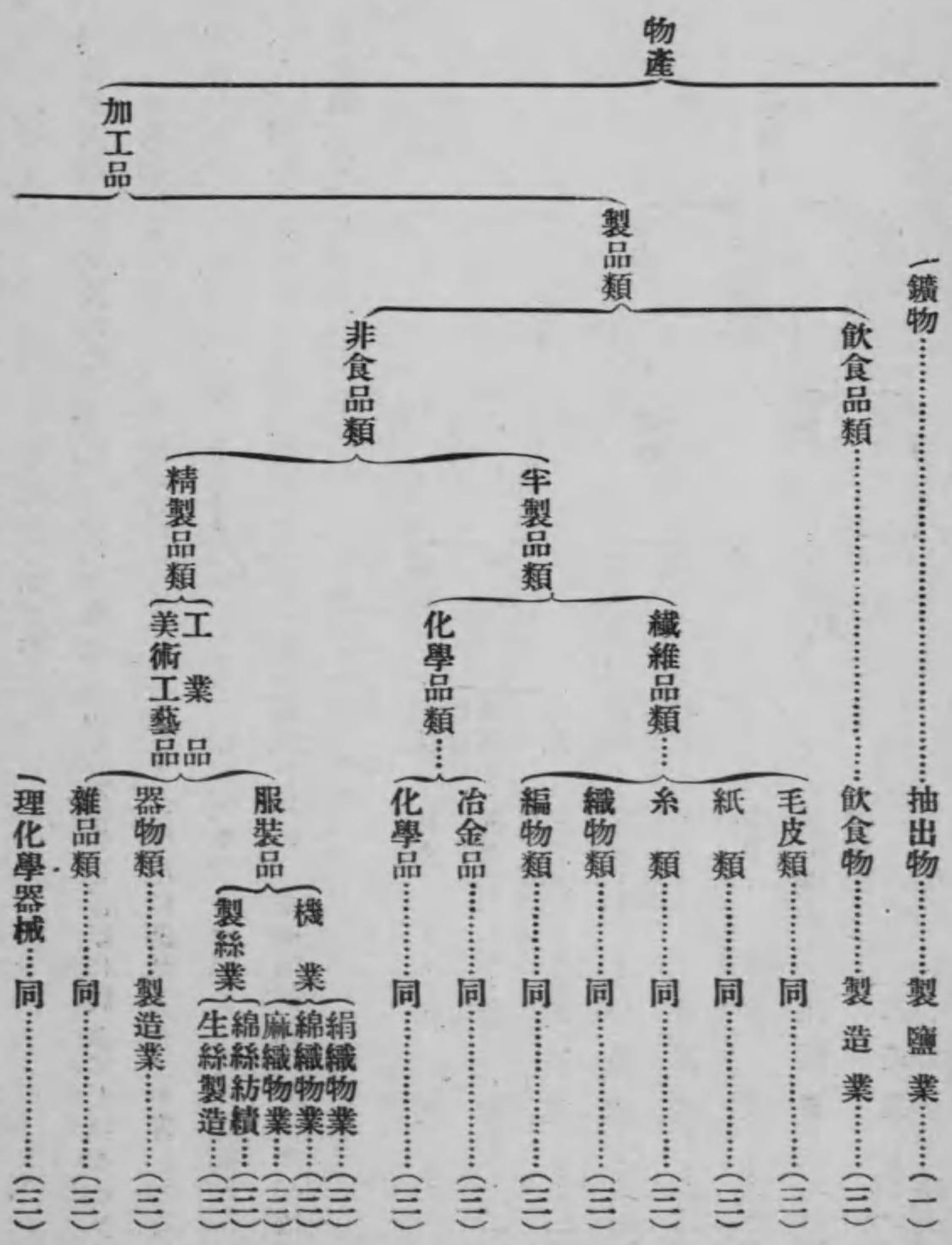
學術の中心地〔女子師範學校・中學校・商業學校等ありて、地方學術の中心地たり。〕

五 沿革 (略す)

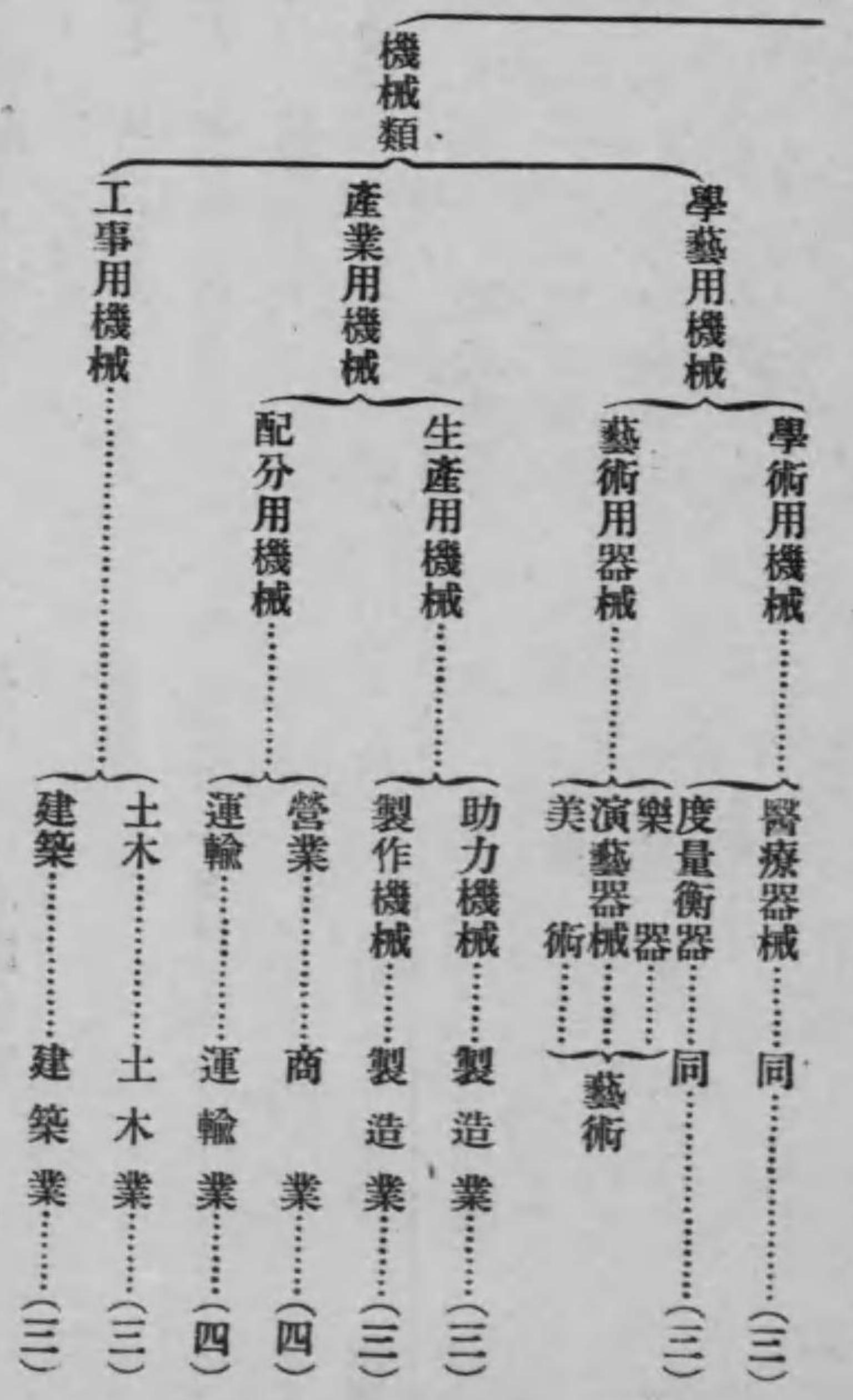
第五 生産物と生産業との關係整理

兒童を圍繞せる生産物につきて、其の由來並に生産狀態等を仔細に觀察せしむるときは、原料品は如何なる状態のものなるか。又加工品は如何にして吾人の使用に供せらるゝか等を知らしむるにさまで困難ならざるべきも、一時に之を了得せしむることは煩雜なるを以て、其の觀察せしむべき機會を捕へて、個別的に研究を遂げ、漸次に左表の如く組織を定め、系統的關係の許に統括了せしむるを以て主眼とすべし。





第六 織物の種類整理



本表は前者の個別的研究の一例にして、既に回顧録に示せしが如く國語科等に於て學びたるものを基礎として、各自の身邊を圍繞せる織物を調査研究して、左表の如く種類の統括をなせり。かくして漸次之が補足擴充を圖るときは、織物の教材に遭遇する毎に復習の機會を得て、其の復習は稍自然的なる傾向を來すべし。これ吾人主張の趣意の存する所なり。

- 材料によれる分類
- 一 絹織 紬・斜子・博多。
 - 二 綿織 眞岡木綿・有松絞。
 - 三 麻織 越後上布・リンネル。
 - 四 毛織 モスリン・羅紗。
 - 五 交織 綿御召・糸入縞。
 - 六 雑布 葛布・厚司・蕉芭布。

- 織方によれる分類
- 一 平織 眞岡木綿・繪絹。
 - 二 縮織 銚子縮・縮緬。
 - 三 透織 紹・紗・縹子紗。
 - 四 綾織 一樂・風通・毛縹子。
 - 五 紋織 紋羽二重・小紋。
 - 六 混織 透綾・錦縹・畝織。

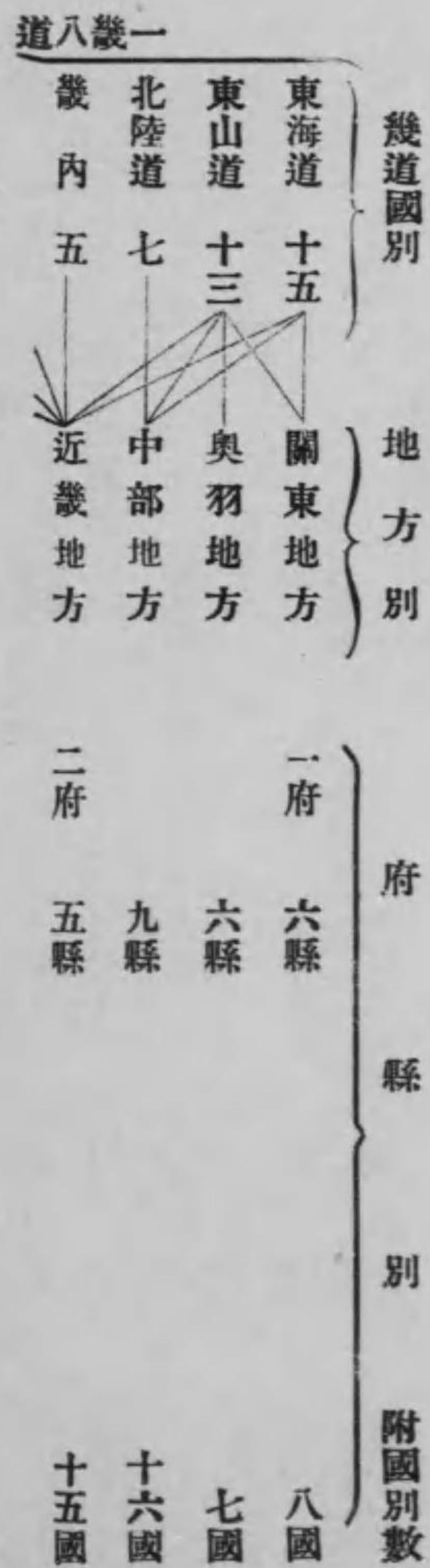
類分るれよに方め染

(略)

第七 區劃の整理

教師は須らく次表の如き統括表によりて了解することを要す。

區劃統括表



第四章 自己の府縣地理の教授

自己の府縣地理の取扱に就ては、去る明治十八年小學校令の公布より、同三十五年の改正令の發布に至るまで、各地方に於て大に實施せられ、深入り過ぎたる結果誤解せる郷土地理として排除せられて

自己の府縣の地理は全く閑却せられ、茲に一般的となりて其の意味を失ひ、再び迷路に入れり。超えて國定教科書の發刊せらるを見るに及びて、復た論議百出し種々の調査案を見るに至れり。而して今回の修正本も記述體裁上又々論議すべき餘地あるを認む。吾人は過去の經驗に鑑み、尋常五學年に入りて過去の智識、經驗を整理し、出發點は見出したりとはいへ、郷土が世界の縮圖なりとの眞の意義を貫徹するには未だ以て一般地理的要素不足なり。従つて従前の郷土のみにては基礎觀念は統一整理せられず。一般地理の想像判斷に誤解若くは偏見を生じ易し。且地方自治團體の發達せる今日、之が觀察を完からしむる必要もあるを以て、吾人は大日本帝國地理即ち日本地理總論を授け、自己府縣所屬の地方に入り區分を授けて、次に自己の府縣地理を總論的記述の整理案に準じ、二三時間を費して教授するを最も其の當を得たるものと信ず。

かくて先づ左の利益を收め、兒童の精神界を整理活躍せしむることを得べし。

- 一 自己の府縣は郷土の自然的擴張にして、兒童の見聞發達の程度に適應する事。
- 二 郷土地理の缺陷を補足するを得る事。
- 三 自己の府縣は郷土との類似點多きを以て、他府縣に比して容易に理解せしむるを得ること。
- 四 自己の府縣を知ることによつて、市町村の自治團體の有機的組織を了得し、政治地理の一斑を解し、眞に府縣なるもの、概念を構成し得ること。

五、交通機關、産物、産業、政治、宗教、教育及都會等の人文に關することは、府縣を中心として總ての觀念を補充統括するを得ること。

六、兒童の現在及將來の實際生活上より見て、自己の府縣に於ける各種行政機關の施設運用。交通機關の系統、産業并に生産狀況、教育、宗教、衛生の設備等、實際的生活に密接なる關係を知るが故に、兒童各自の生活に興味を生し易きこと。

七、かくて自己の府縣地理を了解し居るときは、常に他地方と比較され明瞭なる自覺を得て眞の愛郷心を惹起し、延て愛國心の基礎を鞏固ならしめ自尊心を起し、奮勵以て國家の休戚を自負するの覺悟を生ずること。

之を要するに、自己の府縣地理の教授は、郷土地理として如上の利益を得ると同時に、實質的方面と形式的方面との教授の調和を圖り得て、組織あり系統立ちたる確實なる基礎觀念整理の地理教授たらしめ、以て修正教科書の散漫せる教材を統括するの便に供し得ることを保證するものなり。

第五章 地理教材の具體化

第一節 教材具體化の要諦

教科書は總して概括的に抽象的の記述を以て終始するを常とす。本教科書の記述も亦抽象的なるは數

の免かれざる所なり。されば教授に當りて之を直観化し具體化するの要は、最早や論議の餘地なき迄に重要視せらるゝに至れり。殊に地理科に於て其必要の度益々大なるを感ず。即ち教室内に在りて北極、南極は云ふに及ばず、地球表面の各種の状態迄も相像し構成せんとするにあらずや。具體化の必要を絶叫する豈故なきにあらざるなり。

本州	朝鮮	北海道	九州
		台湾	樺太
		四國	其他

扱直観化し具體化する手段方法は多方面なるべし。茲には其の主なるものを例解して研究の参考となすべし。面積の大小、距離の遠近、土地の高低險夷、氣候の寒暖、雨量の多少、風の強弱、住民の疎密、産額の多寡、國力の強弱、富の程度。等は或は直影となり、或は背景となりて教材を裝飾せらる。之を直観的に訴へ具體的に表出して活潑ならしむるは、教授上最も有要事項たり。

今尋常小學地理書の教材より例を執り見んか。

大日本帝國の章に於て「我が帝國の長さは一千二百里に餘る」とは常に唱ふる所なるが、兒童は之を如何に直観化し具體化するかといふに單に之を一千二百里と稱するに過ぎず。然るを今授くるに當り、第一歩として居住村。第二步として居住郡。第三步に居住縣の廣袤又は距離を知り、之と比較して一千二百里の如何に大なるかを知るの便に供

麥の産額比較

茨城縣	埼玉縣	栃木縣	其他	愛知県	其他	兵庫縣	岡山縣	香川縣	熊本縣	朝鮮
關東地方	中部地方	近畿地方	中國地方	四國地方	九州地方	朝鮮				

臺灣・北海道・樺太地方ハ少量ニシテ記シ入得ズ白地トセリ

せんか。例へば東京府の學校に於ては、東京八王子間の距離は圖上の測定、又は實際の距離に於て略十二里なるを知り、又關東地方の南北の距離は略六十里なるを知らば、一は百倍に當り一は二十倍なることを具體的に了解することを得じ、又我が國各大部の面積の比較につき見るも、單に「我が國の總面積は四萬三千餘方里。本州と朝鮮とは何れも總面積の三分の一を占め、北海道本島、臺灣九州、樺太(南半)、四國之に次ぐ」を上圖の如く圖解するに於ては各部の大小の比較割合は眞に了解せらるべし。尙茲に一言すべきは、教科書に挿入の圓形の面積比較圖の適否なりとす。圓形の面積比較の不當なるは心理學の證明する所に於て、又不了解の廉多きは教育者間に定論あり。文部省は何故にかゝる不適當なるものを採用せしか、吾人の最も了解に苦しむ所なり。

も、單に之を知らしむるのみにては不足なり。須らく之を利用するの途を講ずべきものとす。今左に

其の一方を示せば

挿入の場所（麥の産額比較表は關東地方の産業の部）は圖には表れたる丈の説明にて十分なりと雖も、濃尾平野等も次に多産地なることを説き、兼て關東の復習をなすと同時に上圖の如く記入せしむるを可とす。爾及綿糸の産額比較表の取扱も同様になすべきものとす。之が材料は附録に収録せり（以下教材研究の項に譲る）。

第二節 地理實習 附試食會

既に述ぶるが如く教材を直觀化し具體化する方法は種々ありと雖も、茲に所謂地理實習も亦其の一たり。即ち器具の使用。圖表類の製作又飲食物を味ふこと等によりて、精密なる觀察と正確なる判斷を附與し得らるゝのみならず、自學自習の風を養成し、興味を喚起し、諸心力を鍊磨し、兼て着實なる美風を養成し得べく、其の効や真に偉大なりと云ふべし。左に尋常小學地理書卷一に於ける教材中、實習し得べき題目と、實習し得べき事項とを掲げて參考に供すべし。

地理實習の要目

題 目	教科書記載要項	實習せしむべき事項
第一 大日本帝國	我が國の長さ凡そ一千二百里。 附郷土の回顧（東京八王子間の距離十二里及び寒暑、雨量の日々の計算） 府縣及び我が國の面積	占守島より臺灣南岬迄の直線距離を圖上に測らしむ。 （東京、八王子間を單位とし比較せしむ。） 各大部の面積比較圖及び表の作製。 寒暖計の目盛の讀み方 東京を中心として半經三百里の圓を描き、其内に含まるゝ地方を調べしむ。 府縣全國及自己所屬町村地圖の描寫
◎自己府縣の地理	（筆記帳の記載に據る）	
第二 關東地方	（自己所屬府縣の面積人口）	（面積と人口との割合）
地 勢	海岸（東京灣）の要部 關東平野は我國第一の平野。箱根山の一部と富士山	東京灣の廣袤を圖上にて概測せしむ。 平野の東西南北の長さを概測して其の面積を求めしむ。箱根山の挿畫と平面圖との對照
産 業	麥の産額比較	自己の府縣の重要産物の比較表又は圖を作

第三 奥羽地方 區分	<p>南北にわたれる三列の山脈あり。 土地の廣き割合に戸口密ならず。 青森と函館間には連絡船あり。又交通の要地。 苹果を産出す。</p>
伊豆七島小笠原島	<p>諸島は相摸灣の南方太平洋中にある。</p>
交通 都邑	<p>東京を起點として四方に通ずる鐵道あり。 東京日本橋附近。 自己居住地附近を附加教材とす。 交通と鐵道</p>
横濱の輸出入品	<p>學校近傍の見取圖を描かしむ。 砂箱にて東京府(又は自己の府縣)の模型を作らしむ。 附近の停車場に就て轉轍器、ロット線、勾配杭、哩杭、信號等の實見。 圖上多摩川の測定或は略圖。 郷土の商店にて販賣せらるる輸出入品の實見。</p>
附圖の此等諸島を描圖して、之を自然の位置に配置張り繼がしむ。 (時にバナ、其他の島嶼産の果實を試食せしむ)。 附圖に鉛筆にて分水嶺を入れ、東西二斜面を描かしむ。 六縣の行政圖、及び奥羽地方の断面圖を描かしむ。	<p>附圖の此等諸島を描圖して、之を自然の位置に配置張り繼がしむ。 (時にバナ、其他の島嶼産の果實を試食せしむ)。 附圖に鉛筆にて分水嶺を入れ、東西二斜面を描かしむ。 六縣の行政圖、及び奥羽地方の断面圖を描かしむ。</p>

第五 近畿地方 地勢交通	<p>疏水運河京都に至る。</p>
交通 産業	<p>米の主産地</p>
第四 中部地方 地勢	<p>諸山脈にはさまれたる地はいづれも大なる谷をなし諸川を流出す。富士山は我國第一の名山なり。日本海に佐渡島あるのみ凡そ四十時間の航程なり米の主産地</p>
都邑	<p>白地圖に三列の山脈並に火山脈を記入せしむ。 人口密度の概算。</p>
交通	<p>青森函館間距離、青森東京間の汽車時間の計算並に哩數(密度1度=60哩=70哩=28里)東京・青森間の圖上直線距離概測</p>
産業	<p>苹果の試食をなさしむ。 敦賀灣と伊勢海との距離を圖上にて測らしむ。地圖上に長野縣の主なる分水嶺を記入せしむ。 砂箱にて富士山の模型を作り附圖上にて富士山の蟠まれる地盤の面積を概測せしむ。 砂箱に佐渡島の模型を作らしむ。 敦賀と浦潮斯德間距離の圖上測定。 米の産額比較表を麥の比較圖に倣ひて作らしむ。</p>
近畿地方	<p>大阪・津間の断面圖。 近畿地方の略圖を透寫し、京都を中心とし</p>

第六 中國地方 産業	第七 四國地方 産業	都産 邑業
密柑の産出多し。	山岳丘陵いたる所に起伏す。 米子の海岸より大山を望む(挿畫)。 三田尻、兒島半島は鹽田 ことに多し。 吉野川は最大なり。	鯉節などを産す。 高松と屋島(挿畫)。
各鐵道線路上に汽車時間の一時間二時間の地點を求めしむ。(既授の地方のものも)密柑の寫生並に試食。	廣島縣の面積の概算。 附圖の上にて丘陵地を着色せしむ。 米子大山間の距離の概測。 郷土に鹽田あらば實見せしめ玩味せしむ。 四國の模型を砂箱にて作らしむ。 圖上にて吉野川・利根川・信濃川・木曾川等を概測し比較せしむ。	郷土に鯉節製造所あらば實見せしむ。 挿畫によりて高松附近の平面を描かしむ。

第六章 地理附圖の活用方案

元來地理教授の骨子たるものは地圖にして、地圖を離れて眞の地理教授は成立せざるなり。地圖は地球の縮圖にして、之によりて地球表面の状態は窺はるゝものなればなり。現時斯の意味に於て地圖

の効果を收めつゝある教授者ありや、甚だ疑なき能はず。これ地圖の罪にあらずして、地圖の性質を未だ十分發揮せしめざるに因る。之れ一には、今日未だ我が國地圖製作上の技術の進歩せざる結果にもやあらむ。吾人は年來此點に留意して、曩には校外教授用の地圖を編して世の要求に應じたりしが、製作上の缺點よりして、未だ吾人の意を充たす能はざるは遺憾とす。現行教科書の地理附圖亦吾人の理想を去ること遠し。吾人の見を以てせば、地理教授は地圖を主とし、繪畫、統計圖表、文章等は僅かに地圖の不備を補ふに過ぎざるものなるべきに、國定教科書編纂の趣意既に之に反す。即ち所謂附圖にして教科書の附屬物なり。故を以て使用者亦地圖を活用するの勇氣なく、眞に地圖をして附屬的に取扱ひ、地圖らしき位置を與へざる憾あり。是れ主客顛倒せりといふべし。是に於て吾人は、地圖は如何に使用すべきかを語る必要ありと認む。而して眞に地圖の價値を發揮せしめんとせば、地圖たる要件の具備を圖ると同時に、使用者殊に地理教授者をして、尙ほ一層地圖に關する識見と抱負とを有せしめざるべからず。是に於いてか地圖研究の必要を叫ばざるを得ざるなり。吾人は多年之が方法を講ず。先づ具體的方法としては尋常科第四年終了迄に於て、國語及び他の教科と聯絡して地圖の觀念を養成するを以て、兒童の學校生活上の必要條件なりとす。然らば地圖は何時教授すべきか。其の觀念の養成方法如何等は、次で起るべき問題なりとす。これにつきて、地圖讀方指教圖の編著に於いて詳述せり。左に之を略述して參考に供すべし。

第一節 總 說

「地圖は地球表面の全部若くは一部の状態を、或る方法にて平面上に描きたるものなり。」とは、一般に認めらるゝ地圖の意義なり。即ち、地圖は長、廣、厚の三面よりなれる地球の表面を、單に記號を以て平面上に表示したるものなれば、理解に困難なるものなり。従つてかゝる意義を兒童に了解せしむることの難事たるは、今更いふを要せざるなり。然るに多數の教師中には、かゝる重要な意義を閉却し、毫も地圖を読むの素養を兒童に與へずして、直ちに複雑なる地圖を提げ、教授の効を收めむとする者少なからず。故に兒童の地圖に對する觀念をして、全く謬りにおちいらしめ、實地に遠さかる想像をなましむるの弊を免れず。これをも地圖の意義の理解に困難なるが故なり。されば次に地圖の必要條件と、地圖読み方の要項とを述べ、教授者の參考に資せんとす。

第二節 地圖の必要條件

地圖の成立上、必要決くべからざるもの種々ありと雖も、若し(一)方位。(二)縮尺。(三)經緯線。(四)記號用例の何れか一を缺くあらんか、如何に叮嚀精緻を盡すとも、地圖たるの價値並に意義は全く没却せるものと謂ふべし。今左に之れら四つの要件を略解せん。

一 方位 は距離と共に地上に於ける位置を決定するに必要なものなり。従つて地圖上に在りても、位置は其方位と距離とによりて定まるものなれば、方位は地圖にとりて缺くべからざるものとす。而して方位を定むるには一般に經線によりてす。經線は通常地圖上に、縦に即ち南北に線を引きてそれが基準となす。故に地圖の上部は北なるを通例とす。若し此の基準に依據する能はざるときは、特に方位圖を附して之を示すと雖も、通常は此の經線に依りて東西南北等の方位は示さるゝなり。

二 縮尺 は廣大なる土地を狭小なる紙面に描きて、展覽に便する爲めに缺くべからざるものなり。故に實地の長さや圖上の長さをして、常に正確に或る比を保有せしむるを要す。此の割合を示すが爲に比例尺を附す。比例尺(農商務式)を稱して縮尺(文部式)、又は梯尺(陸軍式)と云ふ。縮尺は距離に就いて云ふものにして、面積に就いていふものにあらざることは、次ぎに説明する所の如し。又此の比は如何なる數によるも隨意なれども、計算に容易なる數を探るを便とす。即ち分數の分母は、12等基數の右に零を附したる數にして、分子は常に1なる數を宜しとす。又縮尺は單に文語のみにて示すは宜しからず。教科書の附圖には、二様(日本尺と米突尺)まで縮尺圖を附記せられたるによりて、縮尺圖の缺くべからざるものなることは明らかなり。殊に初學者に示す場合は、具體的に縮尺圖を要すること、今更に多辯を俟たざるべし。すべて此の縮尺を案じてこそ、圖上の一寸は實地の何里たるかを正確に讀み得らるべきなれ。

縮尺の大小につきましては、陸軍士官學校編纂の地形教程に記する所、最も簡明にして要を得たるものは左に之を抜抄せん。

第一條 梯尺ノ値

梯尺は左の件を考慮して定むるものとす。

第一 使用便宜ナル紙幅ニ、成ルベク廣キ土地ヲ描畫シ得ルヲ要ス。之ガ爲ニハ小梯尺ヲ可トス。

第二 必要ナル諸物ノ現示全キヲ要ス。之ガ爲ニハ大梯尺ヲ可トス。

右ノ關係ニ由リ梯尺ハ通常左ノ如ク使用ス。

大梯尺、概ネ五萬分ノ一以上ニシテ詳細圖等ニ用フ。

中梯尺、概ネ五萬分ノ一以下二十萬分ノ一以上ニシテ、一覽圖ノ梯尺ニ通ス。

小梯尺、概ネ二十萬分ノ一以下ニシテ、輿地圖ノ如キ一般圖ニ適シ、地形ヲ明示スルヲ要セザルモノニ用フ。

三 經緯線 は數學上ノ定則（一直線中に於ける一點ノ位置は原點と稱する一點より右（十）又は左（一）ノ方向と其ノ距離とにて之を定む。一面中に於ける一點ノ位置は、原點と稱する一點を通じて、縱横に引ける二線に對する距離及び方向にて之を示し得べし。之を縱横線法といふ。）縱横線法によりて地球表面に縱線（經線）と横線（緯線）とを設けて、地表上ノ位置を定むるものなれば、これ亦缺く

べからざるものとす。かの京都の市街の何通り何町上る又下るといふが如き通衢のわりかたは、即ち此の縱横線法ノ應用に過ぎざるなり。

此ノ方法によりて描ける經緯線によれば、各地ノ位置。方位。距離。面積等より、進んでは時差。氣候。動植物ノ分布等ノ状態をも察し得べし。

四 記號 は地圖上に記載せる地上ノ諸物件を、一目瞭然たらしむるに缺くべからざるものなり。然してその用例は、我が國にても陸地測量部（陸軍式）。地質調査所（農商務式）。海軍水路部（海軍式）。文部省教科書編纂課（文部式）等。著者を異にするによりて大同小異なり。讀者は文部省が小學地理附圖に於て採用する處の、所謂文部式なるものを参照せらるべし。

第三節 地圖の讀み方

地圖の讀み方に關しては、左の讀法三則を以て要旨とす。

一 地圖を見んと欲せば、先づ其の圖式（圖式には種々あり。簡單に説明し難し。描圖法を参照するを要す。）の性質を究め、地圖に記入せる記號等を了解したる後たるべし。

二 地圖は見るものにあらざりて讀むものなり。地圖を讀むとは、恰も音樂家が樂譜を見て直ちに音樂を聞く感あるが如くに、地圖を見て直ちに其の地の實況を想像し、玩味するの域に達せざるべから

ざるの謂なり。

三 地圖は單に多くを讀むのみならず、正確に描くことをもなさざるべからず。地圖を描くときは、記憶を明確にするの益ありて、地理學研究の最捷徑たればなり。

要するに、地圖は單に線若くは彩色を用ひて現はれたる繪畫にあらずして、圖式、記號など一種の文字を以て、地學上の智識を明示せる文書なれば、此等各個の文字の意義用法を解するは地理學を學ぶ目的の一たるなり。これこゝに讀み方研究の要ある所以とす。

而して地圖讀み方の會得は、地理研究の基本にして、又同時に終極の目的なれば、完全に之を了解し得しめんことを要すといへども、到底一朝一夕によくし得べき所にあらず。故に、こゝには單に其の要旨につきて、簡單に梗概を解説したるに過ぎず。學者は尙ほ深く研究の歩を進めらるべし。

一 位置 位置は、地物の相互の關係によりて定めらるゝものと、幾何學的に地表の一點を指定し得るものとあり。前者は普通教育程度の學校に於て採用する所のものにて、後者は稍高き學校に於て、一層的確を要する場合に採用する所のものとす。されど一般には其の經緯線を讀むによりて、位置は知らる。即ち緯度によりて赤道の南北、孰れの距離にあるかを知るべく、從つて其の地の氣候、生物の配布等の大略をも、推知することを得べし。又經度によりては東西何れに在るかを知るべく、從つて時差、潮汐、風向等をも察するを得べし。

二 方位 方位も亦經緯線を讀みて知るを得べし。即ち經線を讀みて東西を知り、緯線を讀みて南北を知るが如し。若し經緯線なき場合には、通常は地圖の上部を北とし、下部を南とす。されども圖幅の都合によりては、この常例によらざることあり。かゝるときは特に添附せられたる方位圖を讀みて知るべきものとす。

三 距離 距離も亦經緯線によりて計ることを得べしと雖も、最も簡便なるは、各圖採定の縮尺によりて計るにあり。されど圖式の差異によりては其の測定法を異にすることを忘るべからず、緯線一度の距離は到る處殆んど一定せりと雖も、經線一度の距離は南北處を異にするによりて異なるものなり。其の異なる次第は次表の如し。

各緯度に於ける經線一度の距離

緯度	長さ(里)	
	里	383
0	28,	383
5	28,	276
10	27,	955
15	27,	422
20	26,	682
25	25,	739
30	24,	601
35	23,	276
40	21,	773
45	20,	104
50	18,	280
55	16,	317
60	14,	227
65	12,	028
70	9,	736
75	7,	369
80	4,	945
85	2,	482
90	0	

四 面積 面積も縮尺によりて計算するを最も便とす。されど、或は地圖の縮尺と同尺にて方眼を畫きたる玻璃板を、圖上に置きて、方眼の數を計算して定むるものあり。此の方法は等積性の圖法にて

なれる地圖に於ては、面積の誤差少きも、然らざる地圖に於ては、距離算出と、同一の注意と手数を要す。更に精密に、距離又は面積等を測定するには地球儀あり。地球表面上の二地間の最近距離を測るには、其の地球儀の表示せる縮尺を以て、是を算出するを得べし。

五 地形 縮尺の大なる、同高線式の精細なる地圖にして、且適當なる記號を以て描寫せらるゝあらば土地の高低、險夷、山脈の向背、山河自然の状態より、交通の難易、水理の良否に至る迄、詳に推考せらるゝの便あり。又かゝる地形を知るにより、産物の多寡、人口の粗密、都邑の盛衰等、種々の人爲的施設も、將又其の理由も之を推知するを得べし。されば地理學研究者は、最もよく地形の讀み方に精通せざるべからざる事を知るべきなり。

六 記號 記號は種々ありと雖も、要は一種の文字と見るべきものなり。即ち各種の記號の組立、又は特別な注記によりて、自然又は人爲的施設の状態は、詳に之を察知することを得べきが故に、記號の選擇も亦忽諸に付すべからざるものなり。されば古來東西の製圖者は、之れが適用に關して、各々苦心せられ、遂に今日の如く種々なる記號を案出せられしなり。之れ我が國に於てすら、各省其の記號を異にする所以なり。是の故に地理學を學習せんとする者は、これら種々の記號に、ひと通り習熟する事を緊要事とす。

第四節 地圖の觀念を養成することの必要

前項既に述べたるが如く、地圖の理解は實に困難なるものなり。蓋し地圖に描かれたる諸種の記號中には、或は單に線を以て記したる境界、河流、都邑、海岸線などの如き平面的關係を表はしたるものあり。或は、彩色及び線を以て記したる山岳、高原、平野、湖沼、海洋等の如き縦面的關係を表はしたるものあり。又更に此等の間に存する相互の成立、依存の因果的關係、並に其の距離面積等の如き比例的關係の如きも、悉く包含的に表示せらるゝものなり。かゝる複雑極れる關係の事柄を、簡單なる記號のみによりて、而かも一平面の内に網羅し、之によりて其の眞正の内容を捕捉し想像し玩味することは、兒童にとりて殊に困難なる所なり。教授デールケの云へるが如く『地圖は、誠に地圖的文字を以て記入したる一大文章にして、其の内容たるや、全然沈黙にして之を學習したる者にあらざれば決して理解することを得ざるものなり』とは實に吾人をして首肯せしむる明言なり。凡そ地圖上に表はさるゝ諸種の記號は、文章に於ける文字と異り、無味乾燥にして兒童の興味を惹くこと少く、況んや此等の記號を翻譯して、能く之に相應する類似的觀念を構成し、腦中歷然として未知の廣大なる土地の眞相を描出するに至らしむること、或は此等記號の間に、包含的に存在する諸種の關係の如き所謂「精神的眼識を以て之を讀破し理解せざるべからざるものなるに於てをや。

然るに、多數の教師中には毫も地圖理解の素養を與へずして、複雑なる地圖を以て初學者に臨み、單に地圖上の線を指して此は河流なり、此の點は山頂なり。此の青色の部は海洋なり。此の圈點は都會なりと器械的に注入して、以て容易に地圖の觀念を與へ得たりと信するものあり。或は全く然らざるも、之を以てさまで困難にして注意を拂ふに足らざる問題なりと思考するものもあり。宜なる哉かくの如き教授によりて地理を學修し了へたる兒童をして、地圖上に表はされたる土地の一部を、繪畫又は粘土に依りて、模型的に表出せしむるか、或は其の縦斷面の略圖を描かしめば、多數は容易に成功すること能はざること。之れ圖上の記號は、記號として授けられたるに過ぎずして、之を翻譯して眞に其の地の真相を心裡に構成せしむること能はざるの確證なりとす。

然らば、地圖の觀念の養成の方法、及びその授くべき時期は如何。之れ必然到達すべき問題なり。左に項を改めて之れを述べむ。

第五節 地圖は何時教授すべきか

教授ルーデ曰く「能く地圖の何物たるかを理解するに至らしむるは郷土教授の結末點なり」と。是れ管に、郷土誌教授が、地理的對象の素養を與ふるに必要なを意味するに止らず、實に地圖の觀念の必要を論述したるものなり。されば地圖の觀念の初歩教授は郷土誌教授の際、之を授くるを以て最も

適當なりとす。之れ。郷土は地圖了解の鍵輪なればなり。何となれば、郷土は兒童が最もよく、實地踏査を遂げ得るを以て、郷土に於て地理的諸對象の觀念を授けて、更に記號を用ひて之を表はしたる地圖の、基本觀念を與ふるに最も便益多ければなり。

此の際、最も注意すべきことは、地圖を正しく讀ましむるに必要な順序方法を選ぶにあり。左に地圖讀み方教授要目を掲げん。

地圖讀み方教授要目

第一、平面圖の教授

- * 一、直線及び平面の平面圖
- * 二、曲線及び立體の平面圖

第二、縮尺の教授

- * 一、比例と距離
- * 二、縮尺と縮圖
- * 三、縮尺と面積との關係
- * 四、書籍、石盤、黑板等の縮圖
- * 五、教室及び校舎の縮圖
- * 六、學校及び校地の縮圖

第三、方位の教授

- * 一、磁石の讀み方

- * 二、地圖上の方位
- * 三、經緯線と經緯度
(此の項は高學年生に限る)

第四、地形の教授

- 一、實地と模型
- 二、模型と地圖
- * 三、記號用例(其の一)
- * 四、同高線式圖及び毛羽式圖
- * 五、斷面圖

第五、地圖の教授

- 一、郷土の模型と地圖
- 二、學校附近の地圖
- 三、模式地の模型

* 四、模式地の地圖

- 其の一 鳥瞰圖法によれるもの
- 其の二 平面圖法によれるもの

* 五、記號用例(其の二)

六、地圖の省略法

- 備考一、本要目は尋常小學校地理科に於て、郷土誌教授の際に附帶して教授するものとす。
- 同 二、本要目に據り教授を遂行するか爲には、飯山氏著地圖讀み方指教圖に依るを便とす。尙ほ各學校に因める事項につきては、本要目に準據し、各種の教便物を必要とす。
- 同 三、小學地理書の附圖とは、常に密接なる連絡を取り、且精密に對照せんことを要す。
- 同 四、本要目を教授するに當り、要する器具には、卷尺、間竿、定規、磁石、白墨箱、茶筒、各種の形體、學校附近の模型、模式地の模型等主なるものとす。
- 同 五、*印を附せる項は地圖讀み方指教圖を使用し教授を施せば十分容易に了解し得しめらるゝものとす。

第六節 地圖の觀念の養成方法

第一 平面の觀念を確實ならしむべきこと

平面圖の觀念は、既に尋常第一學年より第四學年迄に、圖書科又は國語科に於て學びたるものを練習するを以て足る。故に既得の平面に關する觀念を喚起し、補成せしめて、地圖の理解力の基礎を確實ならしむるを緊要とす。就中必要なるものは、(イ)見取圖。(ロ)正面圖。(ハ)平面圖の關係なり。こは直ちに地圖の讀み方の楷梯たればなり。

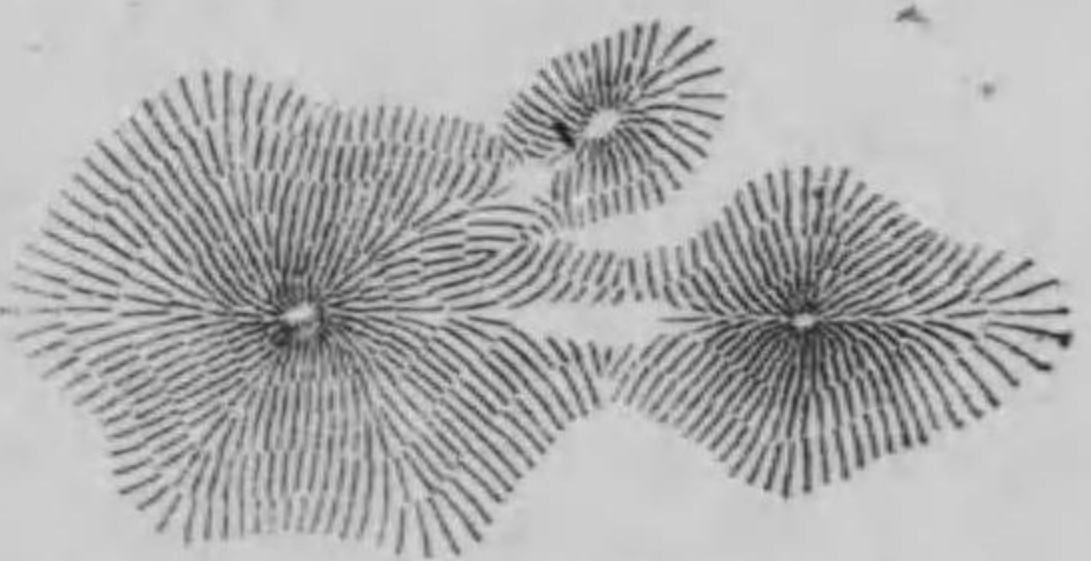
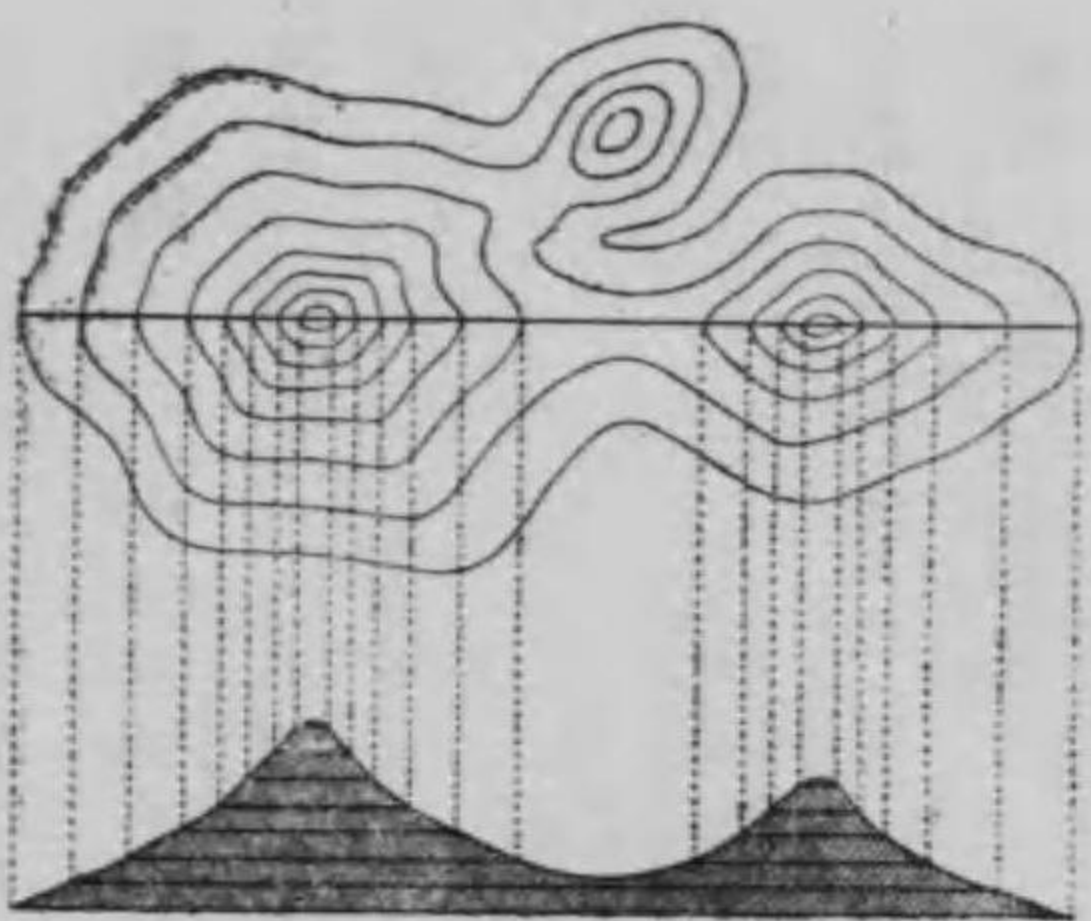
以上三圖は同一の物體を描寫するに當りて、眼の位置と距離の遠近との相違によりて、其の投影する様を異にする理を明かにし、かく三者を比較研究することによりて、繪畫と地圖との相違の點をも説明し得べく、尙ほ地圖と比較考量せば、其の理自ら明かなるを知悉し得べし。又此等の練習をして、手工。圖畫などと連絡を保有せしむることを得ば、その觀念を正確ならしむる上に於て、一層の効果を奏すべし。

第二 土地の高低を表はす方法を知らしむべきこと

第一に述べたる三種の圖面につき、精密なる觀察を遂ぐるときは、何れによるも長・廣・厚の三方面を具備せるものなく、其の一ありて其の二を缺くものなり。是を以て、一圖にして此等三者を兼ねたる圖面の必要を感じ、曩に平面圖によりて高低などの觀念を與ふるに適する方法(平面圖に或る縮尺を與へて次に高低傾斜の意を描出すること)を案出するに至れり。之によれば、土地の高低・傾斜を現はす方法を知らしむるを得べし。

地形の表現 即ち土地の高低・險夷などを現はす方法には種々あれども、曲線を以てする方法(同高線

式)と、毛羽を以て示す方法(毛羽或は暈滲式)との二者は、多く採用せらるゝ處のものなり。今此の方法によりて、東京市日比谷公園内にある七五三山(高さ七米、五米、三米あるに因みて名づく)に擬へて、土地の高低・傾斜の緩急を描き出し、地形を表現する方法の一端を示すべし。



等高線式圖ト
毛羽式圖並ニ
等高線式圖ト
断面圖トノ關係ヲ示ス

にては、等高線の多少によりて土地の高低を測るを得、又等高線の相密接せる處は傾斜急にして相疎隔せる所は傾斜の緩なることを知り得るが如し。又土地の高低、緩急を直観せしめんが爲には、断面圖を作るを要す。断面圖は、精密なる等高線式圖にありては、直ちに高低の度を案じて作ることを得、是れ上部に描きたる断面圖に表示するが如

し。之によりて眞の高低・緩急は益々明瞭に會得するを得べし。

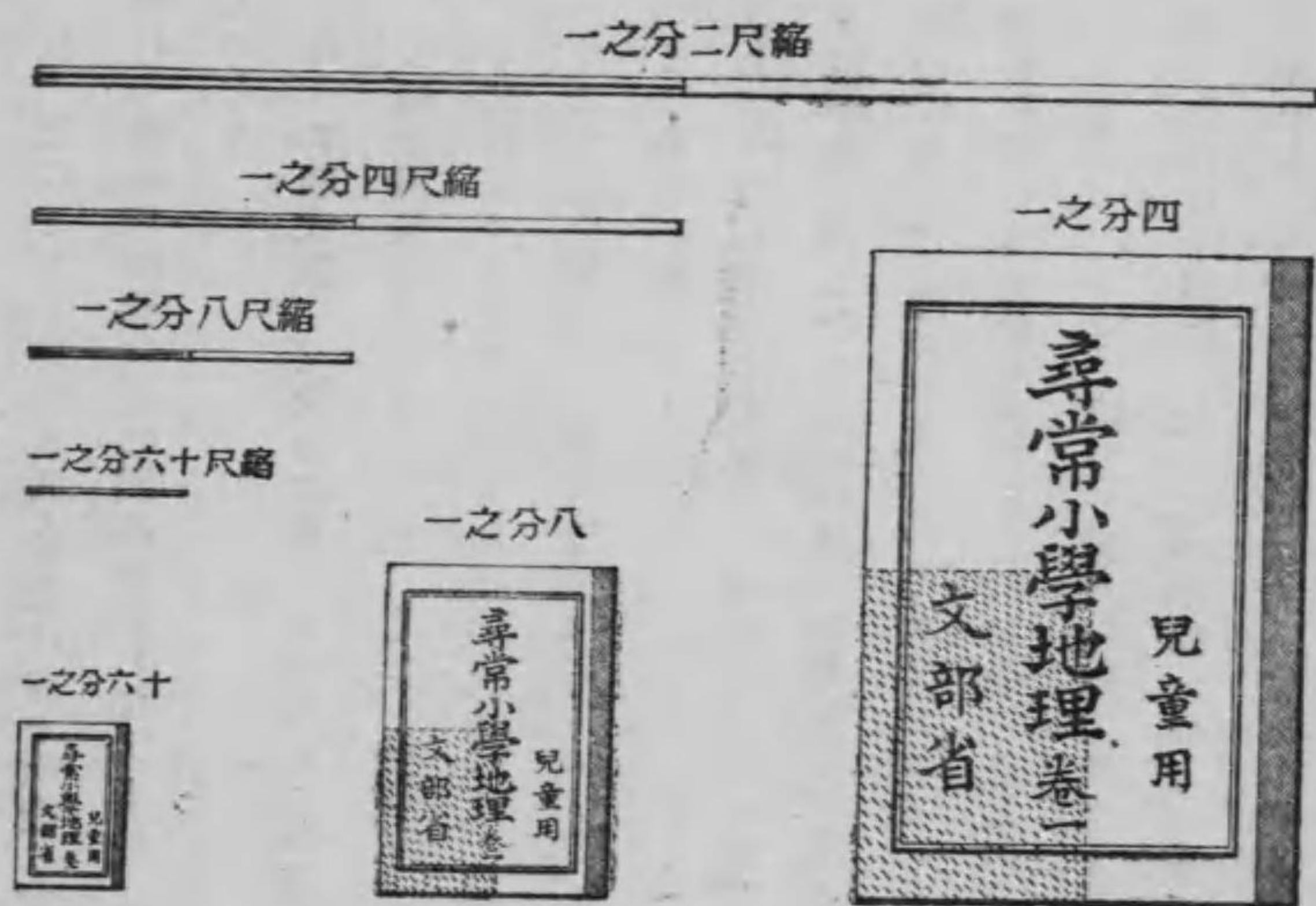
現行小學地理附圖は此の等高線式に加ふるに、高低の異なる地點間に彩色を施して明瞭ならしめたるものなり。

□ 毛羽式圖、又暈滲式圖ともいふ。こは等高線間に殆んど之と直角なる毛羽(暈滲)を用ひて土地の高低險夷を表示する方法にして、峻峻なる所は毛羽を短く且つ濃密に引き、傾斜緩漫なる所は長く疎に描きて區別す。されど此の圖式は、等高線式の如く正確に高低・緩急を示す能はざるが故に、此の方法を採用して利便を得るは、小尺度の圖を要する場合、又は高低の材料缺乏せる略圖の場合とにあるが如し。

以上述べたる地形の表現は、地圖の讀み方教授中最も困難なるものなり。彼の平面上にて厚さ即ち高さの觀念を得しむることは特に困難なり。是又圖畫・手工などと連絡を保ち、殊に粘土細工に於て、地圖の模型・又は學校附近の高地・若くは郷土の山川の形勢等の模型を造り、此等を種々の法式によりて、地形を現はす方法を練習せしめ、以て土地の高低・傾斜の緩急の觀念を深からしめんことを要す。

第三 縮尺縮圖の觀念を與ふべきこと

先づ卑近なる事物を探りて平面圖を描き、各事物若くは各部の割合に注意せしめ、又實物と平面圖との割合を一定することの必要なることに想到せしめ、縮尺の如何によりては種々なる平面圖を描き得



べき事、又同じ平面圖に在つては同一の縮尺を用ふべきことを知らしむべし。由來地圖は廣大なる土地を狭小なる紙面に描きて展覧の便に供するものなれば、實地と圖上との長さをして、常に正確なる比を保たしむること殊に肝要なり。縮尺は又獨り距離につきて縮小の意を知悉せしむるに止まらず、面積につきても縮尺によりて縮小の割合は定まるものなり。其の縮小の度は、一般人の考ふるが如きものにあらずして、甚大なることをも知らざるべからず。されば縮尺の觀念を興ふること共に、縮圖の觀念を興ふることも必要なり。而して之れが十分なる觀念を得しめんには、同一物體を種々の縮尺にて表示するの必要あり。此の際特に注意すべきは、縮尺の伸縮すべき數をして簡單なる倍數たらしむるにありとす。これ縮尺と縮圖と

の關係を明瞭ならしめ、比較考量を容易ならしむるに必要缺くべからざる條件なればなり。上圖は縮尺の意義を明確ならしむると同時に、縮尺と縮圖との關係を明瞭ならしむる利便を得しめんとし、左の方法を取れり。小學地理書を、縮尺四分の一、同八分の一、同十六分の一の三様に描けり。これ其の縮小の割合を直觀せしめ、併せて距離と面積とは、其の縮小の割合大に異なる點あることを知らしむ。而して距離と面積との縮小の割合は、是亦俗間唱ふるが如き同一なるものにあらずして、實に左の如きものなることを知らむ。

距離	面積
1	1
2	4
1	1
4	16
1	1
8	64
1	1
100	10000
1	1
200	40000
1	1
20.0000	400.0000.0000
1	1
100.0000	10000.0000.0000
1	1
200.0000	40000.0000.0000
1	1
180.0000	32400.0000.0000
1	1
360.0000	12.9600.0000.0000

この關係により、縮小の割合は縮尺の分數の分母を自乗して、其の比例面積(かゝる稱呼はこれなき

も假稱して)の分數の分母となしたる數なることを知るべし。されば、比例の數は常に簡單なるを貴ぶ、斯く簡單なる數より成立せるときは、圖上に於ける距離乃至面積の測算は容易にして、且つ遠近・廣狹の比較にも利便なり。又縮尺を異にせる圖上に於ても、距離と面積とを比較するに簡便なり。

縮尺はかくの如く、距離に就いて、其の縮小の割合を示すべきものにして、面積に就いていふべきものにあらざることも悟了するを得べし。余輩は屢々かゝる質問に接し、次の如く答ふるを常とす。

或人縮尺二萬分の一の東京圖を持來りて、之れを二萬枚接合せば東京の面積と同一なるかと問はれたり。予は之に答へて、成程此圖を二萬枚縦(南北)に接合せば、東京の縦となるべきも全面積にはあらず。其二萬枚を横(東西)に二萬だけ、即ち二萬枚の自乗數(20000×400000000)四億枚を接合せざれば東京の面積を充たす能はずといへしに一旦は驚きたるも大に了解せられたり。

尙高學年の程度に於て縮尺を異にせる場合には、圖上に記入すべき地物、記號等は常に或る一定の方法によりて、省略すべきことも知らしむるを得べし。

又此の意義を貫徹せしめんが爲には、兒童の日々遭遇する事物につきて、縮尺の意を應用せる事項に注意せしめ、或は列舉せしめ、又は或る一定の縮尺を與へて各自の書齋又は庭園等の様を縮圖せしむるも可なり。かくして實尺と縮尺との關係を知らしめ、又縮尺にて描きたるものより實物の大きさ、實地の廣さを算出せしむる練習をなす亦妙なり。

第四 模式地の平面圖を描かしむべきこと

學校附近に於て兒童既習の地理術語を適用せらるべき地形あらば最も妙なれども、これなきときは、既修の材料を網羅し、理想的の模型を造らしめて、之れが適用を確實ならしむることに努むべし。而して之を各方面より觀察し、或は平面的關係、或は縦面的關係、或は因果的關係、或は比例的關係など、如何に成立せらるゝものなるかを了知せしむべし。

第五 鳥瞰圖の意義を知悉せしむべきこと

鳥瞰圖 とは英譯語にして、我が國語にて適當なる言葉を使用せるを見ず。此は空中を飛揚せる鳥の眼に映する有様を想像して寫し出したるの意なり。故に鳥瞰圖と云ふも可なり。換言すれば、高所より見下したる一種の見取圖なり。

斯くの如く、鳥瞰圖はその性質より見れば一種の見取圖なれども、外觀上は、地圖と繪との中間に位置するものなり。一面、繪に類し、一面、地圖に似たり。視る人の位置高ければ高き程地圖に近く、低ければ低き程繪に似たり。

故に地圖に似て地表の有様を稍正確に示すものあり。或は繪に類して物體の模様を活動的に現はすものあり。一小區域の全景を寫し出す方法としては、専ら此二箇の長所を有する點に於て他に其の比を見ざるなり。

是を以て鳥瞰圖の使用は漸次擴まり、或は全景を示すが爲に地圖と併用せられ、或は普通の繪と同じく幻燈書に應用せられ、教科書等に挿入せらる。我が國に於て昔の道中記等に掲載せられて地圖の名を得たるものの中には、地圖學にて云ふ正當なる地圖にあらずして、往々、繪又は見取圖の如き、或は鳥瞰圖に屬すべきものあり。我が國の如く山岳多き地に在りては、郷土誌を授くる際、鳥瞰圖により、實地と、模型或は地圖と對照比較せしむるときは、教授の効果甚だ多かるべきこと、著者の確信する所なり。これ茲に其の説明を敢てしたる所以なり。

第六 地圖の觀念を得しむべきこと

既習の教室・校舎・學校及び學校附近の平面圖、若くは一市・一町村の平面圖より一國の地圖に移り、茲に始めて地圖の觀念を興ふることを得べし。地圖は面積の大なる土地を表示する時に用ひらるゝものにして、平面圖の如く建築物若くは面積の小なる場合に用ひられず。随つて其の詳細を表示する能はざるの遺憾は免かれざるなり。されど地圖は土地の概觀を得しむるには必要缺くべからざるものにて、此の點に於ては唯一無比なること古今獨歩なり。其の取扱の輕便なること地理科教使物多しと雖も地圖の右に出づるものなし。爰に於て、地理教授の初めに當りまづ地圖の觀念を得しむるの、忽諸に附すべからざる所以を知るべく。又其の理明らかなるべし。

かくて、附圖を讀解する智識を附與することを得たるときは、家庭にありても學校に於ても地理を練

習する場合には、時間と事情との許す限り地圖に依りて行ふべく、又學習せし地方は大略地圖を暗寫することを得る様になすを大切とす。かゝる境涯に達して始めて地圖の活用如何を語るべきものとす。

殊に新教科書に於ては全巻を通じて、優良なる地圖ありて始めて各項は説明さるべきものなり。例へば關東平野の東北部よりは葉煙草を産し。西部北部と附近の山地とは養蠶製絲の業よく行はれ、桐生・足利・八王子など機業地として世に知られ、鑛山には日立・足尾の二大鑛山あり。又東海道線・山陽線・東北線は相つらなりて本州鐵道の幹線をなせり。等何れの項につき見るも、優良なる地圖と完全なる活用法との必要を感ずること一層大なり。これ返すくも地圖研究の必要を絶叫する所以なり。

第二編 本論 (教科書活用編)

第一章 教科書の概観

第一節 教科書に對する態度

新刊の教科書の教材の選擇・組織・分量等に就ては、吾人年來主張せし自學自習の教育法に合致し、之を實現するに恰當せるを喜ぶものなり。而して此主義を貫徹せしむるには、教授者の努力一層大なるを感せずんばならず。抑々吾人が地理教授上最も意を致すべき點は、郷土に於ける地理的觀念を整理補足し、或は敷衍擴充して地理學習の基礎となるべき諸觀念、即ち境域・地勢・氣候・産業・交通・都邑等に關する一般原理を、教師指導の下に研究闡明せしめ、之に基きて未見未習の地理的諸現象を、自力究明せしむるの資たらしめんことを努むるにあり。是れ前編に於て詳細に論議せし所以なり。之が爲には先づ郷土地理を以て之が出發點とするに在り。故に教科書が如何に之と離合し居るか。又兒童の經驗界と如何なる交渉を保てるか。將又如何に兒童の精神界を洞察したる記述を爲せるかは最大問題なりとす。是に於て吾人は教科書に入るに先ちて、前編に述べたる如く、兒童の過去四ヶ年間に於て諸教科より得たる地理的智識を回顧して、其内容の精査を遂げ、實地踏査と諸他の經驗とに訴へて、

地理内容の充實せるものとなすを要す。新教科書に於ては、此等は全く省略せられたるを以て、之が補足擴充をなすは全く教授者の手腕と方寸に存す。これ教授者の努力に待つ所以なり。若し郷土地理の教授にして粗雑ならんか。教科書の精神は没却せられて、全く一種の名詞の羅列教授、實質虚空の教授に終るべく、少くも地理的内容の充實せられたる教授と認められざるものたるは、想像に餘りあり。故を以て、郷土地理に於て教科書の項目に因みて立案し、兒童過去の觀念を整理統一し、兒童の精神界を組織的に概括せしめ、一團の鞏固なる智識となし、所謂模式的觀念を形成するを務むるに在るは、是亦前編各章に於て縷々述べたる所の如し。只忽にすべからざるは郷土の地理教授によりて、一には地理的用語の内容と地理の概念とを與へ、二には未だ踏もせざる異境の土地に對し、内容の充實したる學習を爲し得る基礎的智識を授け、地理學習の順序方法を知らしめ、之が學習上の訓練を爲さしむるにあり。斯くして教科書に入らば、兒童をして確實に地理的學習の基礎能力を持たしめ得て、其の學習は速かに且確實に行はれ、郷土地理に割愛したる時間は生み出され、猶餘裕ある教授を爲すことを得るに至る。是れ最も注意すべき緊要事となす。又教科書に於ける用語・術語の多種多様なるは未曾て見ざる所、教授者は細心の研究を要す。教材研究に於ては、之れが標準たらしめんと欲して解する所ありたり。尙教科書に對する態度は節を更めて述ぶる所あるべし。

第二節 教科書の特徴

吾人は新教科書が、舊教科書に比して如何なる點に於て編纂上の注意は拂はれたりしか。又内容は如何に變更せられたるか。又文章は如何なる程度に改訂せられたるか。將又記述の體裁は如何等を知る爲に、新舊兩教科書につき、一々對比して其の異なる所を點檢し、新教科書の特徴の存する所を見出さんとして、種々の比較對照表を作り、大に研究する所ありしが、要するに結果は、前編の諸教科に表はれたる地理教材の回顧の必要こそあれ。舊教科書を檢するの必要はさまでなきに似たり。されば茲には唯新教科書の必要なる美點・缺點、並に舊教科書中、特に必要を感ずる部分とを掲げて之を説明するに止めん。殊に新教科書の美點、即ち特色につきては、大に之が發揮に努むべし。先づ開卷第一に注目すべきは、全體の組織・記述の順序・教材の排列並に分量等なりとす。左は新教科書の特徴ともいふべき概要を抽出したるものにして、之に依りて教授の方針を建て、教授の進行を圖り、兼ねて之が完成を期すべきなり。

- 一 地方の行政區分を各地方の筆頭に掲げしこと
- 二 教材の記述は地方單位に據り、彙類的に排列せしこと
- 三 教材の説明は具體的論理法に據りしこと

- 四 自然事項と人文事項との聯絡に留意せしこと
- 五 教材は時世の進歩に伴ひ、其要求に適應せしめしこと
- 六 教材の異同を精査し大局に着眼して、其輕重要否に注意せしこと
- 七 記述の體裁は系統的組織的科學的に整理せしこと
- 八 地勢を山岳・河川・平野・海岸の名辭を以て的確ならしめたること
- 九 産業の記述を精細にし、且之に一層重きを置きしこと
- 十 交通は海陸共に連絡區域を極めて擴大せしこと
特に航路を詳記せるは海帝國地理の實を擧ぐるに適切なること
- 十一 都邑・名勝・舊蹟の羅列的記述を退け、眞に該地方の代表的のものに止め、極めて簡單にせしこと
- 十二 日本全土より見て、教材の輕重多寡に注意せしこと。
- 十三 常に日本全體として纏りたる地理的觀念の涵養に努めたること
- 十四 具體的説明を爲し一層適切に概念を得しむるに努めたること
- 十五 國語との聯絡に鑑み文章を平易にし振假名を増加せしこと
- 十六 地理的用語術語を大に増加せしこと

十七 挿入圖畫を増加し比較圖表を採用せしこと

第三節 教科書の組織及び分量

第一組 組織

教科書全部の發刊を見ざる今日、俄かに其の組織の全部に互り、變更の有無・適否は之を詳説すべからずと雖も、大體上其の組織には從來のものゝ大差なきは推知するを得べし。第一卷に四國地方を繰上げ、外國地理教材の増加をなし得る餘地を與へたるは、寧ろ吾人の唱導し來れるものと一致せるを喜ぶものなり。而して其の内容並に記述の體裁に至りては大に異なる所あるを見る。そは目錄に於て其の然る所以を知ることを得べし。

目錄 ()を施せるは上欄の記事なり

第一 大日本帝國(面積・四周・氣候・國民・區分)	一頁
第二 關東地方	五
一 區分	五
二 地勢(山岳・河川・平野・海岸)	六
三 産業(農業・工業・鑛業・水産業)	九

四 交通(鐵道・航路)	一二
五 都邑(東京府・神奈川縣・千葉縣・埼玉縣・群馬縣・栃木縣・茨城縣)	一五
六 伊豆七島・小笠原諸島	二一

第三 奥羽地方

一 區分	二二
二 地勢(山岳・河川・海岸)	二三
三 産業(農業・工業・牧畜・林業・鑛業・水産業)	二六
四 交通(鐵道・海上の交通)	三〇
五 都邑(福島縣・宮城縣・岩手縣・青森縣・秋田縣・山形縣)	三一

第四 中部地方

一 區分	三四
二 地勢・氣候(地勢・山脈・河川・平野・海岸・氣候)	三五
三 交通(鐵道・海上の交通)	四一
四 産業(農業・工業・林業・鑛業・水産業)	四三
五 都邑(静岡縣・愛知縣・岐阜縣・山梨縣・長野縣・新潟縣・富山縣・石川縣・福井縣)	四九

第五 近畿地方	五五
一 區分	五五
二 地勢(西北部・南部・中央部・海岸)	五五
三 交通(鐵道・航路)	六〇
四 産業(農業・商業・工業・林業・農業・水産業)	六二
五 都邑(滋賀縣・京都府・大阪府・兵庫縣・奈良縣・和歌山縣・三重縣)	六六
第六 中國地方	七四
一 區分	七四
二 地勢	七四
三 産業(農業・牧畜・水産業・工業・鑛業)	七五
四 交通(瀬戸内海方面の交通・日本海方面の交通)	七六
五 都邑(岡山縣・廣島縣・山口縣・島根縣・鳥取縣)	七九
第七 四國地方	八〇
一 區分	八三
二 地勢(山岳・河川・海岸)	八四

三 産業(林業・水産業・鑛業・其他の産業)	八五
四 交通	八七
五 都邑(徳島縣・香川縣・愛媛縣・高知縣)	八八

かくして第一卷に四國地方を増加したるを以て、時間上の制限を來し、茲に材料の取捨選擇を嚴にし、又教材排列の變更を來したるは、是亦止むべからざる情勢なりとす。

第二 挿入圖畫及び教材の分量

修正編纂趣意書には、挿入圖畫の増加は十七即ち三割餘にして、分量即ち頁數の増加は十頁なりといふも實は共に然らず。挿入圖畫増加は個數は十七ならんも、一面にして二個なるものありて、説明上は格別に爲すべきものなり。故に其の數に於ては二十八の増加なり。又頁數も十頁の増加なりといふも、實は三頁内外の増加に過ぎず。即ち舊本の一頁は十一行二十三字詰にして新本は十行二十一字詰なれば、單に頁數のみの計算にては不可なり。又一頁につきて見るも、二行一字の減少なれば、頁數は増加せしも説明は寧ろ減少せし割合なりとす。かく形式上よりは減少ならんも、細かに内容につき精査するときは、教材は實質的には大なる増加にして、其の多寡は直ちに斷せられざるなり。教授者は深く此に留意して、形式上の増減に眩惑せざらんことを希望して止まざるなり。教授者尙は分量其の他につき新舊教科書を比較すれば大要次の如し。

事項別	頁數		增加	插畫數		增加	一頁の字數	
	舊本	新本		舊本	新本		舊本	新本
大日本帝國	四	五	1	0	(-)	1	十一行 十行二	
關東地方	一四	一七	3	九	(-)	5	二十三 十一字	
奧羽地方	一〇	一二	2	七	八	1	字詰に 詰にし	
中部地方	一六	二〇	4	一一	(-)	10	して二 て二百	
近畿地方	一五	二〇	5	九	(-)	11	百五十 十字	
中國地方	九	九	0	六	六	0	三字	
四國地方	六	六	0	五	五	0		
計	七四	八九	15	四七 (四)	七五 17	28		

次に比較圖(四)につきましては、前編に於て其の概要を述べたるを以て、茲には其の取扱に關し少しく述ぶる所あるべし。

一 面積比較圖は、日本各部の面積の割合を確實に記憶せしむるの便に供するを以て主とし、決して些鎖たる數等に拘泥すべからざるものなれば、兒童には容易に模寫し得て、其の牢記に適するものたるべし。

く、從て圓形よりは方形に據るを以て絶對的に適當なるものとす。此の點は前編を参照せられたし。
 二 産額比較圖表は挿入せられたる場所に於て比較し解せしむるを以て満足せず、關係ある地方に於ては十分之を活用すべく、之が教授者の工夫を要す、尙進んでは之によりて比較統計圖表の見方を授け、依つて以て他の教材に於て教師の示す圖表をも容易に會得し得べき觀察力をも養ふ基礎たらしむべく取扱ふを要す。故にかゝる意義に於て取扱ひ、統計比較圖の模式として、兒童學習の指導に用ゐるは、僅か三個なりとも其効果を大ならしめ得べきものとす。須らく活用の場合方法を講明するを要す。

第四節 記述の體裁、並に要旨

記述の方法は大に之を改めて、從來は各地方を地方一(總論)と地方二(府縣誌)との二方面に分割し記述したるに、新教科書に於ては之を廢し、全然單元を地方に求め、一、區分・二、地勢・三、産業・四、交通・五、都邑とし、時に地方によりては氣候の項を入れたるものあり。殊に都邑の如きは各部關係の事項につきては、其の各項目内に於て各々關係的に之を記述し、特に概括したる記事なし。換言すれば舊教科書は處誌に重きを置きて記述せしも、新教科書は比較的重きを産業交通に置きて記述し、府縣の部に於ての都邑は僅かに其の主要なるもの、一若くば二三を記述するに止めたり。又其の記述方法も系統的科學的になしたることは、新教科書の舊教科書に勝る所にして、吾人の最も研究を要する所

なりとす。而して教授上よりは各府縣に於て、説明の重複を避け得る便利を得たるは其の特徴の一なりと信す。更に要旨と要項とを挙げ、其の然る所以を示すべし。

第一 大日本帝國

纂編の意趣

大日本帝國の章に於ける主なる修正は、「畿内八道、八十五國云々」の記事と、地方區分の記事とを削除して、我が國各部面積の比較と國民の民族とにつきて附説したること及び新に租借地關東州に關する記事を加へたることとなり。而して地方區分の記事を削除したるは、此の章に於て一時に多數の地名を教授することを避け、章を重ぬるに従ひ漸次之を修得せしめんが爲なり。

本章は我が帝國の總論にして

位置、成立、廣袤、面積(各大部の比較)、四周、氣候、天産、住民の種族別、並に其の人口、區分(單に行政上の區分のみ)とし

以て、帝國に關する地理上の大觀を與ふるを以て要旨とす。

尙ほ地勢上に基ける、地方別の概觀を與ふる必要を認む。即ち之によりて今後學習する地方は、我が帝國の如何なる部分なるかを知らしむること、各民族の人口を詳説すると軒輊なきを感ず。教授者は之を附加教授の要あるべし。

第二 關東地方其他

本章以下は、殆んど一律に最初に(一)區分に於ては本地方の位置を説き、其行政區劃(一府六縣)と是等の府縣廳の所在地とを示し、以て位置境域の概念を與へ、次に(二)地勢に入りては、直ちに其の概要を授け、次いで山岳・河川・平野・海岸の各要項に分ちて詳説し、或は氣候を附説し以て産業交通の興起する所以を知らしめ、(三)産業の項に移りては、農業・工業の發達の狀態より、鑛業・水産業の土地と離るべからざる關係に及び其の旺盛なる狀を述べ、之と關連して(四)交通の必要を叙し、海陸共に其の中心地を控ふる由を説けり。(五)都邑に於ては、各府縣に於て代表的、又は特殊の事項に名あるものを、稍詳細に叙べたり。關東地方に在りては、特に(六)伊豆七島・小笠原諸島を掲記し、太平洋中に點在して氣候・産物等の異なる所を推究せしむると共に、太平洋海底電線の中繼所たるを示し、やがて帝國の南洋方面に發展の根據地たるべきを暗示せり。

奥羽地方以下、大要之れと大同小異なるは目錄によりて之を知るを得べし。尙ほ各地方を通して、地方の終りに於て該地方の概括をなす必要あるを認む。其の要目を挙げれば次の如し。例を關東地方に取れば

- 一、本地方の地文・人文の事項を復習概括して、其の特色を一層明確にするを以て要旨とす。
- 一、本地方は政治・産業・交通の策源地にして、且大中心地をなせることを知らしむること。
- 一、本地方の主要なる生産品、及び生産地の復習概括。

一、都邑の性質(政治上産業上)を復習總括し、何れも東京・横濱と密接なる關係あることを知らしむること。

一、産業の發達と都邑分布多ときは、交通機關の普及を促せることを明にすること。
一、地方の描圖。

第二章 地理的要素の取扱

既に述ぶるが如く、新教科書は地方單位とし、彙類體によりて説明せるは最も其の要を得たるものなり。斯かる精神を透徹する教授を得んには、各項目に互りて之を精査研究するによりて始めて領解し、豫て兒童をして眞の地理を會得せしめ、所謂地理的興味は喚起せらるべし。故に煩を厭はず編纂の趣意のある所を各項の筆頭に掲げたり。吾人は常に之を服膺して教授に當り、之が貫徹を計るべきなり。區分の項目に於ては概觀的教授をなし、その他の項目に於ては分解的教授をなし、最後即ち各地方の終りに於ては地方の概括的教授を爲すを以て、各地方の教授の概要となすべし。これやがて日本地理乃至地理全部に互りて教授の段階なるべしと信ず。故に吾人は教材の大小多寡を論せず、之を以て常に則るべき手段方法なりと認め、順次之が要點を摘記すべし。

第一節 區分の取扱

此の項目に於ては、其の地方の行政區分の大體を知らしめんとするものにして、各府縣につきては精細なる觀念を得せしめんとするにあらず。各府縣の位置・境域の如きは、地圖によりて容易に理解し得べきを以て、本文には之を記載せず。又各地方の位置境域も極めて簡略に記載するに止めたり。

區分といふも、其の内容につき穿鑿するときには單なる區分に止まらずして、地理學上所謂境域の意義に恰合するものなり。即内容の要項を擧ぐれば

位置(本州の東部にあり) 行政上の區分(一府六縣)
府縣廳の所在地(東京府^{東京}(横濱川縣)^{神奈}……………等

(廣袤・面積・四周は地圖によりて推究すべきもの)等にして、何れの項につきて見るも、之を徹底的に了解せしむるには、地圖と密接不離の關係を有たしむべきは言を須たす。従つて關東地方の廣袤・面積・四周の事項は本文にはこれなしと雖も、此等の状態は必ず知らざるべからざる所なりとす。茲を以て本項の區分に該當する段に於て、教材研究の章に於ては全然之を境域と見做して、總て境域の要項を掲記することとせり。而して以上の取扱は、恰も日本地理の當初に於て日本帝國の大觀を與へんが爲に大日本帝國の章を設けたるが如く、關東地方の地理的大觀を得せしめんが爲に設けたるものと見るべし。従つて當地方地圖を辿つて、其の日本全國に於ける位置と、其の地方に於ける府縣の配置の大

観を知らしめ置く必要あり。若し此用意を缺かば、必ず地勢・産業・交通の各項の内容教材が、雜然として兒童の前に展開せらるゝに止まり、收拾すべからざるに至る。此點より見ても地圖の研究を必要とする所以明かなるべし。尙茲に一言すべきは、位置は教科書にも「本州の東部にあり」と簡單ながらも記しあり。然るに廣袤並に面積に至りては、大小の比較すらこれなきは、本學年に進む迄に各教科に於ても、時に圖上の距離測定により、即ち地圖上の實習によりて之を明瞭ならしめたる所なるを以て、本文にはなしと雖も、吾人は必要と認めたる故に之を掲記せしなり。又四周も同じく地圖上に於て知ることを得べきを以て單に掲記するに止めたり。區分、即ち行政上の區劃と府縣廳の所在地とにつきては、地圖を離れては全く意味をなさざることゝなり了るものなれば、一府六縣の位置、並に境界線は地圖を辿りて知るべく、又行政官廳の所在地もかくあるを以て行政上最も便利なりとすといふ推定を地圖によりてなすべきものなりとす。而して府縣廳の所在地たる都邑は、人文上の事項に於て、何れの都邑よりも進歩發達著しく隆盛なりと斷すべきものにて、府縣中最も繁華なる都會たるを失はざるものと認定すべき者なり。上の意味に於て府縣廳の所在地の取扱はなすべきものなりとす。こは前編の都會研究の項に於て明記せる所なれば、必ず兒童をして實地の調査研究を積み、其の然る所以を悟了せしむることを圖らざるべからず。是れ郷土地理の研究と相待つて其の内容を充實することに努むべき所以なり。

第二節 地勢・氣候の取扱

地勢を細別するに當りては、舊教科書一・二又一・二・三の區分を廢し、之に代ふるに或は山岳・河川（又は河川・平野）等の地形上の名稱を以てし、或は日本海方面・瀬戸内海方面等、地理上の地方區分の名稱を以てするなど、土地の情況によりて一様ならず。又各地方の地勢中、必ず其の概念を得せしめんが爲めに、便宜其の總論を加へたる所あり。關東地方・中部地方・近畿地方等に於けるが如きもの即ち是れなり。

氣候は中部地方にありてのみ之を特筆し、其の他の地方にありては地勢・産業・交通等の項目に於て、是等と關係して之を記述するに止めたり。

本項の冒頭に於いて、山岳は國土の骨格にして、平野は其の皮肉なり。又河川は其の血管にして、海岸は此等の輪廓をなす。といへる如き關係の梗概を敍したるは、地理的要素の相互間には離るべからざる有機的關係ありて、此等の要素が相倚り相俟つて、其の地の自然地理の素地を形成し、人文界を支配し、又は人類に利用せられて、我が國第一の大平野、しかも豊饒なる關東平野を現出したるものなりとの概観を明確に與へたるものなり。此點は教授者の最も意を致すべき所なりとす。更に山岳・河川・平野・海岸の要素を各別に記述するは、此等各要素の性質を知るを要するを以てなりとす。かくの

如く分類極めて明確に、餘りに彙類的に走りたるを以て、教授者は此等各項目相互の關係聯絡には最も注意を要す。然らざるに於ては羅列的彙類的教授の弊に陥るは免る可からざるべし。

山岳につきては、山脈の位置、並に性質(火山脈と非火山脈)の相異より、脈中の著名なる山岳を挙げ、土地に關係ある理を述べ、殊に火山地方の特徴として、風景に富み温泉湧出して、保養遊覽に適する地を現出する由をも叙し、以て山岳の利用が如何に大なるかを見しむ。

河川の項に於ては、専ら其の利用の方面に重きを置きて、上流にては發電の用に供せられ、下流にては灌溉運輸の便あり。又湖沼あらば之と連絡して一層其の利をなす理を述べ、關東平野は此等の利を占むるのみならず、地味肥沃、産業盛大にして河川との關聯に於て、又其の交通の盛衰より戸口の疎密に及び、終に大都邑の分布密なる次第を記す。海岸は著名なる出入、即ち半島・港灣の狀勢より商港・軍港・都邑の因て起る理を示し、又出入少く良港乏しき地も、氣候の温和と風景の美なることによりて保養地になれる理由をも挙げ、地人の關係を摘出せらる。

之を要するに地勢は其の地方に於て顯著なる山岳・河川・平野を中心とし、之を出發點として山脈山頂の位置走向(讀圖による)、及山脈と土地との關係より、河流・平野の方向等を知らしむると同時に、如何に人文を左右し、又如何に人類が之を利用するかを提議せらる。最後に港灣・島嶼・海岸の狀況等について觀察を遂げ、其の利用の多少を挙げたり。尙此際に忘る可からざるは、地圖との聯絡を保ちて、

時には簡單なる略圖によりて、山岳は河川・平野等の骨格となり、又は相互の關係(地勢と交通・氣候・風景・産業・民情・風俗・政治・文化との關係)を示すべきものを記入せしむることなり。かくて人文地理の基礎を了解せしむることを得しむるにあり。以上の如く、地勢の研究には此の四項目は缺くべからざることを知らしめ置くは、學習訓練上最も必要なることにして、既に前編郷土地理研究の際に於て特に切言したるが如し。

又氣候は自然地理考究上必要な事項たるにも拘らず、中部地方の外に記述なきは、我國の氣候は各地方に於ては殆ど同一にして、特記すべき要を見ざるを以て。時に地勢・産業等と關係せしめて、附隨的に記述しあれば、輕々に看過することなく、氣候も亦自然界考究には除外すべからざる事項なれば、常に注意して取扱ふべきものとす。尙氣候を左右する原因に就ての推究は必要なれば、土地・緯度の高低・海流の寒暖・土地の陰陽・海岸よりの距離等は、氣候の變化に大なる關係あることを、時に應じ機に觸れて説示することを忘るべからざる事とす。

第三節 産業の取扱

産業に關する教材の取扱につきては、當該地方と日本全國とより見て、重要なものは多く之を産業の項目に納め、其の他は多く之を都邑の項目に納めたり。又所々へ産業と貿易との關係をも

編纂の述べたり。産業の項目に於ては、各種の産業と自然事項・人文事項との關係の如何によりて、其の排列記述の方法とを異にし、又其の最初に總論を附せる所と附せざる所とあり。總論を附せる所は、産業の前に配置せられたる地勢、又は交通の項目に於て其の産業との關係につきて記述せる所を以て總論に代へ得べきなり。

産物を列挙する場合に於ては、其の産額の多寡・重要な程度等によりて之が順序を定めたり。

産業は新教科書に於て最も意を加へられたる所にして、其の記述も亦精細に互りたれば、其の取扱も多大の努力と注意とを要す。即ち其の内容並に記述の體裁について見るに、關係地方各地の一般地理を學習したるものにして始めて知るべき記述なり。今之が項目を擧ぐれば、農業・工業・鑛業・水産業にして、何れも彙類的に列記せり。こは尋常科第五學年に進みたる許の兒童にとりては、尤も困難とする所なり。前項の地勢も同様なれど、地勢は専ら地圖に訴へて了解せしめ得べき點多きを以て、比較的困難の度を軽減すと雖も、産業に在りては、地勢交通の如く具體的に指示すべき方便物少く、單に推理による外途なきを以て、新教科書の如き分支的記載に於ては、尤も困難とせらるゝ所なり。此點より見れば、舊教科書は兒童の心力に適合せる排列と記述なることを認む。是新教科書使用者の最も苦痛とする所にして、亦最も編者の意を致せる所なれば、ゆめ忘るべからざる點なりとす。一例を擧ぐれば、關東平野の東北部よりは葉煙草を産す。又平野の西部・北部と附近の山地とは養蠶・製絲の業よ

く行はる。又東京横濱と附近の地とは數多の大工場ありて、盛に綿絲・毛織物・砂糖・肥料・洋紙・船舶などを製造し、又雜貨を産出す。なる事項を徹底的に教授せんには、兒童をして平野の東北部・西部・北部及山地の位置を的確に知らしむる必要あり。教授者は先づ以て兒童に關東地方の一般地理を授け、次に此項の説明に入るべく種々なる工夫を要す。又綿絲・毛織物・砂糖・肥料・洋紙・船舶・雜貨等は、何れの地なる何工場より何程産出し、其の原料を何地より入れ、製品は如何なる機關を通して何地に輸出するかを的確ならしむるには、是亦多大の努力と智識とを要す。即ち東北部・西部・北部・山地等の位置關係は優良なる地圖を待たずして知らるべく、かくて之が觀念を明瞭ならしむるの必要なるは何人も異論なかるべく、而して教科書に於てかくなすことは一段の努力と工夫とを專要とす。

産業・産物の記載は都邑其の他の項にも見ゆれど、其の都邑の項にあるものは、概して地方的性質を帯べるものと見るべく、其の産業上の地位及び産額數量に於て、日本的のものと認めらるゝものは、主として産業の項に掲げられたるは、編纂趣意書にも見ゆる如し。故に本項の産業は、其の意味に於て十分了解せしむること肝要なりとす。

又或産業に就いては、其の中心地を明記したるものあり。此等は産業分布圖を作りて、之を以て教授すべきことは缺くべからざる作業の一なりとす。

尙ほ産業に關しては、關東地方の如く總論を掲げたるは、其の大觀を擧ぐるの目的に出でたるは明瞭

なるが、中には之れなき地方あり。其等は地勢・交通等に散記せられたるものを集めて、其の大觀を得しむる様に努むべきなり。決して其の地方の産業の大觀を作り難く、乃至は必要を認めざるが爲めに、記述を避けたるにあらざることを念とし取扱ふべきなり。

第四節 交通の取扱

編纂此の項目に於ては、當該地方と日本全國との關係は勿論、更に外國との關係をも考察し、殊に海上交通に在りては、我國との密接の關係ある外國航路に對して、從來より一層の注意を拂へ意趣あり。

交通も當初關東地方の交通系の大觀を與へんが爲に、政治産業の大中心地たる東京・横濱を介し、陸に鐵道發達し海に内外諸港に通ずる航路あることを叙して、日本交通の要部を占むる所以と、其状態を知らしめたり。今其の内容につき見るに、總記・地方交通・全國交通・世界交通に分ち、且此等相互の連絡に注意せり。次に關東地方に於ける主なる鐵道の幹線と、其の相互の連絡を述べ、更に他地方と連絡して本州鐵道の幹線を爲すことを述べたるは、稍詳細に過ぎたるの觀あり。或は時に地勢と交通との狀況については、彼の確氷峠の險路には二十六のトンネルと、世界有數の敷設法なるアプト式鐵道を以てせる状を述べ。又航路には太平洋を横斷せる北米航路・南米航路より支那の上海・天津航

路・印度のカルカッタ乃至孟買航路に及び、或は歐洲・濠洲の航路等、内外諸港に通ずるものを述べ、日本有數の交通系の中樞たる状を叙し、東西兩洋の要衝に當る由を知らしめ、吾が國の使命の大なることをも偲はしむ。

かくの如く本項の記述は關東地方の一部交通に止まらず、其の地方交通と全國交通との關係及び海外諸國との交通をも記述したるは、數多の教科書中未だ嘗て見ざる所、恐らく中等程度の教科書に於ても殆んど見る能はざる所なり。若し此の三交通の状態、並に此等の聯關せる事項を充分に教授したらんには、關東地方の交通教授の終了と共に、日本全土の交通、少くとも本州全部の交通教授は終局せりといふべし。之れ其の取扱の非常に困難なること明なり。蓋し其の地方交通は必ず徹底的に授くるの要あるも全國交通・世界交通に至りては、本地方の項のみにて終るべきものにあらずして、茲には交通は他地方の交通系と連絡を保つに於て、其の效果の大なることを知らしむるに止め、序を追うて各地方に於て徹底的教授を施し、終に完了せしむることを努むべきなり。即ち本項に於ては、全國・外國の二交通はかくの如く他と關係の重要なことを知らしむるを以て足れりとすべし。或は此等交通地圖を作らしめ、或は其の確實なる發表を要求するは過大なり。此等は追次各地方の教授を進むるに従つて、確實なる度を進め、精細なる歩を高め、次第に正確なる發表をも要求し得る域に導くべきものなりとす。

交通機關と社會文化との關係より、人力の自然力征服の時代進化に及び、交通機關の施設には都市連絡上より、貨物運送上より、軍事上より、將遊覽客の便否の目的等より定まること、亦交通系の有機的組織の必要なることも理解せしむべきなり。

第五節 都邑の取扱

都邑の中には地勢・産業・交通・區分等の項目に於て、是等と關係して掲げたるものと、都邑の項目中に掲げたるものあり。而して前者の中、更に都邑の項目中記述するの必要なしと認めたるものは、再び此に之を掲げず。最初に總論を附せる所と附せざる所とあるは、産業の場合と其趣旨を同じくす。

編纂の趣意

都邑の項目中にある都邑の排列につきましては、位置及び交通上より先づ各府縣排列の順序を定め、次に各府縣内に於ける都邑排列の順序に及び。隨て舊教科書に比して府縣排列の順序に相違せるものあり。又必ずしも各府縣の府縣廳所在地を最初に置かすして、其の他の都邑と相前後せるものあるを見るべし。

教科書の都邑の部は其の記述甚だ簡單にして、上欄に於て各府縣の見出しはあるも、眞に其の要を見ざる程なり。其の目を掲げんか

東京府 東京市あるのみなり

神奈川縣 横濱港・横須賀軍港・鎌倉を挙げ

千葉縣 野田・銚子・船橋を記し

埼玉縣 所澤・秩父地方を紹介し

群馬縣 前橋・高崎の二地を記し

栃木縣 足利・佐野・宇都宮・日光等を詳細に叙し

茨城縣 水戸一市のみ

にして一府縣内、少きは一市多きも四ヶ所に過ぎず。加之區分・地勢・産業・交通の項に互りて、各所に紹介せられたる都邑を除きては、其の記述も分量も簡單を主として、本文に表はれたる記事のみなるは甚だ疑問なり。此等は都邑の段に於て復演せしむべきものとす。即ち府縣廳の所在地として、或は保養遊覽の適地(鹽原 日光 伊香保 箱根)として、或は商港(横濱)軍港(横須賀)首府(東京)産業 政治の中心地(東京 横濱)機業地(桐生 足利 八王子)大工場地(東京 横濱及附近の地)として、數多の物産の産出地として、或は商業地(東京 横濱)鑛業地(日立 足尾)鐵道の起點地(東京)内外航路の中心地(横濱)として既に記述せられたる所にして、各方面各別に研究せられたる所なり。而して總論は記載ある處と然らざる所とあり。其の取扱は産業の場合と同一の趣旨に依るを可とす。故に一都邑にし

て種種の方面より見て、各項に分ちて記述せられたるもの少からず。左に東京と大阪との記事に據りて其を例證すべし。

東京市

- 區分の項に於て 地方廳所在地の東京
- 地勢、、、 東京灣沿岸の首府東京
- 産業、、、 大工場所在地の東京
- 同 商工業地の東京
- 交通、、、 鐵道起點地の東京
- 都邑、、、 帝國政治の中心地の東京
- 同 帝國學術の中心地の東京
- 同 帝國最大都市の東京

大阪市

- 區分の項に於て 地方廳所在地の大阪
- 地勢、、、 大阪灣頭の大商港の大阪
- 交通、、、 鐵道四集の大阪

同 内外航路の發着地の大阪

産業、、、 帝國一大工業地區の中心地の大阪

同 主なる工業品製造の大阪

同 帝國貿易の一大商港の大阪

都邑、、、 古來商業交通の一大中心地の大阪

此の如く各所に散點記載せられたるものを綜合し來れば、都會の内容は甚た充實せられあるを見る。故に都邑を取扱ふ際は、既授の關係事項をば復習的に整理し、其の都邑の總體的扱をなすと同時に、他の都邑との依存の關係をも述べ、此處に都邑の項に出で來らざる都邑をも統括的に取扱ひ、各都邑の性質並に依存の位置・關係を克く了解せしむることは最も緊要なる事とす。

都會の教授に於ては其の現状を知らしむるのみならず、其の發達原因を推究せしむること亦必要なり。都會發達の要件中顯著なるものは、自然及び人文上の關係に基くものなり。此等は單獨原因にのみよりて發達せるものは極めて稀有なりとす。前編に擧げたる都會研究中、繁榮の要素として列記したるものは、即ち其の素因たるべし。又都會の大小盛衰は都會との距離の遠近、及び交通の便否によりて定まることも忘るべからざる要件なりとす。東京附近に都會の勃興せざるは其の適例なり。尙ほ都會發達に必要な關係事項を列記すれば、兵營・學校・官衙・神社・佛閣・名勝・舊蹟・會社・工場・産

物・産業並に交通機關の便否によりて定まること、及び人口の多寡も看過すべからざることを記憶すべし。

以上は地理的要素の各項目個々につきて觀察したるものなるが、實際教授に際しては、各要素相互の相關する方面に留意して、關係的に將又有機的に教授するの要あり。元來境域・地勢・氣候・産業・交通都邑等の地理的要素は、相聯關し一體となりて、一の國土の地理を形成せることは、其の折々に説示したるが如く、山岳は國土の骨格、平野は其の皮肉、河川は其の血管、雨は其の營養、風は其の呼吸、交通は其の神經、都會は其の中樞にして、海岸は其等の外廓を劃し、相互に相待ち相助けて一團の國土を構成するものなり。故に之を分離教授するに於ては何等の意味をなさず、恰も人體を解剖學的に説明したると同じく、頭、胸、四肢の各部の教授は如何に完全に行はれたりとも、之を脈絡一貫したる人體となすこと能はざるべし。即ち生命ある人體とはなし得ざること固よりなり。殊に本教科書は屢次説明したる如く、教材排置の餘りに彙類的に傾きたるを以て、大なる注意を拂はずば相互に影響を及ぼせる事を忘るゝ弊に陥るべし。相關的教授の活用については特に工夫して、一生面を開くの要あるを認むるものなり。

第六節 伊豆七島小笠原島の取扱

本項は東京府の管轄なれども、遠く離れて太平洋中にあり。地勢殊に氣候に於て著しく異なるものを以て、別項を特設して是等諸島に關する自然人文一切の事項を總括するに便ならしめたるものなり。故に地勢と産業、氣候と産物・産業との關係等の理法を知らしむる模式たり得べきを以て、諸他の關係を盡して充分に補足敷衍して教授すべきものなりとす。

又かゝる大洋中の島嶼は交通上の要所として、將又日本の南洋方面發展の根據地たり得る點に於て、交通上政治上軍事上の要地たる事も附帶教授すべきものなりとす。

以上の意義を徹底せしめんが爲には、太平洋を展開せる地圖に據り、或は地理附圖中、關東地方圖の取扱に於ては、關東地方の他の部と島嶼部とは常に縮尺を異にせるを以て、之を同一縮尺に調製して貼り繼がしむるときは、兒童は小笠原諸島の東京を距る如何に遠隔なるかに驚くべし。是に於て氣候の暖かなること、之と關聯して甘蔗・バナ、等の産出の偶然ならざること的確に領知せしめ得て、他地方との比較關係も亦明瞭となるに至り、大なる効果を收め得べきなり。又太平洋海底電線の中繼所として、二見港の重要な理も亦領得し得らるべきなり。

第七節 挿畫挿圖の取扱

編一挿畫は大局より見て重要にして、且概觀のものに重きを置きて之を選択し、又其の數を増加し

纂の意 本文と關聯するやう之を配置せり。(中略)一挿書にして二項目以上に關係あるものは、其の關係の疎密と項目の前後とを考察して適宜に之を配置せり。

本書には新に我が國各部の面積比較圖一面と、重要産物に關係する圖表三面とを挿入せり。既に述べたるが如く想像に依りて學習する本教科に於ては、地圖・標本・寫眞・繪畫・繪葉書其の他の方便物を利用して、其の實況を髣髴たらしむるに於ては、理解を容易にし印象を深くする上に至要のものにて、千百の説話よりも、文章よりも、其の實景を掲げる挿入畫を目睹せしむること、優に有效なることは吾人の常に經驗する所なり。

新教科書亦此見地に立ちて、頗る多種多様な繪畫を數多挿入したり。試みに其の數と圖畫の種類とを表示すれば次の如し。

挿入圖畫の種類別

實物寫生	風景畫	地理學上區別					合計
		地勢	交通	産業	都邑	其他	
	八	二	三	八	八	二	一〇
	二		五	二	二〇		四五
							一五
							四
							五

合計	比較圖		合計
	尺	形	
一〇	八	三	一三
二四	二	一	三
七四			三

備考、風景畫中全景とは視界に限りなく廣きものをいひ、分景とは視界の一局部に限られたるものをいふ。

第二章 教材研究の實際

第一節 地理教材配當表

注意 尋讀六の一は尋常小學校讀本卷六第一課 尋讀一は尋常小學校歴史卷一の略

週	題目	第一學期	
		十五週	三十時間
一	前學年の回顧	教授事項(配當時間)	聯絡
二	基礎觀念の整理	(四時間)	校外教授
三	地理學習上の心得		教科
二	我が國の位置		卷尺・間竿・定規・磁石・教室及校舎平面圖・學校附近の地圖及寫眞・飯山氏著地圖讀み方指教圖
一	我が國の成立		尋讀六の一本
三	備		世界全圖(メルカトル式)

四	第一 大日本帝國	面積 四週 氣候 國侯	(五時間)	同八の二二 世界の話	日本全圖(各部の自然に) 展開せるもの) 亞細亞洲全圖・面積並民 族の比較及増加圖表・地 方別區劃圖・帝國々々土膨 脹地圖
五	自己府縣の地	區分 自然地理 人文地理	(三時間)	校外教授	學校附近及府縣の地圖・ 重要市街地圖・重要物產 標本名勝及舊蹟地の寫真
六	自己府縣の地				

第一關東地方

七	一區分	關東地方の區分	(二時間)	關東地方地圖	日本全圖 關東地方行政區分圖
八	二地勢	關東地方の地勢概觀 山岳 河川 平原 海岸	(三時間)	尋讀七の十 六・十七	同地形圖・箱根山模型圖・ 利根川水系地圖・鹽原・伊 香保・箱根等の温泉場・中 禪寺湖畔・利根川・北條 三崎・鎌倉・大磯等の海水 浴場繪畫・寫真類
九	三產業	農業 工業 鑛業 水産業	(四時間)	關東地方の產業分布圖・ 東京橫濱附近の大工場の 繪畫・農産物・工産物・鑛 物・水産物等の實物又は 模型	關東地方の產業分布圖・ 東京橫濱附近の大工場の 繪畫・農産物・工産物・鑛 物・水産物等の實物又は 模型
〇	四交通	交通上の中心 鐵路 航路	(三時間)	關東地方地圖	日本全圖及關東地方の交 通圖・橫濱港灣地圖
一	三	東京府 神奈川縣			
二	二	東京府 神奈川縣			
三	一	東京府 神奈川縣			

一	五都邑	千葉縣 埼玉縣 群馬縣 茨城縣 栃木縣	(五時間)	東京見物 九の九 靖國神社	各府縣地圖(可成備付)東 京市其他の市街地圖又は 各地の部分地圖・繪畫繪 葉書の類・輸出入一覽表
二	六	伊豆七島 小笠原諸島	(二時間)	關東地方地形圖(富士火 山脈を示せるもの)氣候 を現示すべき動物植物の 標本・交通連絡圖	關東地方地形圖(富士火 山脈を示せるもの)氣候 を現示すべき動物植物の 標本・交通連絡圖
三	三	伊豆七島 小笠原諸島			
四	四	伊豆七島 小笠原諸島			
五	五	伊豆七島 小笠原諸島			

第二學期

十五週

三十時間

週	題目	教授事項(配當時間)	聯絡	教具
---	----	------------	----	----

第三關東地方

一	一區分	關東地方の區分	(三時間)	日本全圖・關東地方行政 區分圖・同地形圖	日本全圖・關東地方行政 區分圖・同地形圖
二	二地勢	關東地方の地勢概觀 山岳 河川 海岸	(三時間)	磐梯山・岩手山・岩木山・ 鳥海山・月山等の山容の 寫真・北上川・最上川・猪 苗代湖の寫真・金華山・松 島・男鹿半島の風景圖	磐梯山・岩手山・岩木山・ 鳥海山・月山等の山容の 寫真・北上川・最上川・猪 苗代湖の寫真・金華山・松 島・男鹿半島の風景圖
三	三產業	農業 工業 鑛業 水産業	(二時間)	牧畜・本邦馬匹頭數一覽 表・鑛山・水産・製材及林 相を示す標本繪畫類	牧畜・本邦馬匹頭數一覽 表・鑛山・水産・製材及林 相を示す標本繪畫類

六	五	四	三
五都			四交
地 邑			通
六	五	四	三
山	秋	青	宮
形	田	森	城
縣	縣	縣	縣
二一			七六五
海上の交通			同同同
(一時間)			林業 水産業
(四時間)			
(一時間)			本邦礦産物比較圖表・南部鐵瓶
(四時間)			日本及奥羽の交通圖
(一時間)			奥羽地方及各縣地圖・重要都市の地圖・各地の部分地圖及繪畫・繪葉書の類・林檎産額比較圖表
(四時間)			奥羽の地形及交通系圖

第四 中部地方

八	七
二氣地	一區
候勢	
六五四三二一	一中部地方の區分
同同同同同	
地勢概觀	
氣海平河山	地勢概觀
候岸野川脈	
(四時間)	
尋讀四の五	
同富十の士五	
日本一の物山	
中部地方の行政區分圖	
中部地方の地形圖	
鎗岳・白馬岳・御岳・乘鞍岳及飛騨・木曾・赤石等の山脈の山容圖・淺間山噴煙の狀況繪・白山・信濃川・富士川等の寫真類	
飛騨高地と越後及濃尾平原の狀を示せる繪畫	
駿河灣の風景・北越の雪景	

九	〇	二	三	三
三交	四産	五都	二	三
地 邑 業 通				
九	八	七	六	五
福	石	富	新	長
井	川	山	海	野
縣	縣	縣	縣	縣
二一 海上の交通				
地勢と産業との關係				
工業 農業 林業 礦業 水産業				
(二時間)				
尋讀八の二六				
同九の名古屋				
尋歴一草薙の劍				
日本武尊				
地方交通系圖、大井川連臺渡、天龍川の鐵橋等の繪畫及寫真				
茶畑と木曾の林相・生絲・蠶卵紙・羽二重及陶器・漆器・石油及木材の標本・此等製作の順序を示すべき標本並に繪畫				
茶・石油産額比較圖表				
中部地方地形圖・重要都市街圖・温泉場・名勝地・産物の標本及之に關する寫真繪畫の類				
地方の地形及交通系圖、都邑の分布圖				

第五 近畿地方

一四	一區
二地	分
勢	
四三二一	一近畿地方の區分
同同同同	
西部の地勢	
中部の地勢	
南部の地勢	
海岸の地勢	
(二時間)	
尋讀八の一七	
同近江八景	
日本一の物	
近畿地方地形圖・同行政區分圖・淀川河原擴大地圖・近江八景位置圖・日本湖沼面積比較圖・琵琶湖風景・淀川・天橋立・明石・鳴門の海峡等の繪畫又は寫真・帝都沿革地圖	

五	四三二	一	週	第三學期	十週	二十時間	一一三
三	五	四	題	教授事項(配當時間)			地方交通圖・神戸・大阪二港略圖及風景・疏水の繪
	都	産	目				
	邑	業	教授事項(配當時間)				
地方概括	七六五四三二一 三和奈兵大京滋 重歌良庫阪都賀 縣縣縣縣府府縣	六五四三二一 同同同同同 同同同同同 同同同同同	近畿地方の農業 商業 工業 林業 農業 水産業	(三時間)			
(一時間)	(五時間)	(三時間)	聯絡				
	尋讀六の二二二 京都のちの手紙 尋讀八の二二二 皇大神宮・參宮日記の一節 尋讀六の二二四 大取の六 尋讀五の六 奈良の大佛 尋讀七の二二二 楠正行 尋讀一 天照大神・神武天皇・聖武天皇・桓武天皇	近畿地方産業分布地圖、西陣織(縞珍・緞子・綸子・絲錦等)友禪染(縮緬・太織類)陶器漆器・眞珠貝及玉等の標本	教具				
	地方地形圖・交通系圖・都邑分布圖	近畿地方地形圖・重要都邑の市街圖・名勝地・舊蹟地の寫眞・長濱縮緬・蚊帳地・紀州ネル・漆器等の標本					

第六 中國地方

八	七	六	一區	第七 四國地方	一區	分	一四國地方の區分
五	四	三	二	地方概括	一	四	地方行政區劃圖・同地形圖
都	交	産	地	地方概括	一	四	地方行政區劃圖・同地形圖
邑	通	業	勢	地方概括	一	四	地方行政區劃圖・同地形圖
五四三二一 鳥島山廣岡 取根口島山 縣縣縣縣縣	二一 瀬戸内海方面の交通 日本海方面の交通	四三二一 同同同 同同同 同同同 工業・鑛業 水産業 牧畜業	一一 中國地方の區分 地勢概観 中國地方の農業 牧畜業 水産業 工業・鑛業	地方概括	一	四	地方行政區劃圖・同地形圖
(三時間)	(二時間)	(二時間)	(二時間)	地方概括	一	四	地方行政區劃圖・同地形圖
花尋讀十の十三 蕨	花尋讀十の十三 蕨	花尋讀十の十三 蕨	花尋讀十の十三 蕨	地方概括	一	四	地方行政區劃圖・同地形圖
地方圖・交通系圖・鹽田分布圖	地方及本邦交通圖	地方圖・本邦雨量圖・牧場・埋立地・牡蠣養殖場・烏賊釣船・鹽田等の寫眞又は繪畫・蠶表花筵及原料等の標品	中國地方行政區劃圖・同地形圖・同南北溫度雨量比較圖・海岸風景の繪畫・瀬戸内海の圖	地方概括	一	四	地方行政區劃圖・同地形圖

九		一〇	
二地勢	二同 山岳河川 (一時間) 海岸	五都邑	地方概括 (一時間)
三産業	一四國地方の林業 二同 水産業 (二時間) 三同 鑛業 四同 其他の産業	四交通	學年末總復習 (一時間)
四交通	一四國地方の交通	三德島縣	尋讀十の二十泉
五都邑	二香川縣 三愛媛縣 四高知縣	二重要都邑の市街地圖・各地の風景圖	地方圖・交通系圖
		地方圖・交通系圖	日本全國及地方の交通系圖、地理題目の概括一覽

備考

- 一 學年の初の豫備に於て過去四年間に授けたる地理的智識を整理し、基礎觀念をして、明確ならしめ、且學習の精神を旺盛ならしむることを務むべし。
- 二 自己府縣の地理に於ては前述の趣旨に據り、當該地方の教材を附加すると同時に、直觀的教材の選擇に留意し、形式的教授を排し専ら實質的に教材を取扱ふべし。

- 三 一地方又は數地方の教授を終る毎に一時間内外を以て、該地方の特色を明示し、既授事項と比較對照することを圖るべし。
- 四 本表は教科書の順序に準據し配當したりし故、各學校に於ては之に準じ、自己府縣の屬する地方に就ては詳説する様、時間の配當等を變更編成すべし。
- 五 第一學期に配當したる教材は稍、少きが如きも、新なる用語・術語等多きを以て、之を十分領得せしむる爲め學習訓練上に必要なることを忘るべからず。

第二節 教材研究の實際

第一 大日本帝國

本章は日本地理の總論なれば正に位置・境界・廣袤・面積・區分・地勢・氣候・天産より住民・産業・交通・政治等に就き帝國の大觀を與ふべきなり、されど一時にかく全部を提出する必要もなく又兒童に過重なるを以て地勢・産業・交通は全く省き政治に就ては單に行政上の一區分を述ぶるに止めたり。住民につきて戸口の増加の著しきより種族別及び其の人口の多寡等詳細を極めたるは稍煩鎖なる觀なき能はず。此等は簡單に取扱ふことを忘るべからず。今其の教授要項を擧ぐれば 一 帝國の位置及び組成の區分等につき説示し帝國の概念を與へ、帝國地理學習の入門となすに在り。

二 自然的區分 三 面積 四 四周 五 氣候と天産 六 國民の種族別及び人口 七 行政上

一 境域

位置……アジャ洲の東部に位す。

成立……日本列島 大小數多の島々より成る。
 主要部 樺太南半・千島列島・北海道本島。
 本州・小笠原島・四國・九州・琉球列島・臺灣。

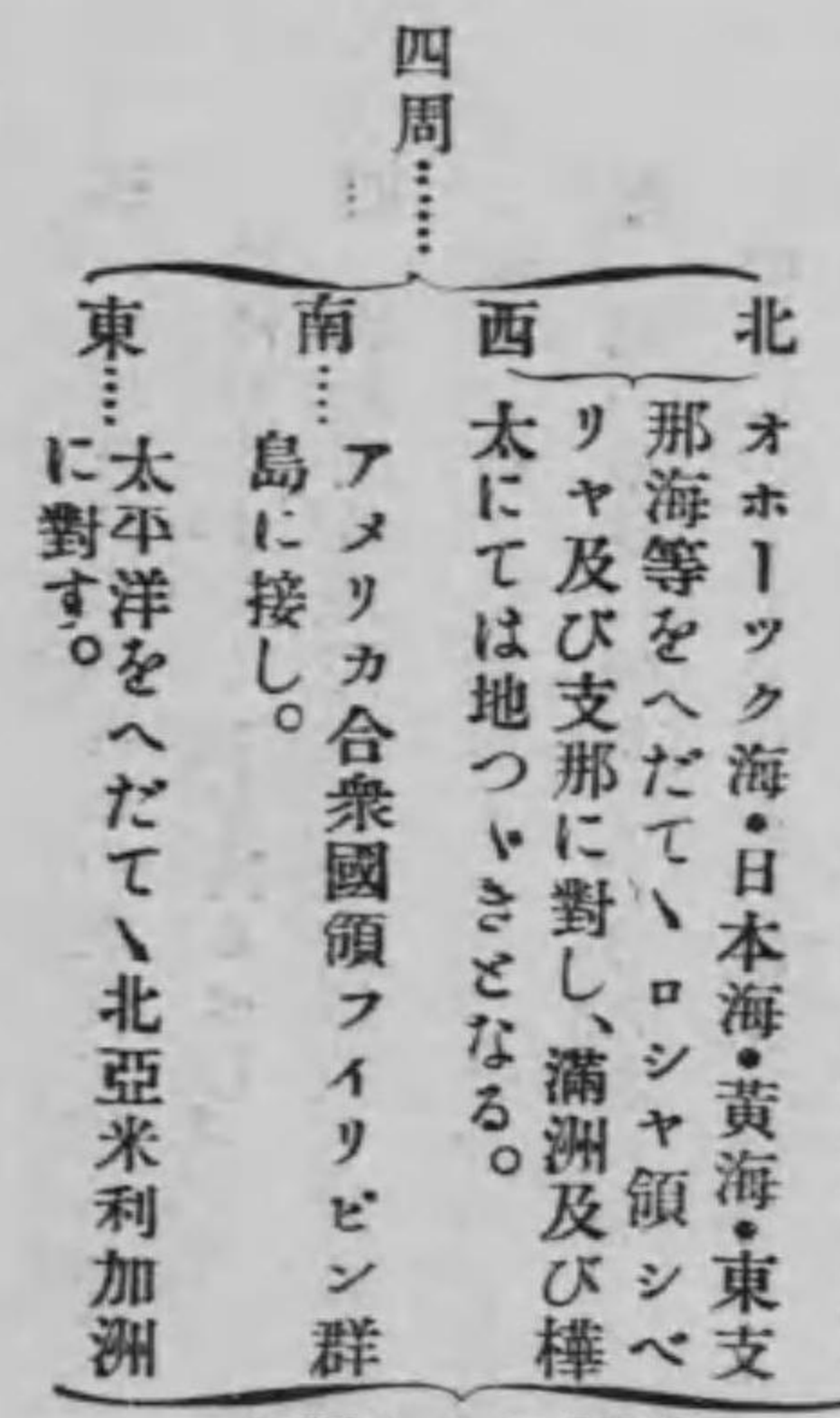
廣袤……東北より西南まで長さ一千二百里

面積……四萬三千餘方里(各大部の面積比較)

四周……北 オホーツク海・日本海・黄海・東支那海等をへだて、ロシア領シベリア及び支那に對し、滿洲及び樺太にては地つゞきとなる。

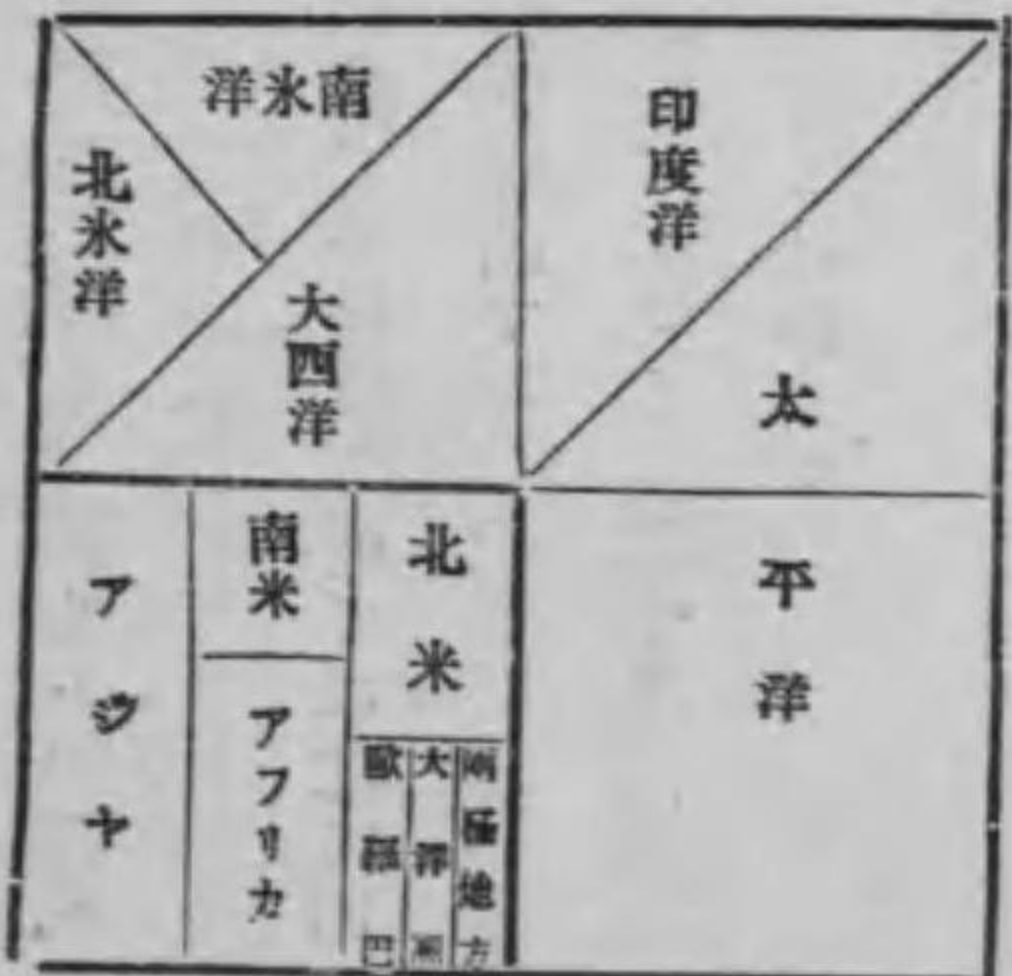
南……アメリカ合衆國領フィリピン群島に接し。

東……太平洋をへだて、北亞米利加洲に對す。



地圖によつて調査

地球表面の水陸區分及び其の大區分の割合



先づ地球の全面積を四分して水(三)及陸(一)とし更に陸地を三分して其一をアジア、次の三分の一を南米(一)アフリカ(二)とし残りの二分の一を北米とし殘餘を三分して歐洲、大洋洲及兩極地方とす又水面の二分の一を太平洋とし殘りの三分の一を印度洋に大西洋とし殘餘を二分して各南米洋、北米洋とす。

洲	面積(方里)	百分比
本州	一四、五七一	三三、五
朝鮮半島	一四、一三三	三二、五
北海道本島	五、〇八四	一一、七
九州	二、六一七	六、〇
臺灣	二、三二四	五、四
樺太	二、二〇九	五、一
四國	一、一八一	二、七
其他	一、三四九	三、一
合計	四三、四五八	一〇〇、〇
其他(二列島・五中島等)	四、四一八	一〇、〇

二 氣候

氣温……北部には寒さ強く、南部には暑さはげしき所あれども大部はおほむね温和なり。

氣壓……省略

湿度……(氣温概ね温和にして)雨量少からず。

三 天産

動物……

植物……種々の天産に富み住民の生活に適す

礦物……

北海道・樺太 麥類・豆類・野菜・松柏類・海獸・海藻類・石炭・臺灣 稻・甘蔗・茶・甘藷・バナナ・樟・檜・竹・榕樹・林投樹 内地 有用の動植物生育に適す 近海 魚介・藻類・海獸・食鹽 各地 石炭・銅・金・銀・石油・硫黃等

地名	氣温(攝氏)	降水量(毫米)
恒春	二四、四	二五、九
臺北	二二、〇	二〇、三
東京	一六、三	一七、五
青森	一四、五	一九、三
旭川	一〇、〇	一一、八
大泊	四、一	一一、〇
平均	六、八	六、八

四 住民

人口……國民の總數七千餘萬に上る。

種別……大和民族(五千四百餘萬)朝鮮人(一千六百餘萬)臺灣土人(十餘萬)支那民族(二百餘萬)アイヌ其他

性質……忠良なる帝國臣民なり。

種別	大正四年末(千人)	大正六年末(千人)	百分比	戸數(千)
大和民族	五、四〇〇	五、六〇三	七三	九、七〇〇
朝鮮人	一、六〇〇	一、六七八	二二	三、一八〇
支那民族	三、〇〇〇	三、三三八	四	六、六〇〇
臺灣土人	一〇〇	一〇〇	一	三
アイヌ	約一〇〇	約一〇〇	一	三
其他	七、七〇〇	七、七六二	一〇〇	一三、五三〇
計	七、七〇〇	七、七六二	一〇〇	一三、五三〇

五 區 分

行政上—三府四十三縣二廳二總督府一都督府
地理上—〔本州(五)四國・九州・臺灣・北海道・樺太・朝鮮・關東州の十二地方

第二 關東地方

一 境域(區分)

位置……本州の東部に在り。

廣袤……地圖上の實習に依り
面積……南北六十里
四周……面積二千二百九十三方里
人口一千七百萬三千五百人

區分……行政上一府六縣
(二道八國二島)

帝國の膨脹

明治二十八年臺灣を取り得 二、三二四万里
明治三十一年關東州を租借し 二、二〇九万里
明治四十三年朝鮮を併合す 一、四、二一九万里
二萬五千三百八十八方里より四萬三千四百五十
八方里となる。

關東とは箱根の關以東の義にして或は關東八州ともいふ。箱根の關は相模・駿河の境上、箱根山中にありて、東海道を扼し、徳川時代に最も有名なりき。故に關東といふ名稱も何時しか此の關より東方を意味することとなり。されど關東・關西なる稱呼はもと越前の愛發關・美濃の不破關・伊勢の鈴鹿關を限りとして起りたるものにして、其の東を關東・西を關西とは稱したりしなり。然るに時運の推移により

府 縣 名	府 縣 廳 所 在 地	管 轄 區 域
東京府	東京市	武藏の二市八郡 伊豆七島・小笠原諸島
神奈川縣	横浜市	武藏の一市三郡 相模の一市八郡
千葉縣	千葉市	上野五郡・安房一郡 武藏の九郡
埼玉縣	浦和市	上野二市十一郡
群馬縣	前橋市	上野二市十一郡
栃木縣	宇都宮市	下野一市八郡
茨城縣	水戸市	常陸一市十一郡 下野の三郡

三關以東の諸國も漸次三關を以て密接し來りて、遂に箱根を柄より確足に帶に連山を以て限るものならん。

二 地 勢

西及び北にかけて山岳相つらなり又二半島には丘陵多きも他は概ね平野なり、河川亦西及び北に發源し緩かに太平洋に注ぐ

術 語

丘陵 海拔二千五百尺未満の地を云ひ比較的稱ふるものなり。
山岳 土地著しく高起せるもの即ち陸地の平均高度(海拔二千五百尺)以上のもの。
山脈 衆岳の相連りて蜿蜒たるもの。
火山 火山岩・火成岩の一部より構成せし山脈の火山の連續せるもの。
火山地方 火山諸々に峙ち温泉湧出して奇岩怪岩に富み風景の美なる地方をいふ。

關東山脈
富士火
箱根山(温泉)

關東平野の西邊を限り甲武信岳・雲取山・小佛峠等數條の山脈西北より東南に亘り武藏・甲斐・相模との境をなすもの最高八千尺(甲武信)とす。
我が國南北の二大山脈が互に相對曲連接する所に於て地熱は劇烈なる噴火作用を逞しうして海内第一の高山たる富士山を始めとして其の他の秀嶺高峯を迸出せしめたり。而して此火山脈は北は越後の燒山より起り伊豆半島を経て太平洋に入り伊豆七島・小笠原諸島・硫黃列島を噴起して遠く南洋のマリアナ群島に達せり。

箱根火山の一部と富士山 箱根火山の規模宏大なるを示す箱根外輪山の西南部の高所より蘆湖と火口丘の駒岳(イ) (四千七百七十尺)とを望み遠く富士山(ホ)を眺めたる圖なり。右方湖邊に人家の稍稠密なる所は箱根町(ハ)にして東海道筋是なり。町の東端には關所の址あり、其處より湖中に突出したる半島は塔ヶ島(ロ)と稱し、其の中央にある洋風建物は離宮なり。蘆湖は南北一里二十町東西二十町四十間

山岳……

(照對と圖面平) 富士山と一部の山火根箱



イ、駒ヶ嶽 ロ、塔ヶ島離宮



周圍五里四町地文學上火口原湖と稱す略半月形をなし、湖中に鱒赤腹等を産す。左方に遠く離れて優姿を表はせるは富士山にして、快晴靜穩の時には湖面に其の影を映す、箱根の倒富士是なり。此等を平面圖と對照すれば次の如し。

三國 山脈

那須火山脈

北部……

那須山・高原山(鹽原) 男體山・日光温泉(湯元) 赤城山

伊香保山

南部(半島)…… 三浦丘陵

越後・上野の境上を限り平岳を起し清水越・三國峠を経て信濃・越後・南野の境上に達す七千尺(平岳)を最高とす。

磐城・岩代・下野の境上に那須山、其の南に高原山、下野の西部に男體山、下野・上野の境に白根山、上野の中部に赤城山、榛名山、西部に妙義山等の火山を起し淺間山に連れり。活火山にして高さ六千一百尺、同じく火山の雄峯を以て聞ゆる高原山は其の一部にして温泉を以て著はる。

略東西に亘れる日光火山(赤薙・女貌・小眞名子・大眞名子・太郎山温泉岳等)の盟主にして海拔八千二百尺を有し中禪寺湖の北に峙つ直徑約一千三百尺の火口あり北方缺けて馬蹄狀をなすも山容圓錐形なり。

複式火山にして舊火口は南北一里餘東西一里弱の楕圓形なり外輪山中の黒檜山は高さ五千九百四十尺赤城火山の最高峯なり、火口原湖なる赤城沼は東西十五町南北九町湖面の高さ海拔四千六百尺あり。

亦復式火山にして著名の外輪山(掃部岳・鬘梳山・烏帽子岳・相馬山・氷室山)を有し火口丘たる榛名山富士は高く四千八百尺に達す、東南麓の火口原湖は榛名牧場を爲し其の西端には周圍約一里の榛名湖を有し水深四十尺湖邊の風光は芦湖に似たり、湖水は沼尻川と稱する火口瀨をなして吾妻川に注ぐ、亦火山地方の特徴を發揮し風光に富む。

大楠山(八百尺)武山(六百六十尺)の丘陵起伏する等に過ぎず眞に丘陵地なり。

房總丘陵

清澄山(二千二百六十尺)を最高とし鹿野山(二千百六十尺)丘陵地の幽邃なるものなり。鋸山(二千百尺)之に次ぐ。

流域四方高地(分水線)によりて挟まれたる地域にして其處を流る、川の流域といふ。上流とは兩岸懸崖をなして景色よく河水は絶えて沿岸に灌溉の便なき所をいふ。中流とは兩岸は漸次落ちて河水は堰を設けて灌溉に利用せらる、所をいふ。下流とは平野の間を流る、所にして其の水直ちに田圃に灌溉の利あり、舟運の便また自由なる部分をいふ。

那珂川... 流域は葉煙草の産多く水運の利あり。

源を那須山の南麓に發し那須野原を貫流し八溝山脈を横ざり水戸市の北を過ぎて海に注ぐ舟楫の便あり、川口に淡町あり漁業頗る盛なり、長さ三十二里其の中二十五里の間航行に堪ゆ、下流には汽船の往來あり。水力發電所栃木縣芳賀郡茂木町 茂木水力電氣株式會社

利根川...

本地方第一の大河上流には電發所、下流は霞浦に連り水運灌溉の便大なり。

群馬縣の東北山中に發し片品川・吾妻川等を容れ前橋市附近を過ぎて平野に出で埼玉縣の境を爲し漸次諸川を合せ霞浦となり關宿にて江戸川を分岐し尙東南に流れて鬼怒川・霞浦・北浦等の水を容れ太平洋に注ぐ川口に本銚子町あり。長さ八十二里河幅一里に及ぶ所ありて七十里の間航行に堪ゆ。舟運灌溉の便は頗る大にして其の流域面積は關東地方の半に達す。

- 同 同 栃木縣鹽谷郡藤原村字瀧
- 同 同 栗山村
- 同 同 河内郡豊岡村
- 同 同 上都賀郡日光町
- 同 同 鬼怒川水力電氣株式會社
- 同 同 下野電力株式會社

荒川... 下流は隅田川にして水運の便大なり。

河川... 湖沼... 相模川... 上流の桂川に電發所、下流は馬入川なり。(桂相模の馬入川)

發電所

- 同 同 群馬縣利根郡白澤村岩室
- 同 同 利根郡南村上久屋
- 同 同 吾妻郡岩島村
- 同 同 同字向河原
- 同 同 利根發電株式會社
- 同 同 高崎水力電氣株式會社
- 同 同 山梨縣北都留郡巖村(八ツ澤)
- 同 同 廣里村駒橋
- 同 同 神奈川縣津久井郡内郷村
- 同 同 東京電燈株式會社
- 同 同 山梨縣南都留郡東桂村鹿留
- 同 同 桂川電力株式會社
- 同 同 山梨縣上流の發電所

多摩川... 水清く玉川上水を設け東京市民の飲料に供す。

雲取山の西南麓に發源し青梅に來りて山を離れ(以上上流)秋川を合せ漸次緩流となり神奈川縣との境(中流)をなし六郷川となり東京灣に注ぐ(下流)荒川と共に東京附近の臺地に至りて淨水工場に入りこゝに一大水道をなして東京市の

霞浦... 本邦第二の大湖、舟運の便と漁利と大なり。

發電所

地底を縦横に貫流せり。東京府西多摩郡氷川村同 戸倉村

水川電氣株式會社 秋川水力電氣株式會社

湖面... 湖上定期汽船の往來あり又利根川に連り利便多し。

平野...

關東平野... 野多の河川之れを灌漑し地味肥沃氣候概ね温和、雨量適度なり、農産物豊かに近年各地に種々の工業發達す、交通亦至便にして人口密に都邑亦多し。

關東平野 東西凡三十里。南北凡二十五里。面積凡一千方里。耕作地の面積略三割。

大小野の面積比較(方町歩)

關東 五四 瀧尾 一七 仙臺 三〇 越後 一五 畿内 一九 筑紫 一三

一方里の人口四千三百九十三、人口二萬以上の都會廿四あり。

海岸...

南部... 房總・三浦の兩半島突出す。

東京灣... 東京灣灣へし商港横濱・浦賀・軍港横須賀・首府東京あり。相模灣風景美なり。

東部... 概ね砂濱(九十九里濱)にして出入少し。

他は出入少く良港稀なれども氣候温和風景美にして保養遊覽に適す。

東京灣

成因... 東西長約三十五哩。南北幅約十二哩。灣口浦賀水道廣さ四哩。

保養遊... 三崎・北條・勝浦・大原・銚子・大洗・平潟等。鑛地の地... 鎌倉・江の島・逗子・大磯・小田原・等何れも海水浴場を兼ね。

三 産業... (附録参照)

術語... 灣... 海水面の陸地に灣入せる所。港... 前者と同様なるもこは船舶を碇泊するに便なる所。砂濱... 濱とは海又は湖の陸に沿ひたる所を云ふ。こは其の濱の砂にてなれる所即ち遠淺の海岸をいふなり。

九十九里濱の鰯

獲得業... 水産業...

東京灣の海苔

鑛業... 足尾の大鑛山(銅・銀・金) 日立 同(銅・銀・金)

足尾鑛山... 栃木縣上都賀郡足尾町に屬し、足尾線の終點に位置す、慶長十四年の開坑、明治十年古河氏の手に歸してより次第に盛運に向ひ、遂々本邦有数の大鑛山たるに至れり、採鑛所は本山・通洞・小瀧の三箇所あり、近年の鑛産額左の如し。

Table with 3 columns: Year (大正三年, 大正四年, 大正五年), Copper (銅), Silver (銀), Gold (金). Values are in thousands of ryo.

九十九里濱のちびきあみ... 九十九里とは上總國大東岬より下總國海上郡飯岡に至る長十六里(古制は六丁一里の計算)遠淺の濱を云ひ漁盛なる所なり、圖は山武郡鳴濱村に於ける地曳漁の景にして今海より網を引上げんとする所なり。ちびきは初め一枚の網を約半分宛を二艘の船に積み込み海上に乗出して網を投げ入れて其の船は雙方に相分れ馬蹄形になし魚を遠巻にし浮標を附けたる網を曳く陸上にて網の中央には袋網を數多の男女力を合せて引くこと圖の如し、網の一網の漁獲高は時に、數千圓に上ることありといふ。

日立鑛山の製鍊所... 茨城縣多賀郡日立村大字宮田字大雄院にある製鍊所及事務所の壯大なる光景を示せるものなり。山上に通せる道路の如きものは海拔千六十尺の高處にある大煙突に各所の煤煙を導く煙道裝置なり。此の大煙突は高さ五百十二尺・基底内徑二十六尺・頂上の内徑二十六尺に達す、其他之に準じ規模の宏大なること推して知るべし。左方の高所は神峯山にして海拔千九百六十尺あり、其の麓に採鑛部あるなり。明治三十八年十二月久原氏の經營に移りてより、長足の發達をなし、宏壯なる製鍊設備の完整せる本邦鑛山中稀に見る所なり。近年買鑛製鍊を兼ねたるを以て其產出高漸次増加し過去八年間に七倍餘の發展なり大正六年度には、

Table with 2 columns: Item (金, 銀, 銅), Amount (六四六六二匁, 一六四七八三三匁, 三三五六七斤). Total amount (計金) is also listed.

耕地... 田三十九萬町歩、畑四十一萬町歩古來名高し。

助成業

農業... 各地に米・麥・大豆・葉煙草・野菜等の産あり。

米... 千葉縣百九十六萬石、茨城縣百六十一萬石、栃木百十二萬石、埼玉百十萬石。圖表に示す如く本地方は全國産額の約三割を占めたり。

養蠶業... 平野の西部・北部と附近の山地、群馬・埼玉の兩縣殊に盛なり。

近年茨城・千葉縣等も漸次發達して本地方の繭の産額凡そ百萬石に達し、中部地方に次ぎて我が國第一の産繭地となれり。

製絲業... 群馬・埼玉二縣を最とす。

本地方の重要工業の一、年産額百萬貫、本邦總産額の二割に達す。

絹織物... 桐生・足利・八王子等。

秩父(埼玉縣)伊勢崎(群馬縣)等もありて、絹織物の産額の二割を出す。

機業... 毛織物(東京市内外の産は日本第一)。

他地方にはこれなく、モスリン(千二百萬圓)羅紗(六二五フランネル(九三)セルヂ(九二)毛布(六〇)等はなり。

紡績業... 東京市の附近に大工場多く産額亦多し。

十一の工場、四十餘萬本の錐を有し一千萬貫の産額あり。粗糖、小笠原島約二百萬斤。精製糖一億斤。二千萬圓の産あり、原料は南洋等より入る。

砂糖... 小笠原の外東京・横濱附近の精糖盛なり。

東京府、千二百萬圓(過燐酸石灰・硫酸アムモニア・調合肥料)神奈川縣二百五十萬圓(大豆・油粕・調合肥料等)。

肥料... 東京市の附近に多量に製出せらる。

王子製紙・東京板紙の兩株式會社、有恒社等。

洋紙... 東京市内外を主産地とし(印刷料紙)。

横濱浦賀石川島の船渠株式會社等。

船舶... 東京灣邊のみとす。

媒介業... 商業... 東京・横濱に盛に行はる。

概観... 政治・産業の大中心には鐵道、航路の發着所を生じ交通盛なり。

鐵道... 東京を起點として東海道線・中央線・信越線・高崎線・東北線(兩毛線・日光線)常磐線・總武線(房總線)等あり、東海道線・東北線は相つらなりて本州鐵道の幹線をなせり。

東北線・東海道線・山陽線... 一、一六二・六哩。二、五四時間半。二日四分ノ一。賃金一二圓半。

山陽線... 神戸・廣島・小郡・下關間... 三二九哩三

東海道線... 東京・大船・名古屋・京都・大阪・神戸間... 三七六・四

東北線... 小野・大宮・小山・宇都宮・郡山・福島・岩沼・仙臺間... 四九六・九

中央線... 萬世橋・甲府・名古屋間... 二五三・七

常磐線... 日暮里・取手・友部・水戸・岩沼間... 二一三・二

高崎線... 大宮・熊谷・高崎間... 四六・四

信越線... 長野・直江津・新潟間... 二〇三・六

越前線... 長野・千代田・佐倉・銚子間... 四四・三

房總線... 千葉・勝浦間... 四四・三

北條線... 千葉・木更津・那古船形間... 五五・〇

兩毛線... 高崎・前橋・小山間... 五七・一

常陸線... 取手・水海道・下妻・下館間... 三一・九

日光線... 宇都宮・日光間... 二五・一

秩父線... 浅草・秩父間... 七〇・三

Table listing various railway lines and their distances in miles and travel times in hours and minutes. Includes lines like 山陽線, 東海道線, 東北線, etc.

東京停車場 は構内の東南部より西北に向つて見たる所、通常人は見る能はざる背面の景にして、
 數多の軌條集まり、驛内廣濶規模宏大なる觀を指摘せんとす。工事は七年の時日と二百七十餘萬圓
 の巨費とを以て、大正三年末竣工せる我國停車場中の最大最美のものなり、本館の長さ、二百間、
 面積二千三百四十坪、附屬建物を合せば三千百六十五坪あり、圖中二ヶの高き圓頂屋は本館の南北
 兩端に在る高塔にして、高さ百二十四尺あり、其下部は、南は、乗車客用にして北は降車客用に充
 つ、兩塔の中間に帝室用の御乗車出入口並に御休憩室あり完備此上なし、二階三階及び地下室は、
 ホテルの各種の諸用室なり。

碓氷峠の鐵道とトンネル はアプト式と稱する特殊の鐵道線路を示し、かくて關東平野は西北に斯
 る交通機關を要する高地に隣するを明かにせり。鐵路の中央に在る三條の鋸齒状のものはラックレ
 ールとて先行せる機關車の下部にある装置と相對し接觸して調節を圖るに便す、今一小溪に架せる
 橋上を電氣機關車か列車を牽引して進行せる所なり。信越線の横川驛 輕井澤驛間六哩九分の間に
 ある二十六のトンネル及び數多の橋梁の一を表はせり。電氣機關車を使用し始めたは、明治四十
 五年七月にして以來種々の障害を除き輸送力の増大を致せし我が交通界の一進歩を示せり。亦旅客
 は塵煙の不快を脱し悠々と溪谷の美を賞するを得べし。

北米航路 || 横濱・シヤトル・タコマ間……………四、三〇〇哩
 横濱・布哇・ホノルル・桑港間……………五、四六〇哩。

航路
 横濱を中心として内外諸港に達
 する航路。北米・南米・濠洲・孟
 買・歐洲・上海・天津等ありて交
 通甚だしげし。

(其他……郵便・電信・電話等の)
 制備はり道路亦各地に通ず。

- 南米航路 || 横濱・ホノルル・メキシコ・秘魯等の諸港よりバ
 ルパライソ間……………九、九三三哩
- 支那航路 || 横濱・神戸・上海間一、〇五〇哩、其他印度航路 ||
 横濱・カルカッタ間 || 横濱孟買間……………五、三〇八哩
- 歐洲航路 || 横濱・香港・シンガポール・彼南・コロソボ・スエ
 ズ・ボート・サイト・マルセイユ・倫敦・アントワ
 ープ間……………一、一〇〇哩
 又は阿弗利加南端 英國倫敦間……………一、一七六哩
- 南洋航路 || 横濱・サイパン・トラツク間……………約二、〇〇〇哩
 横濱・香港・バタビヤ・マカッサール間……………四、八〇〇哩
- 濠洲航路 || 横濱・マニラ・木曜島・濠洲諸港メルボルン間……………
 四、九六五哩

横濱の繫船岸 (又は岸壁) は大なる港の設備の一斑を示したるものなり。大汽船の横着せる其の
 左方に在る檣状のものは起重機にして大重量の貨物は之によりて、敏速容易に積み卸しをなす其の
 移動に便せる爲に二條の軌道に立ち其の内側には又二條の軌條あり貨物鐵道の通路なり。本港は安
 政六年五月開港以來漸次發達して人口約四十萬に達す、防波堤(南一六四〇呎、北二〇三四呎)鐵棧
 橋(長さ二百餘間幅六十二尺)繫留區域四百四間理立面積六萬八千六百坪、岩壁(一千百三十七間)上
 屋(木造平家三棟、同二階建二棟、鐵造十一棟)の設備整ふ。
 水深(干潮面下三十二尺乃至十六尺)起重機(五十噸、二十噸、一噸半の固定又は可動式)及び稅關水陸
 連絡等完備し本邦の代表的港灣なり。

五都邑

東京市及び横濱港は前編都會研究の要諦の章に於て叙述したれば之を省き以下の都邑につきて記す。而して研究の諸項目は之を省略し、主として都會研究要項中繁榮の要素につきて述べし。

術語 都會…繁華なる市街地。都邑…都會と繁榮せる村落。

東京府…東京…省略。八王子…機業地。

横濱…省略。

横須賀…帝國主要の軍港。海軍大工廠…船舶の建造兵器の製造

神奈川縣 鎌倉…鎌倉時代の遺跡多く、保養遊覽の地。

箱根…温泉場多く保養遊覽の地。

相模灣…沿岸は氣候よく保養遊覽の地。

東京市内の日本橋附近は東京の最も繁華なる日本橋附近を南より北に向つて見たる景にして市街の一般景観と市内交通機關の一斑を示し大都會の面影を髣髴せしむ。中央の數階なる大建築物は三越呉服店なり、又其の手前の町の角なる洋風建物は井銀行、左方の河岸に臨める高き建物は帝國製麻會社なり、圖の後方遙に高く見ゆるは上野及び駿河臺なり。橋は二年の歳月と五十萬三千八百餘圓の工事費を費して四十四年四月三日開通式を挙げたるものにして長さ二十八間幅は中央の車道十間左右兩側の歩道各二間半、橋脚は中央に一個あるのみ表面は全部花崗石、様式はルネッサン式なり今見ゆる部分は北半分なり。本邦有数の絹織機業地にして府立織染學校の設あり、人口三萬餘を有し近年市制施行地となる。

第一海軍區の中樞、薩摩(一九、五二〇噸)、河内(二〇、八〇〇噸)、山城(二二、二六〇噸)等の建造、人口八萬五千あり、又首府東京の防禦上須要の地なり。凡そ百四十一年間鎌倉幕府の所在地(建久三年七月—元弘三年五月)其の址、管領屋敷、八幡宮、圓覺寺、大佛、頼朝の墓、鎌倉宮等の名所由井濱附近の保養遊覽の地乏しからず。湯本・塔の澤・宮の下・堂ヶ島・底倉・木賀・芦の湯(以上七湯)小湧谷・仙石・姥子(以上十湯)の温泉ありて保養遊覽に適す。鎌倉・江島・逗子・大磯・小田原・三崎・久里濱・金澤・杉田・神奈川・子安等の保養に名ある地多し。

野田…(江戸川に沿ふ)

醬油の産高し

千葉縣 銚子…(利根川に沿ふ)

千葉…縣廳の所在地。交通の要地。

船橋…鐵道に接し無線電信局あり。

浦和…埼玉縣廳の所在地。

所澤…陸軍航空隊。

埼玉縣

秩父地方…絹織物の産地。

第三章 教材研究の實際

野田の醬油工場と江戸川 上圖、江戸川の濼々たる水面に汽船帆船の航走せるは如何に醸造業の其の壯大を助成するに預りて力あるかを示す。下圖龜甲萬醬油醸造場の一部なる醬油仕込桶と、トロッコにて龜甲印の小樽を積出せる様とによりて其の盛大を知らるべし。河水交通と産業との如何に密接なる關係あるかを想見するに足る。野田は實に其の中心地にして銚子之に次ぎ、野田の龜甲萬・木白・上十、銚子のヒゲ田・山サ等名高く、全縣の年額四十餘萬石に達す。利根川の河口に位し前者と共に醸造に名高きのみならず交通の便と漁業の利とは市況を盛ならしむ。縣治上の諸官署及び商店、千葉醫學專門學校・中等程度の諸學校、總武線と、房總線と、千葉線との連絡の地なり。局は東葛飾郡塚田村(船橋の隣村)に在り敷地面積十四萬二千坪、電信塔は主塔一、副塔十八基ありて、構桁式銅製なり、大正二年十月一日起工、同三年三月末日完成、布哇電信局との距離三千三百七十九哩の間に通信をなす、公衆電報は一通信料一圓二十八錢にて、海軍省の管理に屬す。陸軍航空隊の所澤飛行場は軍事界進歩の著大なるを示すものにて、右端の高樓は氣象觀測臺、中央の大建築物は飛行船雄飛號の格納庫、並列せる數多の建物は飛行器の格納庫なり。空中に飛揚せるは雄飛號、次に兩翼を張れるはルンブラー式他はモルルス・フアルマン式飛行機なり、本所は我國唯一の陸軍飛行場にして海軍のは横須賀追濱にあり。古來著名の絹織物産地にして銘仙を主とし年産額五百萬圓に達し、染織の堅牢なるを特色とす、其の中心都會は秩父町にして秩父鐵道の要驛に當り人口一萬餘を有す。

群馬縣

前橋…群馬縣廳の所在地。生絲・繭の取引盛大。

高崎…交通の要地。商業繁盛。

伊香保…温泉場。

桐生…絹織物の多産地。

利根の本流に沿ひ兩毛線の要驛縣治の中心地生絲の製造、取引、繭の賣買を以て開ゆ、人口五萬。

高崎線、信越線、兩毛線、上野鐵道の連絡地、伊香保電氣軌道の起點にして四通八達の地なり。又附近より産出する生絲・繭の取引盛なり。

榛名山腹に位し、海拔二六〇〇尺氣候清冽避暑に適し、炭酸泉にして、婦人病に効あり、浴舎四十戸あり。

内地向縮緬類、御召・節絲織・琥珀帶地等

外國向タフタ・琥珀・甲斐絹・白縮緬・紋絹等あり。交織類には朱子(縹子)・京華・觀光縮緬・縵子・厚板等ありて年産額一千三四百萬圓に上る、本邦最大の絹織物の産地。

縣治の中心地、東北線の要驛、日光線の分岐點。

人口五萬三千、師團司令部は附近の國本村に在り。

歩兵第二十八旅團、第五十九・六十六聯隊、騎兵第十八、野砲兵第二十聯隊、輜糧兵第十四大隊あり。

栃木縣廳。鐵道の要地。第十四師團あり。

日光…人工の美壯麗なる東照宮。自然の美景色よき中禪寺湖・華嚴瀧。

(上都賀郡)宇都宮より鐵路二十五哩、日光線の終點に在りて本邦山水の美の鍾まる處、瀑布・湖水・溪流・叢原あり

日光の東照宮は日光の景観中名高きもの、一にして内外人を招致するその特徴を例示せるものなり、正面の華表は唐銅製、其奥石階に續ける稍小さく見ゆる二層門は陽明門、其の左右に、鐘樓・鼓樓立ち、前面の大建物は第一神庫にして、側面に、二大象の形刻を見る、之と相對したる二重寶形造は輪藏(一切經を藏す)附近に在る石燈籠は由緒ある諸大名の寄進にかゝるもの、陽明門を初め、何れも結構の美を以て開ゆ。

栃木縣

り、之に加ふるに殿堂樓閣の美を以てす、外國人は本邦第一の遊覽場となし、邦人は日光を見ざれば結構と言ふ勿れとの諺あり)

足利…機業地。

足尾…銅銀の産地。

鹽原…温泉場。

中禪寺湖と華嚴瀧―男體山の南麓、大谷川の上谷を男體山の噴出物が堰塞せる爲に生じたるもの、周圍六里、東西二里、南北三十町面積四分の三方里、最深所五百六十八尺、湖面海拔四千尺避暑に適し、湖畔に旅館別荘等建ち列べり、水は東方に流走する事數町にして華嚴の瀧となり、直下三十五丈幅數尺一大奇觀たり、日光山七十二瀑中の最たるものなり。練羊羹、日光細工を以て開ゆ。

最多額なるは絹綿交織にして御召・節絲織を主とす、次は綿織物各種の縮緬等内外に需要多し、就中節絲織最も多く其七八割を占む、大正五年度の總産額約二萬三千圓に上る。

鹽谷郡那須郡の西常川の谷に沿ふて、所々に湧出する鹽類泉なり、西那須野停車場より、西北六里を隔つ、避暑に適す、此邊の山は所謂高原火山群の一部にして地學者は鹽原火山と稱す。

那珂川の右岸に立ち、東京を距る七十二哩、縣治及び地方商業の中心地にして、昔徳川親藩の居城地なれば城址・弘道館・常磐神社・好文亭等名高し、常磐公園は、梅樹數千株を植ゑ花時節を與くもの多く、近く仙波沼・櫻山を望み、遙に、筑波・加波を雲際に仰ぎ眺望可なり。

前出(一二五頁参照)

茨城縣

水戸…茨城縣廳あり、地方商業の中心地。

日立…大鑛山地。

六 伊豆七島・小笠原諸島（東京府に屬す）

位置…相模灣の南方太平洋中に在り。

地勢…富士火山脈之を通せり。

處誌

伊豆七島 大島—三原火山

八丈島—(八丈富士)

(伊豆下田港十三里 大島二里 利島五里 神

津島八里 三宅島四・一八 御藏島二十里 八

丈島一里 小島十三里 青ヶ島百二十里 小笠

原島—硫黃島。)

相模灣の南、北緯三十四度五十分より同二十六度三十分に亘る約二百三十里の間に散點せる豆南列島と稱せらるる諸島にして、富士火山脈通じ大島には、有名なる活火山三原山あり、諸島概ね火山質にして土地礫の地多し。富士山を盟主とし、南に愛鷹山を起し、伊豆半島に入りて天城山等となり海に入りて伊豆の南方太平洋中に點々火山を噴出して水上に現出せるもの小笠原灣是なり。遠く南洋のマリヤナ群島に連る。

伊豆七島とは大島・利島・新島(式根島を含む)・神津島・三宅島・御藏島・八丈島(小島・青ヶ島・鳥島を含む)を云ふ、總面積十二方里
總人口二萬八千四百八十七人女多きと九百七十五人なり。
水産物—文鰯魚・鮪・鰹・海藻。農産物—甘藷・青芋・米・麥。
家畜—牛・牛酪。林産物—木炭・樟油・薪。

大島—東西二里十八町、南北五里餘、周圍十里廿六町、元差木地・野増・岡田・泉津・波浮港の六村あり元村に島廳を置く、面積約四百里、人口六千三百餘。
八丈島—東西三里二町、南北二里十二町、周圍十餘里、末吉・中之郷・檉立・大賀郷・三根の五村あり小島(宇津木・鳥打)・青ヶ島・鳥島之に屬す、大賀郷村に島廳を置く、面積約四百里、人口一萬二千餘、男子は漁業・農業を専らにし女子は養蠶・機械に力め物産の多き事七島中第一なり。

小笠原諸島は八丈島の南方約三百九十里に起り南へ約百七十里の間に連なれる火山列島(父島・母島・硫黃島)にして、

火山島

氣候…溫暖。

面積約六方里、人口五千二百六十一人あり、氣候は最低温度の二月(平均十七度二)も寒氣を覺ゆることなく、最高の七月(平均二十七度二)にても酷暑を感せず、雨量亦適度なり。又各種熱帶性の産物あり。

小笠原諸島

父島…二見港あり。

南方諸港中の良港。

太平洋海底電線の中繼所。

母島。

硫黃島。

父島は諸島の中央に位し面積(二七三町八反)は母島に次く火山島にして島中岩多く旭山(八八六尺)を最高とし到處樹木繁茂甚し。屬島に兄・弟・北・西・南・婿・媒・媳の諸島あり。

父島の二見港は二見港の一部を海岸の丘山より瞰下せるものにて、海中に突出せるは棧橋、手前に見ゆる民家は本島の主邑大村にして島廳の所在地なり。對岸の山は旭山なり。我が國の海底電線は此處に至りて米國線と連りマリヤナ島のグアムを経て米國及南洋に通ず。諸島は文祿二年小笠原貞頼の發見當時無人島なりしが天保元年外人父島の扇浦府に來住を始めとし其後數多の變遷を経て、明治十三年東京府の管轄となり、同十九年島廳を置き今日に及べり。

母島は諸島中の最南に位し父島を距る二十里、面積(二四一町一反)父島より大なり。最高を乳房山(二四七二尺)とす。地味肥沃樹木繁茂す唯良港なきを遺憾とす。屬島に姉・妹・姪・向・平の諸島あり。

產業…近海水産の利。
小笠原諸島より甘蔗。

水産物—鰹。農産—甘蔗—粗糖約二百萬斤
林産物—桑・林投樹。

第三 奥羽地方

一 境域

位置…本州の東北部を占む

廣袤…地圖實習に據る

區分…行政上六縣

奥羽とは陸奥・出羽の略稱、ムツとは精しくは、「みちのく」と訓じ、道の奥の義即ち海道・山道の奥に當り、勿來・白河の關を以て限りとす。陸奥國は「みちのくのくに」と讀みしが漸次「みちのくに」、みちがむに變じ「むつ」のくにとなり陸奥の二字を以て「むつ」といふに至る。出羽は、越の出端の義なるべし、其の地越後に連り、念珠の關を以て限りとす。明治維新の後陸奥を五國に、出羽を二國に分ち七國となせり。

東西 五十里 面積 四千二百四十七方里
南北 百三十五里 人口 五百七十二萬一千七百八

縣名	所在地	管轄區域	縣名	所在地	管轄區域
福島縣	福島市	磐城の七郡	宮城縣	仙台市	陸奥の三郡
岩手縣	盛岡市	岩代二市十郡	青森縣	青森市	陸奥の二市八郡
秋田縣	秋田市	陸奥の一市八郡	山形縣	山形市	羽後の一郡
					羽前の二市十郡

二 地勢

阿武隈山脈…幅廣けれど低し。

東部

延長三十八里幅廣き所十一里を越え海拔僅に三千七百尺内外に過ぎず阿武隈高原及雲山・關井岳等を含める諸山脈より成り久慈川及び阿武隈川其の西を限り東岸には平・相馬等の平地あり阿武隈高原は主として片麻岩より成り其成生古く、長らく風化水蝕の兩作用を受けて山脈の軸と認めべきものなく、殆んど一定の高さを有する臺地の河谷によりて切斷せられたるものなり。

北上山脈…幅廣く稍高し。
奥羽山脈…那須火山脈を通す。

中部 磐梯山(後出)

岩手山(南部富士)

出羽丘陵…烏海火山脈通す。

岩木山(津輕富士)

烏海山(出羽富士)

略南北の走向を有し、北上川其西を限り、高原性にして、河谷は狭小なり。最高を早池峯山(六、五八〇尺)とす。東海岸はリヤス式をなし、阿武隈山脈の東邊の如き平地なし。本地方の中央を縦走し、主として第三紀層より成り那須火山脈を通じて、高さ六千尺内外の諸火山を起し奥羽の分水嶺をなし東西交通の妨害をなせり。

岩代國耶麻郡猪苗代湖の北方に峙ち山頂は大磐梯・赤壇・楯ヶ峰・湯折山等の諸峰より成り會津高原中の一偉觀たり。小磐梯山は明治二十一年七月破裂の爲め其形を存せず最高を大磐梯山(六千餘尺)とす。

盛岡市を距る西北約九里海拔約六千八百尺盛岡より望めば缺頂圓錐形を呈し、南部富士又は岩手富士と稱す、頂上は東西の岩手山となる、火口内には火口丘妙高ヶ岳あり。

奥羽山脈の西側に略之と並行して走れる低き山脈にして最上雄物米代等の爲に横斷せらる此脈中にも所々に火山あり之を烏海火山脈といふ、岩木山・烏海山・月山等著名なり。

津輕平野の西南端、弘前市より五里、高さ五千二百尺、山容秀麗津輕富士の稱あり中腹百澤に岩木神社(國幣社)あり百澤權現とも云ふ、社殿華麗なり、附近喬木森々たり、頂上に御室本宮あり、展望佳なり。

山形秋田兩縣の境上に聳え高さ七千尺、奥羽の最高峯、山頂白雪を戴き容姿の端麗富士に次ぐ出羽富士の名あり、山頂の眺望の雄大なる事亦奥羽第一、大物忌神社(豊受姫命

山岳

西部 月山

越後山脈—三國山脈 (前出)

北上川

太平洋 斜面 阿武隈川 流域相連りて奥羽第一の平野をなす。

米代川—流域は林業

外二神を祀るあり、もと鳥海大權現と稱し、出羽の一宮たり。夏季登山者多し。山形の附近より月山を望む。山形盆地を隔て、凡そ十二里千歳山中腹(山形の東南方)より望む。其間著しき山岳のなき山形の盆地を知らしむるにあり。前面に人家の見ゆるは山形市の一部なり。月山は東田川・最上・西村上三郡の境上に峙り、海拔約六千五百尺頂上に月山神社あり、官幣大社にして、月讀命を祠る。夏期登山者多し。登山路二あり、一は表口にして山形方面よりするものなり、一は北方東田川郡東村より、羽黒山を經るもの行程六里あり。越後山脈は本地方に於て會津高原を抱き阿賀川の河谷を隔て、飯豊山となり、荒川を隔て、朝日岳を起し、北端は最上川の河谷に達し、之と赤川・荒川の分水嶺をなし、福島・新潟の縣界をなし、三國山脈に連る。

七時雨山の南麓に發し、雫石川・猿ヶ石川・和賀川を容れ漸次大となり、更に佐沼・江合を容れ石巻に至りて仙臺灣に注ぐ。全長六十二里可航里程五十九里一關以下二十餘里の間汽船を通ず。那須山の東麓に發し、阿武隈平原に出で、須賀川・郡山・福島附近をすぎ、阿武隈山脈を横斷し岩沼の附近にて海に注ぐ。長さ五十里可航里程三十八里。北上川・阿武隈川の流域は相連りて廣漠なる仙臺平野を開く。面積百三十五方里を占む仙臺の北方の丘陵地によりて自ら南北に分たる北方は南方の五倍餘を有す。灌漑の利多く田園よく開け農産豊かに仙臺の大市を始め數多の名邑南北に連れり。能代川とも云ふ四角岳の南麓に發し、毛馬内及び大館・鷹巢

平河 野湖

日本海 斜面

雄物川 盛なり。流域に廣き平野を有す。最上川 阿賀川 阿賀川 發電灌漑の利多し。猪苗代湖

術 分水嶺 雨水が山脈によりて反對側面の谷に沿ふて流れ下る時其山脈を其谷地の分水嶺といふ。盆地 山岳丘陵若くは臺地によつて圍まれたる平坦なる地を云ふ。

の盆地を流能代港に於て海に注ぐ、長さ三十五里可航里程二十八里特に木材の運搬に利便を與ふ。一名御物川、栗駒岳の西麓に發し、玉川を容れ、出羽丘陵の間を流れ土崎港に於て海に入る、長さ三十八里可航里程三十五里。大日岳に發し、北流し、米澤及び山形の盆地を過ぎ更に新庄盆地を過ぎ出羽丘陵を横ざり、庄内平野に出で赤川を容れ酒田に於て海に注ぐ、長さ五十五里、上流は所謂急流なれども下流三十里間は頗る灌漑舟運に富み古來出羽米の運漕を以て聞ゆ。庄内平野は最上川下流及び赤川の流域にして形南北に長く北方は幅狭し南北十餘里に達し、面積三十五方里を占め田園よく開け人口最も稠密なる地方なり古來米産に名高し。猪苗代湖に發し、日橋川と云ひ、會津盆地(面積約二十方里)田園よく開け若松・坂下・喜多方等あり)に入りて大川。只見川を容れ阿賀川となり越後山脈を横ざり新潟縣に入る。磐梯山と猪苗代湖は山容の雄大と湖面の漾々たる様を示すものにして耶麻郡月輪村の西端より湖面を隔て、白雪燈々の磐梯山を望みたるものなり。磐梯山は成層火山にして、越後線猪苗代驛より、約三里半にて頂上に達す、山頂數峯に分れ、大磐梯山の最高となす、明治二十一年七月の大破裂には小磐梯山の大部を破壊し、熱灰、燒石を飛ばし四百二十餘の人命を奪ひ、泥砂亦、諸川の谿谷を塞ぎて楡原湖・小野川湖・秋元湖を造り、頗る慘狀を極めたり。猪苗代湖は海拔一千二百七十尺面積七方里、湖邊の風景よく運送の便あり、今は汽船の往來を見ず、船は猪苗代電氣會社の所有船なり、湖水は日橋川に出で河沼郡日橋村に於て猪苗代水力電氣・日本化學工業の兩株式會社の發電所に利用せらる。

太平洋 中部に小出入多く天
然の良灣あるも利用
少し。

海岸

日本海 中央の男鹿半島、八
郎潟の外は砂濱なり。
津輕半島
海峽 津輕半島
陸奥灣 海軍要港 大湊
商港 青森

三産業

概観

關東地方より氣温低く、山
地・原野多く、耕地は少く、
牧畜・鑛業・林業各地に盛な
るも戸口少なし。

南部は出入乏しく良港なし中部即ち仙臺灣より久慈川口の
間にして小出入多きも灣形の不良なると背後に生産地乏
しきとよつて港市の發達なく、僅に萩濱、釜石、山田、
宮古等あるのみ。北部は尻屋崎まで殆んど屈曲なし。
殆んど全部砂濱にして男鹿半島、八郎潟、船川港のある所
稍單調を破るあるのみ。

下北郡大湊村にあり、横須賀鎮守府に屬し津輕海峽附近の
灣は陥没作用によりて生じたるものにて最深部は中央に位
し、三十七尋あり。

○男鹿半島の南部 本山(二千百尺)眞山(二千四百尺)寒風山
(九百尺)の三火山名高く、西南一帯は斷崖海に落ちて、奇岩
怪石峙立し出入凹凸變化極りなく附近 單調を破る妙あり
○八郎潟 東西三里南北五里面積十八方里、最深部十五尺南
方にて海に通ず。
○船川港 冬期土崎の附庸港として安全たり。奥羽線分界驛
より十六哩半輕鐵の便あり近年築港なりて益々便利なり。

縣名	面積	人口	總面積千二百反別	原野牧場	地名	温度
福島	九〇	一、三〇〇	七	三三	父島	三三
宮城	一、〇八	一、〇〇〇	七	三三	小名濱	三三
岩手	一、〇八	一、〇〇〇	七	三三	石巻	三三
青森	一、〇八	一、〇〇〇	七	三三	宮古	三三
秋田	一、〇八	一、〇〇〇	七	三三	山形	三三
山形	一、〇八	一、〇〇〇	七	三三	秋田	三三
内地全國	三三、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三三	三三	青森	三三

鑛業

小坂(銅、銀、金)我國
屈指の鑛山。

釜石(鐵の主産地)

雄物川下流地方(石油)

平附近(石炭)

小坂鑛山は秋田縣の本邦重要鑛産地たること並に著名な
る小坂鑛山たることを證するものにして鑛山聚落には凡
そ採鑛場・作業場・住宅等の別あり。圖中左方の川は小坂川
にして中央は尾樽部通り、其右側の稍大なる建物は小坂小
學校、他は鑛山從業者の住宅なり、右方の小高き所の板垣
あるは即ち其の役宅なり、其後方に見ゆる煙突(高さ二百
尺)のある所は熔鑛爐にして盛に作業せり、中央に近き煙
突(高さ百八十尺)は製鍊所にして其前面の小煙突四本ある
所は各種の製鍊所、其左方には延銅場・型銅場等連れり。此
處の中央を貫き銀山町を経て、凡そ半里にして採鑛所の所
在地元山に達す。鹿角郡小坂町に屬し大館驛より十六哩、
小坂式燒鑛法と露天掘(開掘)と名高し藤田組の經營にか
る最近三ヶ年の平均産出高金一七三貫・銀八、二八四貫・銅
一、五五六千斤、日本鑛山中金銀は第二位、銅は第三位なり。

上閉伊郡栗橋・甲子・上郷の三村に互り田中長兵衛氏の經營
なり。安政六年發見、明治十八年同氏に歸す、最近三ヶ年の
平均、鉄鐵三五千佛噸・鋼鐵一七同・金七〇貫・銀六五〇貫・
銅二二一十斤なり。

油田の大なるは黒川油田と稱す、秋田の北約五里追分驛の
東三里、南秋田郡鹿足村大字黒川に在り、明治四十五年六
月始めて掘鑿し大正三年五月よりタリ式を以て掘鑿せる
第五號井の大噴出量は一日、五千石乃至一萬石に達す、大
正五年には八十四萬石の産出ありて新潟縣の半に達す。

瀧島茨城兩縣に互り、所謂常磐炭田にして出炭量の多き事
本邦第一、磐城炭田の最近三ヶ年間、平均産額一、八六五
千佛噸、入山四八七、内野四一一、好間二一〇、小野田一

水産業 太平洋方面と遠洋と盛なり。

近年發動機漁船にて遠洋漁業をも営み、鯉・鮪・鯧・鯨の捕獲多く殊に節類は三縣を通じて百七十萬圓に達し本邦有数の産地たり、捕鯨亦多く全國の過半数を占む。

五四を出せり。

農業 米、最上川、雄物川流域を主産地とす。

山形縣の米穀取引所一酒田、鶴岡兩所にあり、酒田時代より倉庫に預米をなし倉荷證券を發行す、鶴岡の品質も三十萬俵を収容し得べき倉庫あり、鶴岡の品質を良好にし益々各仕向地の評價を高めつあり。

大豆、各地

附録参照

養蠶業 阿武隈川(福島)の流域最上川(米澤)の流域

丘陵性の土地に富める阿武隈川流域・會津盆地を主とし、米澤盆地・宮城野之に次ぎ養蠶業盛なり。

助成業

馬政局所屬 馬の飼養多きは岩手・福島縣、盛岡及白河の馬市盛なり。

白河附近の「牧場」は本地方が本邦著名の産馬地たることを例證せんが爲に西郷村の軍馬補充部白河支部の牧場頭數約千を飼養する様を示せるなり。白河の馬市は盛岡のど其改良に意を用ひたるによる、今陸軍所屬の牧場を擧ぐれば

青森縣種馬所	秋田縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所	青森縣種馬所	岩手縣種馬所	宮城縣種馬所
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

軍馬補充部	六原	同	岩手縣膽澤郡相去村
七戸支場	同	青森縣上北郡三本木村	
萩野	同	山形縣最上郡萩野村	

林業

杉の大森林は米代川の流域に在り、河口の能代港は製材業盛なり。

能代港にある製材所 河口港の發達並に性質は上流地の産地に據る所多きを證するものにして凡そ製材所には事務所・製材工場・貯材場・倉庫・交通機關等の設あり。圖は能代挽材會社の製材工場の一部と貯材場とにして、杉材を主とし右方蓄積せるは丸太にして、左方にあるは板と材としたるものなり、中央のトラックは製材等の運搬用、奥に見ゆる數多の煙突ある建物は洋式大規模の機械製材工場なり。米代川流域は森林に適し其美は天下無双翁蔚なる杉の純林たり面積三十方里に亘る、一町歩の材積四千尺に達し、なるは目通り直徑四尺枝下十數間に達し、木理の緻密色澤は他に比類なし、是れ舊藩林制の宜しきを待たるによる。樹齡は百年乃至三百年に及び奥羽地方の伐採高約百六十萬圓に上り、製材所亦所々に及ぶ奥羽地方の伐採高約百六十萬

福島市及び川俣を中心とし、羽二重を出し、年産額四百餘萬圓に達す。米澤地方にも米澤織を出し、年産額六百萬圓内外に達す。絲織は約七割を占め袴地は約二割五分を占む。

日橋川の水力電氣を利用して、日本化學工業株式會社は、本社東京府南葛飾郡龜戸町會津工場を日橋村に設け、機寸製造の原料たる鹽酸加里を製し、高田商會(東京市麴町區有樂町)は、亞鉛郡磐梯村に工場を設け、猪苗代水電の電力の供給を受け、亞鉛合金の製造に従事す、其他新計畫のものも少なからず。

ゆ。(前出)山本郡に屬し縣下第一の要港、杉材の輸出を以て聞

加工業

絹織物業…福島附近
電氣工業…猪苗代湖附近
製材業…能代港

四 交通

常磐線
東北本線

鐵道(陸上)

河川の沿岸に
走り

奥羽線…福島・青森間
磐越線…平・新潟間
陸羽線…小牛田・酒田間

海上の交通は良港少なく不便なり
殊に日本海岸は冬期風波に妨げらるゝこと多し。

海上の交通

青森—函館間には連絡船あり

東海岸を過ぎり岩沼に於て東北本線に合す(二七頁参照)

阿武隈川流域の諸地を過ぎり仙臺平野に出て更に北上川の縦谷を過ぎ中山峠を経て遂に青森に達す。

青森—仙臺—福島—二八八・九哩

板屋隧道を過ぎて西部諸川の流域を走り青森に於て東北線に合す。

福島—秋田—二五五 青森—三〇二・三哩

共に横断線にして奥羽開明の鍵をなし平五三三郡山—二八八新潟—五八五新庄—三三三酒田とを有す。かくて東西南北の交通も次第に便利となるも冬季の降雪は障害を爲すこと大なり。所々に雪除(板屋隧道)の設備あり。

東岸には荻濱の外は石巻・釜石・山田・宮古等あるも沿岸航行の寄港地たるに過ぎず。西岸には船川の外は酒田・土崎港・能代港あるも不便にして、殊に冬季は風波の爲に航行は妨げらる。北岸には陸奥灣に臨める奥羽最要の青森港あり。

青森港と鐵道連絡船は青森海岸より灣内を見たる景にて奥羽第一の海港たることを證せん。中央に見ゆるは棧橋にして、之にかゝれる船なきに考ふるに、良好ならざるを知らる。沖にかゝれる二本煙突の煙を吐けるは青森函館間の連絡船田村丸か比羅夫丸か弘濟丸なるべし。かゝれば一朝北風荒めば之が連絡船の困難にして危険なり。連絡船は前記三隻にして鐵道院に屬し、兩地より一日發着各三回あり。此間六十哩略四時間を要す、尙青森室蘭の—〇九哩間には北日本汽船株式會社所屬汽船の一日一回の往復あり。

五都邑

白河…附近馬の飼養多く馬市あり。

前出(一四二頁)

福島…縣廳。生絲羽二重等の集散地。

福島縣

若松…會津盆地の中心地、漆器。

阿武隈川に沿ひ鐵道の分岐點に當り交通便なるが上に縣治・産業の一中心地たるを以て生絲・羽二重の取引多く近年漸次繁榮を増し人口三萬四千に達し、商業の活氣は若松市を凌ぐの概あり共同荷造所の如きは其一例なり。もと松平氏の舊城下にして維新前は奥州の重鎮たり、近年開通せる磐越線の要地に當り會津盆地の貨物集散著大なり。

平…附近は石炭の産地。

前出(一四二頁)

仙台…縣廳。第二師團。東北帝國大學、人口十萬—奥羽第一の大都會。

慶長七年伊達政宗の築城以來世々伊達氏六十三萬石の城下町、第二高等學校、宮城控訴院等あり、仙台平・埋木細工の外未だ工業の見るべきものなし。(一四七頁参照)

宮城縣

石巻…交通の一要地。

陸羽線(奥羽横断線)の連絡線、仙北輕便鐵道の起點をなし、海上は東岸各地との連絡ありて、漁舟、商船の來往繁く、古來の要津たり。

松島…灣内島々の青松は風景美なり。

松島灣の一部 圖は古來日本三景の一に數へられ文人墨客の足を止むる所、松島村瑞巖寺東方の新富山より南に向つて見たる所に於て松島村の一部と灣内の一部との景なり。手前の大建築物はホテル・貝細工・埋木細工等の賣店等なり。向岸は鹽釜神社の在る所なり、灣内には所謂八百八島點々として悉く青松を戴き千古の色を水上に浮へ風景の美真に

岩手縣

盛岡…北上川上流の中心都市
縣廳—馬市名高し。

掬すべきものあり、其眺望を恣にせんとするものは、富山・新富山・扇溪・多開山・大鷹森の高地を可とす、之を松がの五大觀と稱す。

釜石…鐵の主産地。

盛岡の馬市 は奥羽地方到る所に開設せらる、馬市の光景を例示したるものにして各地期日を異にす、本所は毎年九月十日間市内馬町に開かる、圖中稍右方にありて字額を掲げたる上家は馬檢所なり、縣下の各牧場より馬匹集り來りて、此間に二千頭内外の賣買行はる、縣下數十ヶ所の牧場にては一萬三、四千頭の仔馬の産出あり府縣中第一なり。

青森縣
青森…縣廳、水陸交通の要地
東京より汽車時程十七時間。

前出(一四四頁)

急行列車上野午後一時發—福島同七時二十分—仙臺同九時二十分—青森翌日午前六時着、夫れより同七時二十五分發の連絡船に搭乘すれば正午函館に達すべし。

青森縣

弘前…第八師團
附近より萍果を出す。

前出(一四〇頁)

縣下萍果の産額四百七萬貫に達し當地を主産地とし品質優良なり、品種には國光・紅玉・柳玉・倭錦・祝等ありて京阪地方並に浦潮斯德方面に搬出す。

大湊…海軍の要港。

前出(一四〇頁)

能代港…製材盛なり。

前出(一四三頁)

秋田縣

秋田…縣廳
地方の商工業地。

佐竹氏の舊城下、鑛山専門學校等ありて雄物川流域の最大都會なり。

小坂…銅・銀・金の産地。

前出(一四一頁)

米の取引、製材、絹織物業盛に行はる。

山形縣

山形…縣廳、地方の商業地。

農産物の賣買盛に、地方の需要供給を司る所とす。

米澤…絹織物の産多し。

上杉氏の舊城下、高等工業學校、縣立工業學校、養蠶、製絲の中心地、絲織・袴地の機械地其年産額六百餘萬圓(前出參照)

舊藩主上杉鷹山(治憲)公の治績は世に喧傳せらる、こと多し、參照を要す。

酒田…米の大集散地
交通の要地

羽後國飽海郡最上川口の一商港、明治維新前は出羽第一の埠頭、貨物集散の地なりしが漸次港底埋没して其の便を欠く、今や陸羽線開通して稍活氣を帯び來り、交通の要所たるべし。

仙臺市

仙台平野の中心

北上川と阿武隈川との流域を連ぬる仙台平野の中間に立ちて交通の要地を占め農産工業に富む。

位置

奥羽第一の大都

既に人口と位置とに於て當地方最大なるのみならず奥羽地方に於て雙びなき各種の設備を有するを以ても稱せらる。

人口十萬…(單位千人)

仙臺一〇四青森四七山形四五盛岡四三若松四一秋田三六

繁榮の要素

政治…宮城縣廳

縣治及奥羽地方行政の中心地、宮城縣廳及び之に關聯せる官公の諸官署・宮城控訴院・地方裁判所、控訴院は奥羽地方全部に互る控訴事務を管す。

軍事…第二師團

第二師團司令部・歩兵第三旅團・第四・第廿九・騎兵第二・野砲兵第二の聯隊・山砲兵第一・工兵第二・輜重兵第二の大隊等ありて第二師管區を管轄す。

學術……東北帝國大學

産業……(地方商業の中心)

沿革…慶長七年伊達政宗の築城以來世々伊達氏六十三萬石の城下地として青葉城址・經ヶ峯靈廟・櫻岡、榴ヶ岡等の名所舊跡あり。

大學院・醫・理・農科・工學の各專門部・第二高等學校・男女師範學校・第一・二中學校・高等女學校・商業・盲啞・縣立工業・市立工業學校等あり。

第四 中部地方

一 境城

位置…本州の中部を占む。

廣袤…地圖實習
面積…四州

區分…行政上—九縣

信濃・飛騨・美濃の地は一般に高峻を極む。此高地を中心とし、附近の十二國を併せて中部地方と言ふ。東は箱根・足柄・碓氷等古來東國との境界をなせる天險を以て界し、西は若狹灣・伊勢灣兩側より入り込み、本州中最も狹隘なる地峽部をなして近畿地方と區劃せらる。

東西百里、南北白二十里
面積四、三〇九方里、人口一〇、八七七、一七一

縣名	縣廳所在地	管轄區域
山梨縣	甲府市	甲斐一市九郡
靜岡縣	靜岡市	伊豆の二郡、駿河一市五郡、遠江一市六郡
愛知縣	名古屋市	三河二市十郡、尾張一市八郡

岐阜縣	岐阜市	美濃二市十五郡、飛騨三郡
長野縣	長野市	信濃二市十六郡、佐渡一郡
新潟縣	新潟市	越後三市十五郡
富山縣	富山市	越前二市八郡、若狹三郡
福井縣	福井市	越前一市八郡、加賀一市四郡
石川縣	金澤市	能登四郡

二 地勢

(三道十六ヶ國)

概観…本州中最も廣き所を占め地勢甚だ高くはげし。數條の大山脈は、南に走り相ならべり。數多の大河は之に沿ひて太平洋又は日本海に入る。流急に舟運乏しきも平野には産業交通發達し、都邑亦多し。

高地—附近の地より急に高くなりたる土地にして其表面は全く水平なるもの、凹凸あるもの、傾斜せるもの、又其縁邊は山脈を以て圍めるもの等あり。主峯—山地の最高地點を峯又は山頂と云ひ其數多並べ、越—内にて最も主なる地と云ふことなり。俱利伽羅峠と云ふが如し。

那須火山脈…淺間山

淺間山—活火山(八一八四尺)上、信二國の境上に峙つ三重式火山、亞硫酸瓦斯・水蒸氣を噴出す、天明三年の大噴火の熔岩流は鬼押出と名づけられ流下三十町下部は一里半の幅に擴がり厚さ百尺乃至百五十尺、熱石及泥の奔流は噴火類と稱せられ一時間二十里以上の速度にて山腹を奔下し山麓の森林村落を埋没破壊せる後吾妻川より利根川に流れ出で沿岸の家屋を漂流し死者千六百六十二人、流失家屋千六十一戸に及び大慘害を極めたり。

東部

富士火山脈…富士山(帝國第一の火山)伊豆七島

富士山—山嶺八朶に分れ芙蓉峯の名あり八峯相圍みて御鉢(噴火口)を擁す、周圍一里直徑二千尺、深さ五百三十尺、山頂は十三州より望み得べく富士見十三州の語あり、寶永山は寶永四年の爆裂火口の跡なり、御殿場・須山・須走。

大宮・吉田等の登山口あり、毎夏登山者二萬、吾人は氣候と植物帯との關係、山上の温度並に氣壓等の現象を實驗觀察し得べし。山容の美なること海内に比なく、火山の模式的のものなり。

飛驒山脈は北端を信濃・越中の界に起し白馬岳・鎗岳及び乗鞍岳・御岳の火山高く聳ゆ、脈中の雄峯鎗岳は高さ九千七百尺に及び四時殆んど雪を戴く所謂日本アルプスなり。
〔鎗岳〕は夏尙雪の存在するを示す、人の歩める所は雪田なり、右方の尖峯は鎗岳の巔にして如何に削磨作用の甚大なりしかを見るに足るべし。

白馬岳

白馬岳—高さ九千七百尺夏時登山者の多きを以て開ゆ。

御岳火山脈…御岳

乗鞍岳

御岳火山脈—飛驒山脈を通じて噴火せるものにして御岳・乗鞍岳を噴起す。御岳は二萬六千尺、山頂は四時雪を戴き夏尙寒し頂上には五個の大口を有し其の中三之池は周圍一里餘硫氣を出す。御岳神社詣の白衣の行者夏季數千に達す。乗鞍岳は御岳火山脈中の一秀峯(九千四百六十尺)なり。

此等の山岳を含める東西十里南北二十里の間夏季の立山温泉を除き一の人家を見ざる所あり此地方を日本アルプスとも適せり。

木曾谷と伊那谷との間に亘れる山脈にして駒ヶ岳(一萬二百尺)・惠那山を大とす、概して七千五百尺の高さを以て連亘す。森林の蔚蒼たるを以て名高し。

山岳

中央部

飛驒山脈…鎗岳

白馬岳

御岳火山脈…御岳

乗鞍岳

(日本アルプス)

木曾山脈

東南部

赤石山脈

西部

飛驒高地

白山(白山火山脈)

太平洋に注ぐもの

富士川

大井川

天龍川

木曾川

長良川

駿河灣

濃尾平野…伊勢灣

富士山と大宮附近にある一製紙場 富士山の西南麓の富士郡富士根村より望めるものにして雄大秀麗なる山容と裾野に發達せる製紙業の隆盛とを示す。右方中腹の突起部は寶永山なり、北方に向ひたる汽車は富士身延鐵道の列車なり、前面の大建物は富士製紙株式會社の第二工場なり附近の地は製紙原料と水力とに富めるを以て製紙工場數多く我國洋紙の重要産地なり。

天龍川と富士川との間に蜿蜒として南北に走り赤石山(一萬二百尺)・白峯山(一萬四百尺)駒ヶ岳(九千九百尺)等の高嶺を列ぬる我が國有數の大山脈なり。

飛驒山脈に連接して飛驒の國內殆んど全部を占む鉛・亞鉛・銀・神岡(銅)・銀平(金)の産地多きを以て知らる。

白山は加賀・飛驒の二國に跨り高さ八千八百五十尺白山火山脈の盟主なり。西麓に白山温泉あり、牛首郷は深雪に名高し。富士川は長さ四十一里、源より以下十八里を舟行半日にして岩淵に達する急流。昔甲府より江戸に至る要路なり。大井川は源を赤石山脈中の白峯に發し谷を下ること四十四里、河幅十八町に達する所あり。天龍川は諏訪湖に發源し、奔流五十五里東海道第一の長鐵橋あるを以て開ゆ。木曾川は木曾山中より發源し、七松附近にて寢覺床の名勝を存し岐阜縣に入り長良川等の諸川を入れ漸次大となり、濃尾平野を灌漑し、農工、商業の因を成す。伊勢灣に注ぐ、長さ七十七里流域六百方に達し、航行二十二里に及ぶ。

湖平河沼野川

日本海に入る
信濃川...越後平野
新潟港
本州第一の大河。
神通川... (富山平野)

東...伊豆半島
駿河灣
濱名湖

太平洋方面

清水港(後出)

海岸

西...知多半島
三河灣
伊勢海
名古屋港
中央部...能登半島
富山灣...伏木港
西南部...若狭灣...敦賀港
東部...砂濱多...河港...新
島嶼...極めて少なく佐渡島
あるのみ。

三 氣候

氣温...太平洋方面...溫和
中央部...土地高く冬期寒氣強し。
氣壓...日本海方面冬季風荒し。

木曾川の木材と森林鐵道 是其に森林の發達
著しきを證するものにして木材の集合せるは岐阜縣可兒郡
錦津村錦織の網場なり、木曾森林の林相と森林鐵道(四十七
頁)と木材運搬の汽車とを併せ見れば如何に木材の豊富な
るかを知らるに足るべし。木曾の森林は御料林を最とし其延
長二十一里全面積十六萬町歩あり、鎌倉時代より當局者林
制に注意せしが尾張藩之を領するに及びて木曾奉行を置き
て保護し「木一本に首一つ」の語あり樹木悉く三四百年以上
の巨木なり、伐出の法は材木を各谷より木曾川に下し一本
流しを行ひ之を集むる所即ち網場是なり。此處より筏に組
まれ愛知縣白鳥又は三重縣桑名に送らる、一年の伐木數に
四萬本從業者約二千人、木曾の五木(檜・榎・樺・楡・杉)殊に
名あり、神宮御造營の用木は常に此處より伐り出さる。
信濃川...上流千曲川、川中島にて犀川を容れ大となり越後
に入り信濃川と稱す、新潟に至りて海に注ぐ長さ九十四里
(本州第一)航程七十二里流域七百五十九方里を占め土地極
めて肥沃にして本邦屈指の米産地なり。
神通川...富山は富山平野を涵養する諸川の一例を示した
るものにて富山市の附近を流る、神通の河畔より飛驒山地
及び立山連山を望むもの、中央の橋は神通橋、立山は飛驒
山脈中に屬し黒部川上流の數峯の總稱なる雄山(九千七百
尺)最も名あり、其の西側の地嶽谷亦名あり。
伊豆半島は富士火山脈脊梁をなし東側蜜柑の産に富む。面
積四四〇方里日本文明史に名高き下田港などあり。
濱名湖...明應七年八月(四百年前)海嘯の爲潮水を通ず、其
の湖口百間許りを今切と云ふ。東西一里二十九町、南北二
里三十二町、周圍二十三里十五町、面積約五方里。

駿河灣は海岸一帯秀麗なる富士を背景とし、白砂青松相映
じて田子浦、三保の松原等の勝地多し。清水の開港場は西
部に在りて茶季北米との直通航路あり。
知多半島は渥美半島と共に三河灣を擁し又伊勢海とを隔
つ、半島地方は到る處醸造業に名高く武豊開港場を輸出地
とす。
名古屋港は近年の開港なれども輸出入の激増せるは名古屋
附近の地方の工業の勃興せるに因るといふ。
海岸到る處遠淺にして風波を防ぐ所なく舟泊に便ならず。
敦賀...七尾の外良港ならず。
親不知...越後糸魚川町の西南四里市振村、二里間灘所五六
町五七間毎に岩洞を設け避難所とす、池大納言の夫人北條
を過ぎ怒濤の爲め其の子を奪ひ去らる左の詠歌あり。
「親しらす子は北浦の浪まくら越路の磯のあわと消々行くし
と親しらすの名これより出づ。今は道路崖上に開通せられ
車馬すら通行するに至る。
夷港は新潟港の避難港として補助をなせり。海上を距るこ
と三十二哩。
佐渡...面積五十六方里、人口十一萬餘ありて金北山下の相
川の金鑛を以て名あり、又「來いと行かると行かると」の俗語を以て聞ゆ。
へ、佐渡は四十九里波の上の俗語を以て聞ゆ。

測候所 平均温度 最高温度 最低温度 雨量 降雪量

沼津	一四・五	三三・八	八・一	一九・九	少
名古屋	一四・八	三三・八	九・三	一七・六	少
高山	九・八	三五・四	二・三	一八・七	多

湿度 太平洋方面…夏季雨多し 日本海方面…冬期雪多し

長野 一〇八 三六三 一六四 一〇〇 多 少 野澤 一一三 三八五 九七七 二五〇 多 少 新金 二一六 三九一 九七七 一七九 多 少

日本海方面の積雪と雪中の交通は日本海方面比較的水多し冬季を有し降雨多きを示せり降雪量は凡屋上に認むべし市街通路の景亦之を證す北陸地方には各戸扉を長く出だし積雪多き時其下を人道に供す之を雁木と云ふ街の雪は屋根より下したるものかく積雪多きときは服中記せる如き櫛を用ゆ郵便配達夫等も圖に見ゆる如き服装をなす又近時高田師團にて埃國武官より傳習せるスキー(幅六寸長さ六尺許前端を反したる板に足を結び付くべき紐及び金具とにて造る)は當地方雪上歩行に用ひ積雪多きときは之をはきて雪上を滑走す手に持てるは長さ七尺許の梶棒なり

四 交通

概観 高山急流多きも本州の中部を占むるを以て古來重要なる街道通せり

鐵道 南東海道線及び支線 中央部中央線―管子峠には帝國第一の長トンネルあり 北信越線と北陸線及び連絡線とあり

太平洋方面…海運の便大に開け 清水港…製茶を出す(後出)

近畿と關東奥羽との中間に立てるを以て 東海道近江より伊勢・尾張を経て箱根を越え江戸に通ず五十三次名高し 中山道近江より美濃・木曾を経て碓氷峠を超え六十九驛を過ぎる 北陸道近江より福井・金澤を経て、俱利伽羅峠を越え新潟に達す 東海道線―東京・三島・名古屋・米原・京都・大阪・神戸間… 中央線―萬世橋・鹽尻・名古屋間… 信越線―高崎・篠井・直江津・新潟間…

名古屋港…雜貨

航路 日本海方面…冬季風波の爲妨げらる

新潟港・伏木港…米を積出す 敦賀港…浦潮斯徳との定期航路は四十時間の航程シベリヤ鐵道との連絡あり

北陸線―米原・敦賀・津幡・高岡・富山・直江津間…二二八・三長一萬五千三百四十六呎 工事一六年十月月を要し明治三十五年竣工汽車通過の時間一八九分を要す 工費一億二千萬圓(一呎二付百二十圓) 尚甲府以東の線路は八王子・甲府間五十三哩中には四十二の隧道と三十四の橋梁とを有し約其四分の一を占む一哩の建造費三十五萬圓に達すと云ふ 敦賀港は本邦中亞細亞大陸を横断する世界交通の幹線と聯絡する主要港を示す、灣は築城岳・木芽嶺・野阪山にて三面を圍むも稍廣きに過ぎ又西北風を防ぐに由なく防波堤にて之を防ぐ十三尋の深線は岸に接近し長さ百十間の棧橋を設け吃水二十尺の船舶を横付となす、浦潮航路は大坂商船と露國義勇艦隊とのに従事す距離四百九十四哩四十分間の航程シベリヤ鐵道に依る世界一の要衝 敦賀―(一日)―浦潮―(一日)―倫敦―(五日)―紐育―(五日)―桑港―(十三日)―橫濱―(計三十七日) 圖は港の東南天筒山より望みしもの右端の小丘は尊良・恒良兩親王を祭れる官幣中社金崎宮の鎮座せる金崎城址なり其の下に防波堤と棧橋とあるが其の手前なるは停車場、中央に並べる建物は多くは倉庫なりとす

五 産業

獲得業

水産業…太平洋方面に盛に鯉節(静岡縣)

石油…信濃川流域長岡を中心とす

伊豆半島沿岸に漁獲多きは鯉にして静岡縣より製出する鯉節年産額一・六〇三千万なり 伊豆節として名高し 柏崎の製油所と石油を運ぶ列車は本縣は本邦唯一の石油産地たるを示せり 製油所は日本石油株式會社の所屬に

鑛業

金…佐渡
銀・鉛・亞鉛…神岡鑛山

助成業

米…濃尾、越後平野等

農業

麥・野菜…濃尾平野
茶、蜜柑…静岡縣(製茶は合衆國に輸出す)

養蠶業…中部地方殊に長野愛知の二縣盛に繭の産多し。

林業…木曾川上流の木曾谷の檜名高し。

加工業

製絲業…諏訪湖畔其の産額多し。

して中央蓋を有せる圓筒形のものにはタンク(油槽)なり右端四個の圓筒は洗滌器として製油所の主要部なり。油槽列車は一車よく數百石を容れ輸送には尤も便利なり。由來新潟縣は石油の主産地にして産額百七十萬石を超え本邦總産額の約七割を占む、東山・西山・新津を其の主産地とす。東山・西山とは長岡市を中心として東西に分布せる地なり。東山北山の西南相川町の方面にあり其の稼行は慶長六年に始まり現時は三菱合資會社の經營なり。年産額百三十萬圓に達す。岐阜縣吉敷郡津町附近にありて三井鑛山株式會社に屬す、殊に亞鉛の産出に名あり。年産額百三十萬圓に達す。密柑—氣候と地質との好適地、樹數約二百三十一萬本産額七八百貫本邦の第二位

清水港に於ける茶の積出…は茶箱を舁船に積みて沖にかゝれる本船に運搬せんとする景なり輸出茶の荷造は杉板箱の内側に鉛又は錫板を張り更に紙を布き之に製茶凡ソ三百斤を入れ之をハンダ附とし更に木蓋を蔽ひ商標を張り更にアソベラにて包む。

(附録参照)

(前出)

諏訪湖畔の製絲工場…は製絲業の本邦中最盛なる長野縣中該工場の最も蝟集せる處なり圖は平野村大字岡谷の製絲工

絹織物業…羽二重…福井、石川製造盛

時計製造…名古屋

製紙業…大宮より洋紙を出す。

陶器業…瀬戸、多治見、金澤。

漆器業…静岡、輪島。

五都邑

山梨縣

甲府…甲府盆地の商業の中心地
東方(勝沼)に葡萄の産多し。

第二章 教材研究の實際

場を東北より西南に見渡したる景なり右端の橋のかゝれるは天龍川の吐口に當り窓のある四五層の建物は繭倉にして煙突は製絲工場なり近頃は水力電氣動力を用ふるもの多し其の戸數約三十工女約五千人に達し長野縣製絲額の約四割は此處にて製せらる。

福井縣の輸出羽二重検査所…は羽二重の聲價を保持せんが爲め検査所を設け其の品質、瑕疵、汚染、長、幅、量目等を検する其の光景なり。由來福井縣産の輸出羽二重は有名なるものにて其の販路の廣狹は産業の消長に關するを以て品質の改良を企圖せらる。福井縣の産額二千萬圓石川縣一千二百萬圓重要輸出品たり。

主に柱時計、置時計にして年産額八十萬圓東京に次ぐ、工場は各所に在り就中松山町の林工場を最とす。

(前出)

(後出)

静岡産は生地の木目を表はすに名高く輪島産は黒塗にて堅牢なるを以て秀づ。

武田信玄の居城地其の址は市の北郊に存す生絲の製造盛に又水晶細工に名高し。
甲府の東にある葡萄園…は勝沼附近に於ける斜面地を利用したる栽培園なり柱を建てたる儘のものあり柵を設けたる

熱海・修善寺…温泉場

静岡…縣廳、漆器、茶

大宮…洋紙の産出多し

清水港…茶の輸出

濱松…綿織物、樂器等

豊橋…第十五師團、製絲業

岡崎…製絲、地方の商業地

名古屋…(別記)

あり左方には既に葡萄の實の美しく實れる様を示せり全縣の年産額二十四五萬圓に上り全國の五分の一を占む。富士火山脈に當り火山多く温泉各所に湧出し其の數二十五に達し東京横濱等より來客多く爲に繁榮す、かく火山と温泉と風光との關係は土地の繁榮に影響すること多大なるを知るべし。

昔駿府と稱し徳川家康退隱の地、久能山(市の東南二里十町高九百尺)に其の靈を祀れる別格官幣社東照宮あり、市内漆器(静岡塗)木地呂漆、紙製漆器の製造茶の取引盛なり。富士郡の町舊甲州街道に當り甲斐へ出入の貨物の取引所なりしが慶長年中富士川通船後は衰へ今は富士登山の表口に當り夏季旅客の往來多し又製紙の業盛になれり。(前出)

往時徳川家康の居城地、近時工業勃興して紡績業盛に絹木綿亦名高く日本樂器會社は風琴、洋琴の製造に名を海外にまで博せり。

豊川の南岸に立ち豊川鐵道の分岐點に當り日清戰役に原田重吉等を出したるを以て知られ近來師團を置く附近の地と共に製絲業亦名高し。

徳川家康の出生地近時市制施行せらるる地方の需要供給を司る地なり。

瀬戸…陶器の大産地

岐阜…縣廳、長良川の鵜飼

縣の主要都邑

岐阜縣 多治見…陶器の一大産地

大垣…縣下の要部、西南に養老瀧あり。

高山…飛騨高地の山間なる小盆地の中心市場。

松本…繭、生絲の取引多し。

長野…縣廳、善光寺

長野縣

諏訪地方…製絲の業帝國第一

第三章 教材研究の實際

東春日井郡瀬戸町は陶磁器の産、名高く毎年三百五十萬圓生地の六割は名古屋に搬出し、焼付等に用ゐらる。

長良川の左岸に立ち提灯傘紙等を産す、鵜飼の名所なり。

長良川の鵜飼は岐阜市の東に屹立せる稻葉山(金華山)の麓に於ける夜中鵜飼の景にして篝火を焚き鵜匠二人船夫二人一隻に乘組り鵜匠はよく鵜十二羽を操る一羽よく百五十尾乃至三百尾の鮎をとると云ふ。毎年五月下旬より十月迄暗夜に行ふ一奇觀なり其季節には觀客遠近より來集、可兒郡多治見町は岐阜縣製陶の中心地年産凡二百七萬圓に達す。

揖斐川の流域地を占め米穀の取引盛に繁華岐阜に次ぐ市を距る西南約三里半の養老山中に養老瀧あり高さ十丈餘巾九尺餘近時附近の地を劃して公園となす。

大野郡海拔千八百五十尺に位し附近材木の良産ありて古昔飛騨の工匠を生せし地なり。

犀川の流域松本平の中心市場にして附近より産する繭生絲の取引盛なり。

善光寺平の北邊に位し交通便なり善光寺は三國傳來の佛像を安置するを以て名高く參詣の客常に雲集し所謂崇敬上の都會なり。

(前出)諏訪郡上諏訪下諏訪町平野村等附近の地には製絲業

新潟…縣廳、開港場、商工業の要地。

盛なり。
鐵道信越線、磐越線の會點に位し日本海の要港にして商業に趣けり。近年漆器、石油、鐵器、肥料、硫酸等の製造盛大

長岡…附近に油井あり石油業の中心地。

(前出)新潟との間に舟車の便ありて市況日に隆盛に趣けり。

新潟縣
直江津…交通の要地(信越、北陸線)

中頸城郡の海岸に立ち鐵道と航路との連絡地なり。

柏崎…石油の製造盛なり。

刈羽郡柏崎町には日本と賣田との石油株式會社の精製所ありて市況を助く。

高田…積雪の名所、第十三師團

(前出)

富山…縣廳、賣藥製造業

富山にある製藥工場内の一部は廣貫堂の製藥工場の一部にして數多の女工が包装に従事せる光景なり。こは數ある製藥場中の第一流に位し職工八百人行商五千人を有し毎年製藥高百萬圓あり。全縣下の職工數一萬五千行商者九千に達すと云ふ。

富山縣
高岡…銅器の産多し。

銅器、青銅器の製造古來名高く年産額八十萬圓に達す漆器勇助塗亦名あり。爲に工藝學校の設あり。

伏木…富山灣の要港、米の積出地。

越中米の集散地近年築港成り岸壁完成し三千噸の汽船を備着にすべく日本海岸屈指の良港となれり。

石川縣

金澤…縣廳、第九師團、人口十餘萬

日本海方面第一の都會商工業盛

金澤の兼六公園と陶器は一般に骨董、工藝品、謠曲を娛しむ北國振り代表都市金澤に於て之を示したるは極めてふさはし公園は舊城址の東南前田氏の別莊地東西四町四十間南北四町十八間面積二萬三千五百坪餘水面霞ヶ池に

輪島…漆器の大産地。

眺望の六勝を兼備すとの意に出づ。宋の李格非は洛陽の名園地に據り白河樂翁公の命名にかゝる。九谷燒は密書を以て特色とす。市は犀川と淺野川とに跨り西方に金石港を控へ前田氏百萬石の舊城地第四高等學校、醫學專門學校等もあり羽二重、九谷燒、硬質陶器、銅器等の製造取引盛なり。

七尾…日本海岸の一良港。

能登國鳳至郡輪島町附近の漆器は石川縣該産額の三分の二に當り黒塗を特色とす。下地塗の原料の良質を以て聞ゆ。

福井縣
福井…縣廳、藤島神社

附近の地と共に羽二重の産帝國第一。

七尾灣は能登島によりて南北兩灣に分れ、南灣の南邊に立てるは開港場七尾港なり鐵道七尾線の終點に當り汽船亦與羽、北海道、樺太、シベリヤ等の往來夥し。

敦賀…日本海方面の最良港

(前出)

浦潮斯德へ定期航海あり

術

工業品…總て機械工業によりて製出せられたる物品を稱し實用を主とす而して僅少の練習によりて何人にも製作し得らるゝ性を有す。

語

工藝品……特殊の技術によりて製出せられたるものにて趣味、娛樂、鑑賞の用に供せらるゝものなり。
工業地區……實用向の作品を産出する或地域を指す大阪、神戸、名古屋等は附近の地と共に工業地區をなせる其の適例なりとす。

位置……濃尾平野の中央に位置す
中部地方第一の都會

人口……四十七萬

繁榮の要素

東京と京阪との中間に居るを以て中京の稱あり東京より九十六里廿二町。市街は東西一里十九町南北一里十五町戸數は九千五百、人口四十六萬六千ありて日本第四の大都なり。
名古屋城は我國に残存せる宏大なる築城を例示したるものにして其の金鯱はやがて徳川時代に江戸と京都との間に在りて政治的、軍事的、將經濟的にも優勝の地を占め無限の物資を自由に集散せるを記念するもの念へば彼の俗語亦意義なしとせんや、正面の天主閣（五層樓第一層五百三十六疊敷、夫れより漸次狭く第五層百疊敷）の棟の兩端に相對せる金鯱（中心は木型に鉛銅を嵌せ金鱗を張る高さ八尺三寸五分一は八尺五寸雄、胸の周り七尺三寸、鱗片一千九百四十枚、時價四百五十萬圓）に名高く金城の名の由つて生ずる所なり。

商業の一大中心
内地
外國

各地との取引は盛大にして真に濃尾平野の中心都會たり。名古屋港即ち熱田港によりて市並に附近に産する工業品を支那、南洋各地に搬出す。

工業の一大中心

綿織物
時計
陶器其他

總産額一千七百萬圓以上を産し絹綿交織も亦少からず。柱時計、置時計にして年産額八十餘萬圓東京に次ぎ日本第二位なり。海外輸出に名聲を博す書焼付は本地の獨占たるの觀あり硬質陶器の製造技術精巧を極め海外輸出盛大なり、車輛、メ

名古屋市

リヤス等の製造亦盛なり。

交通の一集中點
鐵道
中央線
關西線
海道線
關西線

東京（三〇六）名古屋（九四七）京都（一〇〇〇）大阪（一〇〇〇）神戸間……………三七六・四
東京—鹽尻—名古屋間……………一五六・七
名古屋—奈良—大阪（淡町）間……………一〇八・八

航路
内國
外國

内地の諸港
横濱—神戸にて連絡す。（二二九頁一六七頁參照）

軍事上の要所……第三師團

第三師團司令部、歩兵第五旅團、歩兵第六・二十三の聯隊、騎兵第三聯隊、野砲第三聯隊、工兵第五大隊、輜重兵第三大隊、第三軍樂隊、陸軍地方幼年學校

政治の中心地
縣治の中心
其他

愛知縣廳、名古屋控訴院、地方裁判所、稅務監督局
第八高等學校、高等工業學校、醫學專門學校

沿革

金鯱に名高き名古屋城
熱田神宮

慶長十四年徳川家康子義直を従へて清洲城に入り翌年西國諸侯二十家に課して築城せしむ九月竣功義直移住、天主閣は加藤清正の造る所本丸は今離宮たり。
名古屋市南區熱田にあり日本武尊を祀り草薙劔を靈形とす官幣大社なり。
熱田はもと東海道の一要驛にして宮と呼び伊勢の桑名に渡る要津たりし、今や築港して開港場となり。名古屋港と稱す

第五 近畿地方

一 境域

位置…中部地方の西に續く。

廣袤…東西九十五里、南北八十五里、面積貳千百九十九方里、人口九百貳萬餘

區分…行政上二府五縣

(一畿五道十五國)

二地勢

概観…西北部と南部とは山地をなし中央部には平野あり。

西北部…中國山脈の東端高原狀をなす。

畿内五國及四近の九國を併せたる二府五縣の地域にして地人文共の後に承け東國の武家氣質の素朴なるに似ず風俗自然に優美なり其の影響は畿内より更に近隣數國に及びて所謂上方風となれり從て本地方は地理上の一區劃として認めらる。

府名	府縣廳所在地	管轄區域
近江府	大津市	近江一市十二郡
山陽府	丹波市	山城一市八郡、丹後五郡、丹波の五郡
京都府	京都市	大和一市十郡
奈良縣	奈良市	伊賀二郡、伊勢三市十郡、志摩一郡、紀伊の一市七郡
三重縣	津市	和泉一市二郡、河内三郡、攝津の一市四郡
和歌山縣	和歌山市	但馬五郡、播磨一市十三郡、淡路二郡、攝津一市三郡、丹波の二郡
大阪府	大阪市	
兵庫縣	神戸市	

術語…平地、平原、平野、低原何れも海面を抜くこと餘り高からざる平坦なる土地をいひ人類活動の舞臺なり。高原、高地、高臺は臺地の稍廣大なるものを稱す。(一九頁參照)

中國山脈は琵琶湖の北、柳瀬峠に起りて西に延長し、頗る凹凸を呈すれども高大なる山岳多からず。主脈は稍北に偏せり。

中央部

山脈…數條の小山脈(金剛山脈、笠置山脈、鈴鹿山脈等)南北に走りて土地は數分せらる。

近江盆地…琵琶湖、水と淀川

奈良盆地

京都盆地…淀川貫流す。

大阪平野

播磨平野 (三四頁參照)

伊勢平野

紀伊山脈…大臺ヶ原山、山上岳

平河山野岳

琵琶湖と大津…は本縣の自然界と人事界とに於る長者を特出せるものにして大津市を三井寺の觀月堂側より琵琶湖と共なり、湖水は周圍五十九里三十二町面積四十五方里海抜二百八十五尺源五郎船、鯉、鯉等の魚族五十萬圓を産す太湖、湖南の二汽船會社定期航路をなす、疏水は大津、一保崎湖岸より逢坂山を開鑿して京都市南禪寺前に達す延長一萬五千六百餘間明治十四年起工同二十三年成る交通と發電とに利用せらる。近江八景、比良の暮雪、堅田の夕照、石山の秋月、矢橋の歸帆、晚鐘、粟津の晴嵐、瀬田の夕照、石山の秋月、矢橋の歸帆、淀川は源を琵琶湖に發し勢多川といひ京都盆地に入りて宇治川となり丹波高原より來れる桂川を合せ伊賀盆地に發する木津川を容れて淀川と稱せられ大阪平野、大坂市街を貫流して大阪灣に注ぐ京阪間の通路として極めて便なり。

南部 南流…熊野川

西流…紀の川

一名新宮川、上流は十津川及び北山川にして新宮に至り海に注ぐ長さ四十一里舟筏の利大なり。大臺原山に發し吉野川と呼ばれ和歌山附近の平野を潤ふし海に入る長さ三十四里木材の流下に利用せらる。志摩半島及び熊野灘方面に良港なきは背面平地なきによる

太平洋岸…小出入多けれども良港乏し。

日本海岸…若狹灣に舞鶴軍港。宮津灣に天橋立の勝地。

伊勢海…四日市港

中央部 大阪灣…神戸大阪の二大港。

播磨灘…淡路島、明石、紀淡鳴門海峡

天橋立は長さ二十七町四十間巾三十七間砂洲一帯の青松を戴き遠景真に一大長橋の天に懸れるに似たり名稱の起因をなす、眺望には堅と横との景あり圖は成相山より東南に眺める景にて所謂横一文字をなせる所之を股間より望む最も佳なり股眼鏡是なり、右は岩瀧灣にして左は宮津灣前方の山岳は宮津町を圍繞せるものなり。

四日市港…碇泊面積四十三萬坪、水深二十六尺、突堤、棧橋、船繋岸延長三百六十間。三重紡績の主産地にして兼て輸出港なり。大阪港…碇泊面積二百七十七萬坪内八十五萬坪は水深二十八尺、大棧橋、鐵道棧橋等五、繫船岸延長八百二十間、埋地内運河三、碇泊面積三百萬坪、起重機四、同船二、倉庫六十棟。神戸港…碇泊面積三百萬坪、起重機四、同船二、倉庫六十棟。船岸四個、起重機五十九、可動起重機の軌道十二哩、海陸連絡鐵道等備はる。

四國の海岸より望める鳴門海峡 中央の岩嶼は大毛山の一部にして帆船の彼方は淡路島の行者ヶ鼻なり右方の山岳は其の東南部に連れるものなり、潮汐干満の際内外の水面に差「十尺餘」を生じて急流奔下し一時間の速度十一哩に及び大渦をなし怒濤雷の如し鳴門の名茲に基づく。(後出)

三 交通

概観 大阪京都には鐵道四集し神戸大阪よりは航路内外諸港に達す

鐵道 東海道線(東京神戸) 三三六、四
山陽線(神戸下關) 三三九、三
關西線(名古屋淡路) 一〇八、八
參宮線(龜山鳥羽) 四四、五
北陸線(京都仁萬) 二六七、五
山陰線(米原直江津) 二二八、三

航路 神戸 瀬戸内海及び近海航路 七九八
支那 上海、神戸…一、四三八
印度 香港、神戸…一、四三八
大阪 歐米行

山陰線の高架橋 兵庫縣城崎郡餘部村の沿岸に接し鐵驛と久谷驛との間にかけられる陸鐵橋なり、石造基礎の上に六十呎の鋼材十一連と三十呎の鋼材十二連とより成り高さ五百三十五呎延長千九百九十九呎、工費四十七萬四千五百圓を要せり、展望雄大日本海の狂瀾怒濤を見る橋なり。澳村は落武者村と稱し平家の餘黨潛る住みし處なりといふ。淀川の下流は所謂川口の繫船場に船舶の輻湊せる景にして築港より安治川口を溯ること約五十町の新堀及び富島町を上流より望みたるものなり、中央に在る尖塔の建物は大阪商船會社、右方の建物は住友伸銅所等なり出船千艘入船千艘の名空しからざるを見るべし。神戸、大阪を起點として内外諸港に通ずる數多の航路あり附録航路参照

語術 海峡…水面が陸地に狹まれ兩側港灣又は外海と通せる水路を云ふ故に國防上、交通上重要な位置を占む當地方の明石、紀淡、鳴門海峡の如し。海峽…海面が陸地に狹まれ兩側港灣又は外海と通せる水路を云ふ故に國防上、交通上重要な位置を占む當地方の明石、紀淡、鳴門海峡の如し。海洋の港灣遠くして寄るべき所なく航路に困難なる所をいふ播磨灘、遠州灘、熊野灘の如き好例なり。

四 産業

獲得業 紀伊半島の近海盛なり。志摩半島の沿海に眞珠の養殖あり。

熊野灘の鯨・鯔の漁獲多く志摩より伊勢海に互りて鯔多く半島の眞珠有名なり。眞珠の採取 志摩郡神明村英虞灣に於ける海女の作業の状なり。海女は手拭にて頭を包み白木綿の褌衣と猿股とをつ

水産業

赤穂は鹽を産す。

鑛業…銅銀—生野鑛山。

助成業

農業 米、麥、茶、菜種…平野の各地
蜜柑…西南岸地方殊に有田川沿岸。

林業

南部は氣候暖に雨量多く樹木の繁茂に適す殊に杉は熊野川、紀の川沿岸に多し。

加工業

大阪灣沿岸の地方は我國の一大工業地帯をなす。

綿絲紡績

綿織物業

け水底に沈み作業を爲す其の間は五十秒位にて海上に浮びヒューヒューと口笛を鳴して呼吸す。眞珠養殖は御木本幸吉氏の創業にかゝり今は五ヶ所二百二十五萬餘坪の海面を使用し年産額三十萬圓に達すといふ。

(後出)

有田川沿岸の蜜柑畑と蜜柑のより分け—蜜柑畑は保田村大字山田原即ち有田川右岸の丘陵を階段状に耕作せるものに於て殆んど山頂まで開墾せらるる遠方にある山も亦皆然り、有田蜜柑は果皮は薄く甘味多く内地向なり、上流の伊都及那賀産は果皮厚く酸味強きも久しきに堪ゆるを以て輸出向とす、毎年千萬圓内外を産し全國の四分の一に當る。奈良和歌山兩縣に亙りて林業盛んに吉野杉高野杉殊に名高し。吉野杉は全國の酒造家が貯藏の酒樽として尙ほる。檜、楡、扁柏類も名あり熊野地方の備長(堅炭)良質を以て聞ゆ。

大阪市内の工場 煙突林立の状と煤煙の盛況とは如何に工業の盛なるかを想見するに足る、工場數一萬一千八百餘職工九萬七千八百餘人煙突の六十尺以上のものゝみにても約七百基を算するとは之を證するに餘りありといふべく大阪の工業の地と云ふ所以茲に存す。

大阪にある紡績工場の内—東洋紡績會社の精紡機の整列を示したる景にして綿絲はかかる紡績機械の複雑なる工程を経て製せられ吾人の用に供せらるゝを知るべし。年産額一億圓餘全國の約六割、白木綿は綿織物の過半、綿

大阪

メリヤス

マツチ

肥料

藥品

造船業

一、大工業地帯…大工業地帯とは大阪灣沿岸の神戸・大阪等の地方をいふ、かかる地区の一を指して大工業地帯といふなり。

西陣織

京都

第三章 教材研究の實際

京都に在る絹織物工場と西陣織物工場の内—京都織物會社の遠景と西陣織物工場の作業の規模宏大なる有様を示すものなり、かかる盛大なる工場の數多きを想は、産額の大きな亦を知るべきなり。

西陣織とは堀河以西一條以北の地所謂西陣地方(應仁の亂に山名宗全の軍即ち西軍の陣地たりしより起り地名)より産出する織物、絹織には綴錦、博多等の帯地、御召縮緬、縞、珍、綾子、薄絹、リボン等、絹織交織は同上のものに厚板、金欄等を加へ種類頗る多く、精巧なること京都の特技たり、絹織の産額は府全部を通して約二千萬圓に達し福井縣に次ぐ。

染物

種々ある中にて縮緬、モスリン等に優美なる模様を染出せる友禪を最とし是亦京都の特産なり。今日は屏風、額面、窓掛等にも利用せられ工場三百職工九千に達し年産額六百三十五萬圓に上れり。

陶器業

主に清水焼(磁製青華)粟田焼(陶製粉書)にして五條坂と清水阪を主産地とし起源共に古く今や研究の術益進み高雅の域に入り年産額も百四十萬圓に達せり。其他漆器、刺繍、玻璃器等所謂美術工藝品亦名あり。

神戸 マツチ 造船

附近各種の工業品の産出多く中にも川崎(棟名)一七、五〇〇噸、伊勢三、二六〇噸の戦艦)三菱兩造船所の船艦の建造、マツチの製造は盛に産額二千百萬圓に達せり。

媒介業

大阪

神戸 内外の商業繁盛。

京都

商業は日本全國に冠絶し、倉庫、取引所、金融機關等盛大にして取引極めて活潑なり。商業組合數、組合人員多く商品賣上高卸賣小賣の高多きこと全國第一、取引所は堂島米穀取引所、株式、三品(綿絲、棉花、白木綿)油の取引所あり、市場亦多く天満青物市場、西區の雜魚市場を最とす、會社の數亦多く外國貿易も近時非常に發達せり。
水陸交通を便にして商業盛に行はれ關西貿易の權を收む、銀行、會社、工場等は總て海外取引を中心として經營せらるゝ狀況にて其勢すさまじ。
商業は主として美術工藝品の原料を入れ此等製作品を賣出すにありて眞の商業なるものを見ず店舗の大なるものなきも之が因をなせしなり。

近畿地方の工場(綿絲紡績其他の分布)

社名	工場名	工場所在地	錘數若くは製產高
大日本紡績株式會社	木津川、天満、福島、平野、住吉、津守、一宮、明石、神崎、尼ヶ崎、高田、郡山、大垣、野田其他	大阪府下、兵庫縣下、奈良縣下、大垣市其他	精紡錘 五六七、七三四本 織機臺數 三、九一九臺 製絲(綿絲) 三二五、〇〇〇捆 年額(綿布) 一四八、〇〇〇反
福島紡績株式會社	本社工場、飾磨	大阪府下	錘數 一七、八四〇
天満織物株式會社	本社工場及城北	大阪府下	錘數 二〇、七五二
大阪莫大小紡績株式會社	本社工場	大阪府下	錘數 一七、二八〇
岸和田紡績株式會社	本社工場、野村、春木	大阪府下	錘數 三四、四九六
東洋紡績株式會社	三軒家、四貫島、桑名	大阪府下	錘數 一〇、〇四八
鐘淵紡績株式會社	兵庫、高砂、洲本	大阪府下	錘數 一二四、二九六
日本窒素肥料會社		神戶市及兵庫縣下	錘數 一〇四、七二八
日本硝子會社		大阪府下	錘數 二九、〇五六
日本含蜜製造會社		大阪府下	錘數 一五八、五四八
宇治川電氣會社		大阪府下	錘數 三〇、九四八
		大阪市土佐堀	資本金 一〇百萬圓
		大阪市北濱町	資本金 三百萬圓
		大阪市東區京橋	資本金 五百萬圓
		大阪市曾根崎町	資本金 五百萬圓

住友鑄銅所
日本製布會社
京都織物會社
日本毛織會社
東洋燐寸會社
川崎造船會社
神戶製鋼所
旭硝子會社

五都邑

大阪市島屋町	同	六百萬圓
京都府紀伊郡	同	一、五十萬圓
京都上京區吉田町	同	二、五十萬圓
神戸市西出町	同	五十萬圓
神戸市京町	同	四十萬圓
神戸市川崎町	同	二〇十萬圓
神戸市脇濱町	同	五十萬圓
尼崎市	同	二十萬圓

彦根…地方商業地。
長濱…縮緬の産地。

滋賀縣

大津…縣廳、三井寺、交通の要地。

比叡山…延曆寺

琵琶湖東の平野の中央の要都、井伊氏三十五萬石の舊城下、其の別館樂々園は今も旅館の園たるも其の昔を偲ぶに足る湖の東岸に立ち濱縮緬の名風に聞え毎年百三十萬圓内外を産し多くは京都市に振出せらる、南方の平野には麻の栽培盛に麻布の製織風に開け製出の多きこと府縣中第一なり、近江蚊帳の名遠近に聞ゆるも宜なりといふべし。

所謂津のよき所即ち湖上航路の便に富む、湖南、太湖兩汽船會社の航路の發着地、昔湖岸の物資は舟楫によりて茲地に集り京都市に送られたるなり。今は汽車、疏水の便あり。帝國製麻會社の工場及び長等山三井寺即ち園城寺等名あり。

山上には僧最澄の開きし根本中堂あり阪本迄三十五丁夫れより大津迄二里餘其の阪本なる日吉神社は僧兵の昇きし神

奥の山王なりしを以て名高し。

(後出)

京都府

京都…(別記)

桃山…明治天皇、昭憲皇太后の御陵。

宇治…茶の名産地

紀伊郡堀内村に屬す東は木幡山に連り西は伏見町に接し舊伏見城のありし所南は宇治川巨椋池に臨み最高所を桃山と云ふ桃樹多く植ゑしを以て此名あり、御陵は城址の小丘の中腹を占め眺望雄麗真に御陵にふさはし。

宇治の茶摘—茶摘女は當季節には近縣各地より集り來る、茶畑の上に簀を蔽へたるは日除にして茶芽を軟く伸ばし之を摘みて玉露を製するに供す。向ふに見ゆる山の東山式の山容と茶樹の繁茂せるとは注意すべし。

大阪府

大阪…別記

堺…各種の工業品を産す。

尼崎…近年工業發達し附近清酒を産出す。

神戸…縣廳、大開港場、船舶、紡績、マツチ、麥粉の製造多し。人口五十萬設備整ひ船舶の出入横濱を凌ぐ。

大阪港の棧橋—築港の棧橋に大汽船が横付になれる所棧橋の長さは二百五十間、巾十五間、水深は干潮時二十八呎を保たしめ前面には長さ千四百九十二間(北)と千八百五十五間(南)の突堤を以て限り又淀川流出の泥沙の沈澱を防ぐ爲め新淀川を開鑿して濁水を港灣外に放出す。

尼崎は近時工業地として長足の進歩をなし綿絲、硝子、亞鉛、機械等の製造工場あり、灘地方即ち御影、魚崎、西宮等は伊丹と共に清酒醸造を以て古來名をなせり。

神戸港—は北方諏訪山より瞰下したるものにして右方に高く見ゆるは川崎造船所のガントリークレーンにて船艦建造の用に供す、前面に船の多く見ゆる部分は米利堅波止場の沖なり、左方に四個相並びて突出せるは築造中の岸壁にして其の左方長き直線状のものは防波堤なり、工事は明治三

兵庫縣

綿織物、銅等輸出品—綿絲
輸入品—線綿、鐵等。

姫路…第十師團、地方商業地。

生野…銅、銀の産あり。

赤穂…製鹽業に名高し。

奈良…縣廳、奈良盆地の中心

都市、奈良時代七十餘年

間の舊都、正倉院、奈良帝

室博物館、春日神社、東

大寺其他附近の地と共に

史蹟多きを特色とす。

奈良縣

十九年起工十一ヶ年工費千七百萬圓の豫算なり、市は東西
二里七町南北二里四十一町之を神戸、葺合、湊東、湊西、
林田、湊の六區に大別す、海面は小野、湊川、和田の三岬
によりて神戸、兵庫に分たる。

市は播磨平野(加古川、市川、揖保川の諸灌漑地)の米産地
の中央交通の要地に當り地方の需用供給を司る又附近には
綿絲紡績の業盛なり。

但馬國朝來郡に在り三菱合資會社の稼行にかゝる本邦著名
の鑛山なり附近の生野の一萬餘の人口は之によりて生を營
む其の産額は銅約三百萬圓、銀三十萬圓、金七萬圓、錫四
萬圓に達す。

播磨國赤穂郡の赤穂灣に類し濱海一帶製鹽業盛なり古來赤
穂の名世に著はる年産額約一億二千萬斤に達す。

奈良神社は官幣大社春日神社の樓門朱塗にして藤原時代
の形式なり。附近燈籠多く三千餘基に及ぶ神鹿亦多く三々
伍々群をなし樹蔭に遊べり。

市は元明天皇和銅三年(一三三〇年)より七代七十五年間の
名残り神社佛閣に止め旅客の參集するにより賑ふ○正倉
院—孝謙天皇が聖武天皇の七々の忌に當り大佛に奉獻せし
御物無量三千餘點を藏せられし所爾來一千有餘年嚴に存せ
しは誠に美術史上の至寶なり○奈良帝室博物館—國寶たる
古社寺の寶物名家の逸品等奈良時代美術品の粹を集め、衆
庶の縦覽に供す○東大寺—南部七大寺の一、華嚴宗の總本
山、聖武天皇の建立、金堂即ち大佛殿は桁行三十三間、梁間

吉野…後醍醐天皇の行宮の址
櫻の名所。

高野山…佛教の靈場。

和歌山…縣廳
綿ネルを産す。

和歌浦…勝地

黒江…漆器の産多し。

和歌山縣

三十間、棟高二十四間、大佛高さ五丈三尺五寸、面長一丈六
尺、指長五尺、柱は口徑三尺(時價一本二萬五千圓)のもの
六十本○法隆寺—生駒郡法隆寺村に在り亦南部七大寺の一
法相宗の本山、聖德太子の創建、推古時代の寶物多く存す。

大和國吉野郡吉野村に在り、天皇を祀りし吉野宮(官幣大
社)は明治二十五年の創建、行宮の址(吉水院)は今吉水
神社となり、南朝弔祭の靈場とす、御陵は如意輪寺の後丘
に在り。

海拔二千四百尺頂上には高野平にて區域二里半四方に亘れ
る平地ありて百三十の堂坊を滿山に布置す、金剛峯寺は嵯
峨天皇の弘仁七年弘法大師が奉勅建立、眞言宗古義派の大
本山、構造輪奐建築壯麗眞に無双の淨土たり其他大門、金
堂等亦雄麗なり、往昔盛時には千餘の堂塔ありしと。

和歌山市—紀ノ川(吉野川の下流)の河口に立ち舊紀州藩五
十五萬石の城下、今縣治の中心地、紀州ネルの産地として
名高し、綿ネルは明治の初め普通木綿經絲に絞羽織絲を試
織し之を起毛し、兵用服地の裏地に使用したるに鑑觸す、
爾來陸軍用品として供給し、明治四十年より専門技師を置
きて指導し製品の改良を圖り今日に及べり産出地は和歌山
市、海草、伊都、那賀を主とす、販路は内地は勿論遠く支
那、沿海州、海峽殖民地、蘭領東印度等に及べり。

和歌浦—沖合より玉津島神社の多寶塔と拜殿たる觀海樓と
を望みたる景なり、浦は和歌山市の西南海岸の雜賀崎より
毛見崎に至る間を云ふなり。

海草郡に在り、和歌山を距る南三里、殊に漆器は品質精良、

新宮…木材の集散地、附近に那智の瀧あり。

縣内特産物の一に居り黒江塗と稱す根來塗を傳へてより次第に發達して從業戸數五百、職工六百餘人、年産額七千餘萬圓に及ぶ。

宇治山田…伊勢平野南方神宮の鎮座の地。

我國の宗廟なる兩大神宮の鎮座の地市街は宇治川より宇治橋(五十鈴川)迄一里餘に亘り間の山以南を宇治、以北を山田と稱す、皇大神宮(天照皇大神を祀る、垂仁天皇二十六年九月、今(七年)を去ること千九百二十二年、宇治の笠縫邑より此地に移し倭姫命奉齋し給ふ)は内宮と稱し宇治町の南端五十鈴川の上流に在り、豊受大神宮は(豊受大神を祀り雄略天皇の二十二年九月今を去ること千四百四十一年皇大神宮御鎮座を距ること四百八十二年の後丹波國與佐の麻奈爲より移し給ふ)外宮と稱し内宮を距る約一里山田町の南端に在り、兩宮共に神明造にして茅茨素材、太古の型を存す、宮殿の造營は天武天皇の御宇式年を定められ二十年毎に之を改造し其制今に至りて更ることなし。

津…縣廳、伊勢平野の中心地。

四日市…開港場、綿絲、綿布

藤堂氏三十二萬石の舊城趾は西偏に在り。「伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ」の俗語ありて古來伊勢第一の要都、津、湊子、阿漕焼、竹細工の名産あり。伊勢海の開港場にして神戸、横濱間第一の商港なり、水陸

三重縣

の産多し。

附一 京都市

位置…京都盆地の北部に位し、賀茂川(淀川の支流)に跨り東京を距る汽車行程凡そ十一時間。

の便に富み盛大なる會社、製造場あり百貨幅廣し商業の盛んなること縣下第一なり、主なる物産は綿織布(天竺金巾の類)紡績綿絲、菜種油、油糟、染物、陶磁器、人造肥料も亦名あり。

人口…約六十萬

三方山を繞らし賀茂川(貴船山中に發し高野川を容れ桂川と合す、數多の架橋あり)市の東部を貫流し、所謂山河襟帶の地、南北凡そ二里、東西凡そ一里半、面積約二方里、上京、下京の二區に大別し市坊の數千六百八十九、東京、京都間三百三十九哩(三百二十里)特急、朝八時三十分東京驛發午後七時三十分(三十分)普通、夜十一時東京驛發翌日午後二時三十分(三十分)普通、夜十一時(三十分)戶數九萬一千餘、人口五十九萬九千三百八十、我國第三の都會。

繁榮の要素

舊帝都…京都御所

御苑の稍中央に位し牆壁を繞らし四門を通ず、其地域東洞院より舊萬里小路に至り、鷹司より一條に及び東西百三十七間、南北二百四十六間餘とす、更に内廷に門ありて中に紫宸殿、清凉殿、宣陽殿、常御殿、其他數多の宮殿は深宮と相連れり、現時の御所は安政元年の炎上後、同二年の造營にかゝれり。

二條離宮

舊二條城にして徳川氏の築造せるもの城域の總面積八萬三千坪、廓内面積六萬二千三百坪、宮殿建坪二千八百坪、天明の火災に類焼したりしを明治二十六年桂宮の建物に移されたるなり。

社 寺…平安神宮

平安神宮 中央の大なる建物は大極殿にして正面に長欄あり左右に石階あり、参拜者の通路なり、表通りに十二本の柱の列べるは五十二の丹楹の一部なり、屋は鮮麗なる碧瓦にして、棟の兩端には金銅の鷗尾相輝く、殿の左右には歩廊長く通じて、其終端各一箇の高樓あり、東は蒼龍西を白虎と云ふ、其規模往古の大極殿に模したるものなり、殿前の兩側に見ゆる樹木は向つて右は左近櫻にして、左は右近橋なり、神宮の本殿は大極殿に隠れて見えず、毎年四月十五日勅使参向して祭儀を行ふ。明治二十八年平安神宮大社に列せらる。

北野神社

北野神社 紙屋川の畔に立ち菅公を祭れる官幣中社なり、本殿は特別保護建造物にして八ツ棟檜皮葺の華麗なる祠堂なり、社前に靈元天皇の寄附を以て名高き一對の石燈籠を創設にして、現今の社祠は慶長十二年豊臣秀頼の改造する所、五十一年毎に之を修營するを例とす。

智恩院

智恩院 浄土宗鎮西派の總本山、華頂山大谷寺、開祖は法然上人(源空)創建は建永年中、山門は徳川秀忠の建立、特別保護建造物、本堂は梁行十九間桁行二十四間、其廻廊の檼は俗に鶯張りと呼ばれ、左甚五郎の作と傳説す、經藏、廊の椽堂は共に保護建造物なり、毎年四月御忌の大法會は即ち勢至然上人の法要を修するものにして、京洛の士女綺羅を競ふ、之を御忌の衣裳くらべと云ひ頗る美觀なり。

本願寺

本願寺 真宗本派の大本山にして信徒の多きこと海内第一、開祖は親鸞上人の女覺信尼、堂宇甚だ偉大、横二十三

學 術…帝國大學

皇室博物館

間半縦二十一間半高十三間、飛雲閣(豊臣秀吉が聚樂邸の遺物)四脚門(檜皮葺、彫刻精緻左甚五郎の作)は共に特別保護建造物として名あり。東本願寺 真宗大谷派の大本山、開祖教上人慶長七年の營造今の堂宇は明治二十八年の竣工、横三十五間縦三十二間高十一間餘宏壯偉大京中第一の大伽藍。

京都帝國大學 大學院、法、醫、工、文、理科大學には學生生徒の數二千五十餘名、外に附屬圖書館と醫院を設く。

京都皇室博物館 平安朝時代の繁榮を代表せる美術工藝の逸品を蒐集し衆庶の觀覽に供す。

その他第三高等學校、師範學校、府立第一中學校、同第一、二高等女學校、同醫學專門學校、市立美術工藝學校、同繪畫專門學校、同染織學校、同第一、二商業學校、同盲啞院、府立圖書館等あり。

西陣織、友禪染、陶器の製作。(前出)

第十六師團司令部、歩兵第十九旅團、歩兵第三十八、騎兵第二十、野砲兵第二十二の各聯隊、工兵第十六、輜重兵第十六の各大隊あり。

京都府廳、市役所、六警察署、監獄署、地方裁判所、區裁判所、小林區署、稅務署等あり。

桓武天皇の延暦十三年十月都を奠めしより千二百二十餘年の久しきに亘り、帝都の地たるを以て世の變遷と共に盛衰を來し興廢を告げ、各所に其名残を止むるもの多し、市の内

政 治…府廳及附屬行政官署

軍 事…第十六師團

美術工藝…帝國第一

沿革…桓武天皇以來の帝都として名所舊蹟に富む。

附二 大阪市

位置…淀川の下流に跨る港市

人口…凡そ百五十萬を有する我國第二の
大都會。

繁榮の要素

外には此等の舊蹟又は名所到處に散在し、東山の銀閣、
大文字山、南禪寺、圓山公園、清水寺、豊國神社、三十三
間堂、八阪神社、北山の金閣、三尾の紅葉、西山の御室、
嵯峨、嵐山の櫻等著名なるもの頗る多し。

大部は淀川(加茂、桂、宇治、木津等の合流)の下流なる三
角洲上に立ち古來舟楫の便に富み盛大なる開港場を有し、
我が國貿易上有利の地位に在り。

人口百四十七萬、戸數二萬八千、一戸當人口五・三
面積一三・七方里、廣袤東西二里十九町、南北二里二十四町。
管轄—東、北、西、南の四區に分つ。

大阪市の一部 大阪市街の略中央に位する四ツ橋の電車交
又點又長堀川と西横堀川と交る所に四箇の橋梁を架し其の
狀恰も井字を爲せるを以て名づく四ツ橋の東通を心齋橋筋
といふ商家軒を列ね最も繁華の地とす、市街繁華往來難踏
せる様を示したるなり。

商業の一大中心地

産業

一年の取引高 貿易額—二億二千四百萬圓、輸出一億四千
二百萬圓、輸入八千二百萬圓。
輸出品—綿織物(三・四・八三萬圓)綿絲(二・五・四四)銅器(九・
二二)メッキ(五・五・四) マッチ(三・三〇) アンチモニー
(一・九五)硝子器(二・九三)
輸入品—金屬類(二・八・六七)眞鍮(一・三・九九)鉄(四・
八〇)鐵材(二・七・七六)線綿(二・五・三五)野蠶絲(一・七・七六)モル
ヒネ(一・三・三六)麻類(一・一・八)曹達灰(〇・九一)

大工業の中心地

會議所
取引所(堂島米穀、株式、三品、油の四ヶ所)
市場(青物、魚類等十數ヶ所)

官立の造幣局、砲兵工廠、大阪鐵工所(櫻島、安治川口、
天保山、尼崎の工場)亞鉛工業會社(西島、安治川、尼崎の
工場)紡績工場(數多)綿織物工場、肥料會社、住友鑄銅所、
電氣分銅、製鋼製鐵、染料製造等ありて工場數一、七四
六、職工九七、八〇九、烟突の六十尺以上のもの約七百本あ
り其の盛大想像に餘りあり。

政治… 大阪府廳の所在地
第四師團の所在地

大阪府廳、地方裁判所、大阪控訴院、稅務署、稅關等。
第四師團司令部、歩兵第七旅團、歩兵第八、三十七聯隊、
騎兵第四聯隊、野砲兵第四聯隊、輜重兵第四大隊、第四軍
樂隊、地方幼年學校、衛戍病院等あり。

交通… 鐵道は東海道線、關西線等通じ
近海航路及び支那印度歐米濠洲
等の外國航路。

東海道線 東京—大阪—神戸。城東線 大阪—天王寺—湊
町。關西線 湊町—天王寺—名古屋。南海線 難波—和歌
山市(四〇・〇)。高野鐵道 沙見橋—紀ノ川口(二八・九)。
内地各港間 上海線 大阪—神戸—上海。青島線 仁
神戶—宇品—門司—青島。天津線 神戸—門司—天津。仁
川線 下關—釜山—馬山—木浦—神戶—仁川。大連線 仁
浦。宇品—門司—大連。安東線 神戶—門司—仁川—鎮南
浦。清津線 神戶—宇品—門司—釜山—元山—西湖津—新
大阪。清津線 神戶—宇品—門司—釜山—元山—西湖津—新
神電氣鐵道、大阪電氣鐵道、京阪電氣鐵道、阪神急行電鐵會社、阪

設備… 棧橋、防波堤等完備、電車縱橫
に通ず。

第三章 教材研究の實際

沿革…古來大阪城の名を以て名高く又商業交通の一大中心地として知らる。

夙に浪速津の名ありしも仁徳天皇の奠都、豊臣秀吉の築城以後の繁榮なり、徳川時代に航路を全國に開き、米穀取引の中心地となり、商業勃興し、明治に至り、商業益盛大に赴き、潤澤なる資本と相待つて工業も發達し、益商業發達して、内國は勿論東亞一帯を其勢力範圍に包含するに至れり、隨て各種事業亦勃興するに至りしなり。

第六 中國地方

一 境城

位置…本州の西部に在り。

廣袤

面積…圖上の實習

四周

區分…行政上五縣

名稱の由來—上方(近畿地方)と下筋(九州)との中國の義なるべし、古は畿内以西をすべて西國と稱したりしが、足利時代に上方、下筋に對し、中國の名稱起り今日に及べり、今日の範圍は種々ありしも山陰道中の諸國をも中國と稱すること敢て當らずとも歴史の上は山陽諸國と關係を保ち地形上亦併せ説くを便とするを以て今日の如く説くを便とす。東西九十里、南北四十五里。面積二千五百三十三方里五五、人口五百二十三萬六千餘、一方里當二千五百人。

縣名	縣廳所在地	管轄區域
山口縣	山口町	周防六郡、長門一市五郡
島根縣	松江市	出雲一市六郡、石見六郡、隱岐四郡
鳥取縣	鳥取市	因幡一市三郡、伯耆三郡
岡山縣	岡山市	美作五郡、備前一市六郡、備中八郡
廣島縣	廣島市	備後二市九郡、安藝二市七郡

二 地勢

中國山脈…東西に走りて此地方の大部を占む

山岳

白山火山脈—大山最高なり、…、丘陵起伏多し

河川

瀬戸内海…旭川、大田川の下流に小平野開く。日本海…江ノ川あるも平地少し。

瀬戸内海方面—港灣島嶼に富む。

中國山脈の主軸は、山陰、山陽の分水嶺をなし、冠岳及び數多の三國山(三國境上に立てるもの)を起せども五千尺に達する高峯なく、支脈と其高さを同じうす、此本支脈、域中に堀起連亘して高嶺性の地形を爲す、其の山骨には花崗岩の露出多く之が風化作用により崩壊し、土砂を平地海岸に流出し白砂青松絶景の基をなせり。

米子海岸より大山を望むは日野川の流域地と海水との經濟的發達の要所たるを示さんとするに在り、圖中の海面は中海、水邊の家屋は米子海岸通り、右方の松林は公園、中央の山は白山火山脈中の高峰(五千六百餘尺)伯耆富士の名ある大山なり、當地方に於て、人目をひく事、東海道に於ける富士の如し、頂上の眺望は頗る雄大、山麓の廣大なる裾野は牧畜盛に行はれ、毎年日を定めて牛馬の市を開き其大山村には軍馬育成所あり。

旭川一名西大川は美作の西北部より發源し、岡山市を貫流し、兒島灣に注ぐ。大田川は安藝の西部を潤ふし廣島市を貫流し同名の灣に入る、旭川と共に重要なり。

江ノ川は中國第一の大河にして源を廣島縣に發し三次の盆地の水を集め中國山脈を横斷し、屈曲數十回にして日本海に注ぐ、長さ五十餘里舟楫の便は三次以下とす。

は其生因之を然らしむるものなり、島嶼は陥没を免れたる殘骸にして又所々に火山岩の噴出にかゝるものあり、瀬戸内海の範圍は舊時は淡路島以西を指し、大阪灣を含まず、